

大阪市立自然史博物館館報

40

(平成26年度)

大阪市立自然史博物館館報 40 (平成26年度)



ANNUAL REPORT

of the
Osaka Museum of Natural History
for the fiscal year of 2014
Nagai Park, Higashi-sunniyoshi-ku, Osaka, 546-0034 JAPAN
Issued : June 5, 2015.



〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1番23号
大阪市立自然史博物館
平成27年6月5日発行



目 次

巻頭言	1
第45回特別展「ネコと見つける都市の自然」	3
大阪自然史フェスティバル2014	4
自然史博物館の研究活動	6
新たに寄贈された重要文献	8
調査研究事業	11
資料収集保管事業	27
展覧事業	36
普及教育事業	42
広報事業	52
刊行物	55
連携(ネットワーク)	56
庶務	58
資 料	

巻 頭 言

館 長 山 西 良 平*
主任学芸員 佐久間 大 輔

21世紀を迎えるにあたって、日本博物館協会は「対話と連携」をキーワードとする新時代の博物館運営指針¹⁾を策定して実践を呼びかけ、その後の国内の博物館の事業・運営の改善に少なからずのインパクトを与えてきた。この指針は①館内での対話、②館同士の「対話と連携」、③学校・家庭・地域社会の連携を柱としたものであるが、当時すでに、「生涯学習社会において増大する市民需要と貧困な博物館資源という運営のディレンマを打破するための対応策」を迫られていたという時代背景があった。指針が発表されてから15年間、各地の博物館は展示に工夫をこらし、さまざまな教育イベントを開発し、来場者サービスに気を配り、各方面との「対話と連携」を強めるなどの努力を続けてきた。その結果、日本の博物館は全体として「固い施設」から「親しみやすい施設」に変容しつつあると言える。

しかし、「貧困な博物館資源」という状況に改善の兆しはなく、ほとんどの博物館の運営は予算・人員の面において依然として厳しい制約の中にある。さらに指針が出されて以降、次のような状況の変化もみられる。

- 経済成長期に建設された多くの館園においては、施設の老朽化と常設展示の陳腐化に直面している。
- 公立博物館の経営形態の選択肢が大幅にひろがっている。2000年当時、すでに国立の博物館の独立行政法人化が進められていたが、その後、地方自治法の改定により指定管理者制度が導入され、さらに2013年10月には地方独立行政法人法施行令が改定されて公立博物館も独立行政法人による運営が可能となった。
- 「親しみやすい施設」を目指して多面的な事業や市民サービスを実施するようになった結果として、単なるビジター（展示観覧者）ではなく、博物館をさまざまな角度から利用しようとする多様なユーザーが出現し、そのニーズに応えるためのノウハウや体制整備が必要となっている。

一方で、「対話と連携」の3本の柱の実践が現場において深められ、下記のようなさまざまな事例に基づく経験の蓄積が進んでいる。

①館内での対話

職種を超えた横断的な対話に基づく館運営、全職域による事業評価、友の会やヘビーユーザーと館職員による博物館コミュニティの形成、博物館密着型NPOとの連携など

②館同士の「対話と連携」

日本博物館協会の公益法人化、地域における館種を超えた連携、同一館種による広域連携など

③学校・家庭・地域社会の連携

学校教育支援(博学連携)の取り組みと経験交流、博物館のシンクタンク機能の発揮と行政的課題への貢献、地域コミュニティへの参画など

このような変化の中で、日本博物館協会は昨年(2014年)1月および今年3月の2回にわたって「対話と連携の博物館の総括」と銘打った研究協議会を開催し、新しい指針策定を目指した論議を続けている²⁾。私たちも科研費の補助を得てこの流れに合流し、次の3テーマに絞った分析・検討を行なっている³⁾。

1. 公立博物館の地方独立行政法人化における問題点の抽出と対応策の検討

大阪市による「法人化に向けたプラン」を分析することを通じて独立行政法人制度のもとでの公立博物館(群)の経営・運営のあり方について博物館学的な立場から検討を深める。

2. 多様なユーザー、サポーターと博物館とをつなぐ密着型NPOの役割の解明

「館内の対話」を深化させた事例として、大阪市立自然史博物館とNPO法人大阪自然史センターとの連携についてレビューする。

3. 全国の博物館友の会など博物館関連NGOsの実態把握と情報共有

博物館コミュニティ形成のキーとしての友の会の果たすべき役割を浮き彫りにするとともに、館相互の対話が進む中で必ずしも十分には進んでいない館のまわりのコミュニティ相互の対話の可能性を追求する。

本研究においてそれぞれの博物館が地域において博物館コミュニティを形成することが「増大する市民需要と貧困な博物館資源という運営のディレンマを打破」する力となることを明らかにし、研究成果が新たな博物館運営指針の策定の基礎となることを期待したい。

*平成27年3月31日退職

¹⁾財団法人日本博物館協会(2000)「対話と連携」の博物館－理解への対話・行動への連携－【市民とともに創る新時代博物館】、文部省委嘱事業「博物館の望ましいあり方」調査研究委員会報告、86pp.

²⁾佐久間大輔(2014)平成25年度研究協議会テーマ2「多様化する博物館の理念と制度『対話と連携の博物館の総括』(1)」について、博物館研究49(6):13-17.

³⁾科学研究費助成事業 基盤研究(C)、課題番号26350396「対話と連携の博物館の総括」の実践的総括に基づく博物館運営の新たな指針の構築に向けて、平成26-28年度、研究代表者 山西良平

ネコと 都市の自然

見つける

一家の中から公園さんぽー

Looking for Urban Nature from a Cat's View

平成26年 7月 19日(土) ~ 10月 13日(月・祝)



◀ 黄金御殿



▼ 展示室入り口



▲ 巨大ゴキブリ
リホイホイ



▲ セミの抜け殻展示

過去と現在の
大阪市内の水
田面積を示し
た床張り展示



▲ 入って虫をさがせる部屋



▲ 公園の植物の展示



大阪自然史フェスティバル2014



大阪自然史フェスティバル2014 (主催：自然史博物館・認定特定非営利活動法人 大阪自然史センター・関西自然保護機構) は「関西文化の日」として無料開放中の自然史博物館を会場として2014年11月15日、16日に、出展団体数108、ブース数100、入場

者総数23,300人を集めて開催された。自然史フェスティバルは大阪周辺で活動する自然科学関連のアマチュア、市民団体、関連機関、関連産業など産・官・学・民が協力し、広く自然科学の楽しさと自然の価値を伝える「自然の文化祭」として定着している。



▲ 自然史フェスティバル2014の会場風景。出展者も参加者も、年齢、性別、経験値が非常にバラエティに富んでいるのが特色。

今回のフェスティバルは、出展企業などによる協賛金と、一部は二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(地域における草の根活動支援事業)による支援事業により実施された。里山など自然の理解を促す

教育プログラムがより充実し、薪ストーブペレットなど新たな利用に関わる展示やシンポジウムが開催された。(図はいずれも自然史フェスティバル2014の催事風景)



自然史博物館では、これまでも大阪自然史センターや日本野鳥の会大阪支部と連携して3回のバードフェスティバル、その他の小規模フェスティバル2回

を含め11回実施してきた。この蓄積は大阪の自然関連団体の活性化と博物館との連携強化におおきく貢献している。

ホネホネサミット2014



3度目の開催となる脊椎動物標本作成者の交流イベント「ホネホネサミット2014」は2014年10月12-13日に開催(13日は台風により中止)された。市

民の学術交流拠点としての大阪市立自然史博物館の役割は全国的にも重要視されている。(図はホネホネサミット2014より)





自然史博物館の研 活 活 動



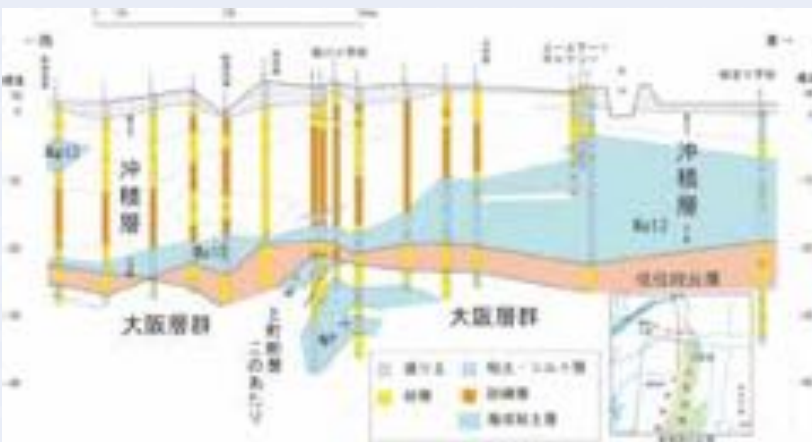
博物館における調査研究は、博物館活動の根幹をなすものである。展示や資料収集、普及教育活動も調査研究との双輪をなしてこそ、その意義や成果が高まる。

自然史博物館では開館当初から学芸員の調査研究の推奨し、その活動に反映している。また、科研費申請機関としての指定や国内外の研究者・機関との共

同研究、外来研究員制度など、制度面からも研究活動を支援できるようにしている。個々の学芸員の研究成果や科研費などの競争的資金の状況については、11ページ以降の「調査研究事業」に譲るが、ここでは近年の科研費など競争的資金において行われた研究について、そのいくつかを紹介する。



▲ 干潟は高度経済成長期にその多くが失われた。開発が進む以前の干潟環境を知る一つの手がかりは博物館の標本である。干潟性生物の標本を国内外の博物館で探索し、生物相の変遷の再構築を試みた。大阪湾や東京湾などの都市圏海域は現存標本が多く、環境の変化をたどることができた。写真は堺産ハイガイ(1900年代前半か・国立科学博物館蔵)と横浜産コオキナガイ(1889-92年・フィールド博物館蔵)。両種とも同海域での近年の記録はなく、貴重な標本記録である。科研費若手研究(B)「博物館標本から再構築する日本の干潟生物相の変遷とその保全への活用」(研究代表者:石田 惣;課題番号:23701025)より。



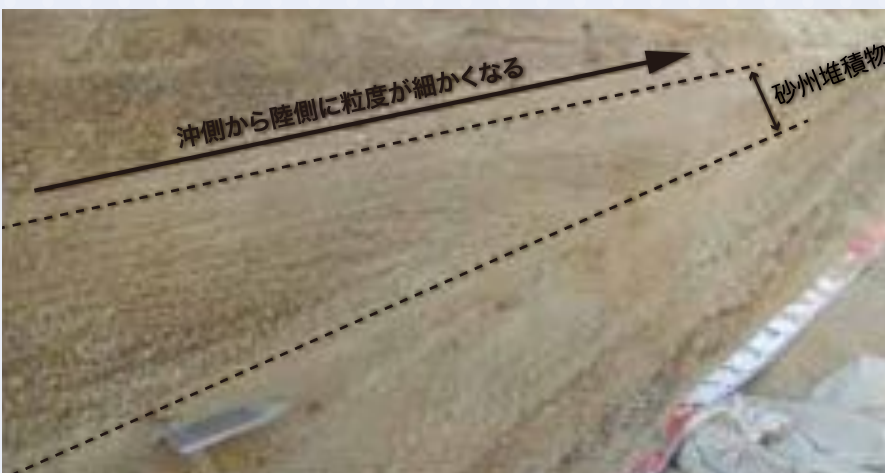
▲ 博物館に収蔵されているボーリング標本を調査して地質断面図の作成を行い、大阪平野地下の地質層序や構造の研究を行った。左図はボーリング標本調査を元に作成した大阪市北区～都島区の地質断面図である。このような地質断面図を大型プリンターで印刷し、ボーリング標本と組み合わせて小中学校向け貸し出し標本として活用し(右図)、小中学校理科の授業を支援した。公益財団法人日本科学協会平成25年度笹川科学研究助成実践部門(奨励賞受賞)「博物館所蔵のボーリングコアをつかって大阪平野地下の地層をさぐる—地学分野の学校向け貸し出し教材の開発・運用と防災教育への展開—」(研究代表者:石井陽子、研究番号:25-821)より。



◀ 2012年頃から大阪で確認が相次いだアカハネオンブバッタ(写真)は、市民との共同の分布調査により、近畿地方の平野部に広く定着していることが明らかとなった(<https://www.google.com/maps/d/edit?mid=zZcKFWqC2Reg.kat0QoCtgpdw>)。南西諸島及び台湾でサンプリングを行い、COI、ITS2領域の塩基配列を比較したところ、少なくとも移入個体群の一部は台湾産のものとも一致することが明らかとなった。科研費基盤研究(C)「アカハネオンブバッタの移入・拡散の実態と在来オンブバッタに与える影響の解明」(研究代表者：松本吏樹郎；研究課題番号：26430209)より。



▲ 変動帯である日本において避けることが出来ない地震や火山噴火などの地質災害に対する市民のリテラシー向上のために、地質現象の「見える化」実演実験プログラムの開発に取り組んだ。地震は地下における断層現象が本質であるので、プラスチック水槽と小麦粉とココアで作った地層を使った「逆断層のモデル実験」を紹介した。その後改良を加えて、「正断層のモデル実験」と「褶曲のモデル実験」を開発し、博物館入館者を対象としたジオラボにおいて公開実験を行った。科研費基盤研究C「博物館資料を活用した地質現象の『見える化』実演実験の開発とその博物館学的意義」(研究代表者：川端清司；研究課題番号 22601017)から。左は逆断層のモデル実験(平成23年3月開催)、右は褶曲モデル実験(平成26年3月開催)。



◀ 大阪市浪速区の恵美須遺跡において、台風により形成された海浜堆積物が見いだされた。海浜堆積物中には、沿岸州が陸方向に移動し、最終的に前浜に乗り上げていった様子が見て取れ、同時にその堆積物は陸方向に細粒化する(写真)。これはおそらく台風による暴浪の減衰期に陸方向への堆積物運搬が活発だったことを示している。科研費基盤研究(C)「現世および考古遺跡における高潮・越波堆積物の認定と津波堆積物との比較」(研究代表者：中条武司；課題番号：25400494)より。

新たに寄贈された重要文献

大山桂貝類学文庫

鳥羽水族館（三重県鳥羽市）では、大山 桂博士（1917-1995）収集の貝類学文庫を所有している。大山博士は海軍省マカッサル研究所（太平洋戦争中にインドネシアに置かれていた日本の科学研究機関）などを経て、戦後に地質調査所の調査員となり、退官後は鳥羽水族館の研究員を務めた貝類学者である。文庫は博士が自身の研究のために個人で収集した膨大な貝類学の書籍・学術雑誌からなる。18～19世紀の西洋で発刊された貝類図譜を初めとして、この分野の研究に欠かせない重要な文献が網羅されており、貝類学では東アジア最大級の文庫である。

博士の没後、文庫は鳥羽水族館が保管していたが、長期保存により適した環境に置くとともに、調査研究・普及教育目的での利用を促進するため、この度一

括して当館に寄託された。分量は書架延長で約270メートルに及び、現在一般収蔵庫内で保管している。当館では今後、整理を進めながら文庫の目録を作成していく予定であり、調査研究目的での閲覧希望には随時可能な範囲で対応していきたいと考えている。

なお、今回の寄託を受けて、文庫の中から代表的かつ貴重な文献を紹介するミニ展示「大山桂貝類学文庫の貝類図譜」を平成26年10月18日（土）から11月9日までナウマンホールで開催した。



▲ 図1：大山桂博士



▲ 図2：Neues Systematisches Conchylien-Cabinet (F. H. W. Martini and J. H. Chemnitz, 1769-1829) ドイツで18世紀から19世紀にかけて発刊された、全12巻からなる貝類図譜。国内の図書館や研究機関には収蔵されていない、極めて貴重な図書。



▲ 図3：Index Molluscorum Maris Japonici (W. Dunker, 1882)：ドイツの地質学・貝類学者ドゥンケルがまとめた、日本の海産貝類のモノグラフ。約3000種が掲載され、日本の貝を研究する上で欠かせない文献の一つ。



◀ 図4：当館での収蔵状況（一部）



▲ 図5：ミニ展示の様子

磯野直秀氏収集博物学関連文献資料「磯野文庫」

磯野直秀氏は慶応義塾大学経済学部生物学教授として、永年学部学生の生物教育に携わる一方、エドワード・モースをはじめとする明治のお雇い外国人など、生物学史の研究、江戸期の本草学などの研究を進め、我が国の生物学史、博物学史研究の第一人者であった。その成果は2012年に「日本博物誌総合年表」として結実している。

今回寄贈された書籍及び関連資料は日本人の自然認識の歴史を追った磯野氏の研究の基礎となってい

る。磯野氏は東京国立博物館や国立国会図書館を利用して研究をしていたが、この磯野文庫には磯野氏が個人所蔵の文献類の他に、上記の機関などから研究のために複製した資料(図2)、35mmスライドフィルム及びデジタルデータ、研究ノートなどからなる。中でも詳細なメモや付箋、追記がなされた「年表日本博物学史」(上野益三1989年)、「日本博物誌年表」(磯野2002年)など(図3)は、研究の経過や背景を知ることができる重要資料といえる。



▲ 図1：本草関係の研究書類



▲ 図2：各専門図書館から取り寄せた複製資料



▲ 図4：研究の経過をたどることのできるノートファイルと参考資料群。



▲ 図3：書き込みがされた旧版の日本博物誌年表

今回の資料は博物学史だけでなく、民俗学、文化史、園芸史、近代生物学史などを含み、野生植物から栽培種、昆虫、鳥、獣、両生は虫類、貝、魚、鯨など多岐に及ぶ。「お雇い外国人」の関連資料も多く含んでいる。この資料群は磯野裕子氏らご遺族の希望で大阪市立自然史博物館に寄贈されることになった。関連研究者の活用を望んでいる。

椿関連文献資料「岸川椿蔵書」



▲ 図1：ケンペルの「廻国奇観」に描かれた椿



▲ 図2：江戸の園芸書草木奇品家雅見 そつもくきひんかがみ



▲ 図3：古典洋種椿を描いたプレート類



▲ 図4：岸川氏により復刻された資料類



▲ 図5：配架された現代書。海外の椿関連文献も豊富に含まれている。

「岸川椿蔵書」は、コーベカメリアソサイエティ前会長の岸川慎一郎氏が収集した内外の椿関連資料である。内外の椿園芸学の歴史を一望できる国際的文献コレクションとなっている。植物学的にもツンベルグの「日本植物誌」の挿絵集やケンペルによる「廻国奇観」(図1)などがサザンカやヤブツバキの原記載資料として含まれており、重要なコレクションである。またカーティス・ボタニカルマガジンや園芸辞典類などの古典洋書(図2)や、和書としても江戸期の園芸書(図3)などが多く、これらは復刻されて神戸カメリアソサイエティにより公開、刊行され、古典品種の貴重な参考書となっている(図4)。本コレクションはその原資料となる。(参考)

<http://www.hct.zaq.ne.jp/kishikawa/index.htm>

本格的な調査研究を通じてこそ、質の高い博物館活動が可能となるから、博物館活動の根底に調査研究が位置づけられなければならない。自然史博物館はその50年余に及ぶ活動から、公立博物館としては群を抜く標本や資料の蓄積をもつ。基礎科学分野の研究機関として、これらは重要な社会的使命を帯びるものである。さらに、文部科学省指定の研究機関であり、科研費の申請資格や日本育英会（現：独立行政法人日本学生支援機構）の免除職の適用など、研究機関として一定の地位を確立している。自然史科学研究者が横断的にそろって博物館施設として中核的な使命を持つ博物館でもあり、自然史科学分野の発展のためにも調査研究面での競争力強化とその推進体制の整備が急務となっている。

今年度まで、特別展準備を兼ねた、市民と協同で進める「大阪を中心とした都市の自然プロジェクト調査」を実施してきた。その成果は館で刊行する研究報告や学会誌で公表するとともに、講演会を通じて市民に普及した。

I. 研究体制

学芸員は、館長を除き全員が学芸課に所属し、5部門の研究室で研究業務に携わっている。

館 長	山西 良平 (Ryohei YAMANISHI)	
動 物 研究室	波戸岡清峰 (Kiyotaka HATOOKA)	主任学芸員
	和田 岳 (Takeshi WADA)	主任学芸員
	石田 惣 (So ISHIDA)	学芸員
昆 虫 研究室	金沢 至 (Itaru KANAZAWA)	学芸課長代理
	初宿 成彦 (Shigehiko SHIYAKE)	主任学芸員
	松本吏樹郎 (Rikio MATSUMOTO)	学芸員
植 物 研究室	佐久間大輔 (Daisuke SAKUMA)	主任学芸員
	長谷川匡弘 (Masahiro HASEGAWA)	学芸員
	横川 昌史 (Masashi YOKOGAWA)	学芸員
地 史 研究室	川端 清司 (Kiyoshi KAWABATA)	学芸課長
	塚腰 実 (Minoru TSUKAGOSHI)	主任学芸員
	林 昭次 (Shoji HAYASHI)	学芸員
第四紀 研究室	石井 陽子 (Yoko ISHII)	学芸員
	中条 武司 (Takeshi NAKAJO)	学芸員

平成27年 3月31日現在

II. 研究テーマ

■山西 良平 (館長)

- (1) 日本産間隙生多毛類の分類学的研究
- (2) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相の調査研究
- (3) フナムシの分類学的研究

■波戸岡清峰 (動物研究室)

- (1) ウナギ目魚類各科の系統分類学的研究
- (2) 大阪湾周辺および瀬戸内海海域の魚類相の調査

■和田 岳 (動物研究室)

- (1) ヒヨドリの採食生態に関する研究
- (2) 大阪の都市周辺の鳥類相及び哺乳類・両生爬虫類の調査
- (3) 大和川下流域及び周辺ため池の水鳥の個体数調査
- (4) 播磨灘岸の水鳥の分布調査
- (5) キンバトの食性などに関する研究

■石田 惣 (動物研究室)

- (1) 軟体動物の生態学・行動学的研究
- (2) 博物館標本から推定する生物相の変遷
- (3) 生物映像のアーカイブ化とその活用
- (4) 都市公園の無脊椎動物相と分布
- (5) 大阪湾周辺および瀬戸内海海域の無脊椎動物相

■金沢 至 (昆虫研究室)

- (1) 日本及び東アジア産キバガの系統分類学的研究
- (2) アサギマダラの移動の調査
- (3) ゴケグモ類の分布拡大の研究
- (4) 近畿地方の蛾類記録の整理

■初宿 成彦 (昆虫研究室)

- (1) 新生代の昆虫化石の研究（遺跡の昆虫遺体も含む）
- (2) 大阪府および周辺の甲虫類の分布調査
- (3) セミに関する研究
- (4) カサアブラムシの調査

■松本吏樹郎 (昆虫研究室)

- (1) ヒメバチ科昆虫の寄生習性, 分類, 系統学的研究
- (2) マレーゼトラップによるハチ目昆虫ファウナと季節消長の調査
- (3) 近畿地方におけるハチ目昆虫相の調査
- (4) 近畿地方に移入したアカハネオンブバッタに関する調査

■佐久間大輔 (植物研究室)

- (1) 本郷次雄菌類関連資料のアーカイブ化及び分子生物学的利用
- (2) 里山利用の民俗生態学的研究
- (3) 丘陵地植物群集の景観生態学的研究
- (4) 博物館利用者コミュニティの発達に関する教育学的研究
- (5) 自然史標本の文化財制度及び保存科学

調査研究事業

■長谷川匡弘（植物研究室）

- (1) 顕花植物における花形態の進化とポリネーターへの適応
- (2) 里山環境における開花フェノロジーと訪花昆虫相の特徴
- (3) 希少植物種の保全生物学的研究

■横川 昌史（植物研究室）

- (1) 日本産ハナシノブ属の遺伝構造と集団動態
- (2) 絶滅危惧植物の保全遺伝生態学
- (3) 半自然草原植生の保全と再生
- (4) 海岸植物の分布と海岸植生の動態

■川端 清司（地史研究室）

- (1) 四万十帯・日高帯の緑色岩類の産状と構造発達史上の意義に関する研究
- (2) 白亜紀・古第三紀放散虫化石に関する研究
- (3) 現生放散虫に関する研究
- (4) 地質現象の「見える化」実演実験の開発とその博物館学的研究

■塚腰 実（地史研究室）

- (1) 新生代古植物相の研究
- (2) ヒシ科化石の分類学的研究
- (3) バショウ科果実化石の分類学的研究
- (4) 愛媛県久万層群産果実化石の分類学的研究

■林 昭次（地史研究室）

- (1) 恐竜の生理と生態
- (2) 恐竜の外皮の機能と進化
- (3) 四足動物の二次的水生適応
- (4) 脊椎動物の巨大化と小型化

■石井 陽子（第四紀研究室）

- (1) 大阪平野の第四系の層序と地質構造に関する研究
- (2) 大阪平野ボーリング試料を用いた中・上部更新統の火山灰層序に関する研究
- (3) ボーリング標本を用いた小・中学校理科地学分野の教材開発に関する研究

■中条 武司（第四紀研究室）

- (1) 干潟・汀線などの沿岸域の微地形および地層形成に関する研究
- (2) 遺跡データに基づく大阪平野形成に関する研究
- (3) 再堆積性火砕堆積物に関する研究

Ⅲ. 文部科学省科学研究費補助金を受けて行った研究

1. 当館研究者が研究代表者となったもの

■若手研究（B）

研究課題 研究代表者

海生爬虫類の水生適応：組織学的アプローチから復元する首長竜類の遊泳能力の進化 林 昭次

（3年間継続の1年目） （課題番号：26800270）

○ドイツ・イギリス・フランスの主要な博物館・大学において、三畳紀ならびにジュラ紀の首長竜類の組織サンプルを収集した。

○穂別博物館・中川町エコミュージアムセンターにおいて、白亜紀の首長竜類の組織サンプルを収集した。

○東京学芸大学、金沢大学、ボン大学、須磨水族館、英国王立獣医大学、パリ大学と共同で現生哺乳・爬虫類骨サンプルを収集し、CT撮影を行った。

■若手研究（B）

研究課題 研究代表者

絶滅が危惧される日本産ハナシノブ属植物の集団動態および局所適応メカニズムの解明 横川 昌史

（3年間継続の1年目） （課題番号：30649794）

○北海道各地において、ハナシノブ属植物の標本採集とDNA分析用サンプルを収集した。

○国立科学博物館等の標本庫において、ハナシノブ属植物の標本の検討を行った。

○次世代シーケンサーを使った大規模な一塩基多型解析について情報収集と予備的な実験手法の検討を行った。

■若手研究（B）

研究課題 研究代表者

ママコナ属における花筒長の多様化と送粉者を介した生態的種分化過程の解明 長谷川匡弘

（3年間継続の3年目） （課題番号：24770085）

○和歌山県のオオママコナ分布域及び近縁種のシコク

- ママコナ分布域において訪花昆虫相調査を実施した。
- 和歌山県串本町及び古座川町においてオオママコナの訪花昆虫調査を実施した。
- ママコナ属のサンプルよりDNAを抽出し、系統解析を行った。
- 調査結果について日本生態学会第62回全国大会において公表した。
- 3年間の調査の結果、オオママコナはシコクママコナの主要なポリネーターである長舌マルハナバチ類が極めて少ない環境下で、適応進化したものと考えられた。これらの結果については現在投稿準備中である。

■若手研究 (B)

研究課題	研究代表者
博物館標本から再構築する日本の干潟生物相の変遷とその保全への活用	石田 惣
(4年間継続の4年目)	(課題番号: 23701025)

- 東京大学総合研究博物館、国立科学博物館等が所蔵する無脊椎動物標本の調査を行った。
- 大阪湾、岡山県水島灘沿岸干潟、大分県別府湾周辺干潟等で地形環境及び生物相の調査を行った。
- 国内各地の干潟における過去の生物相及び地形環境に関する文献調査を行った。
- 過去の文献及び標本記録の集約により、大阪府の汽水域・砂浜域における生物相リストを出版した。
- 大阪湾の過去から現在にかけての干潟生物相の変遷を踏まえ、市民参加型調査「大阪湾生き物一斉調査」に対して「巻き貝」の調査テーマを提案し、調査の実施とその結果発表を行った。

■基盤研究 (A)

研究課題	研究代表者
自然史系博物館等の広域連携による「瀬戸内海の自然探求」事業の実践と連携効果の実証	波戸岡清峰
(5年間継続の3年目)	(課題番号: 24240113)

- 市民参加型の観察会や採集・調査の大規模な例として、漁船により漁獲されたすべての海産生物を対象とした観察会を大阪湾の泉佐野漁港で行うとともにその有用性のアンケートを行った。
- 連携研究者の協力のもと、国東半島周辺、水島灘周辺、燧灘周辺、安芸灘沿岸、斎灘沿岸、播磨灘周辺で広く瀬戸内海の生物相の調査を行った。
- 巡回型の特別展で必要とされる、瀬戸内海地形模型や植物、昆虫のレプリカを作成した。
- 標本に基づいた瀬戸内海の魚類のリストを作成するために博物館に収蔵されている瀬戸内海産の魚類について整理を行った。

■基盤研究 (B)

研究課題	研究代表者
アマチュア菌類学のための支援情報基盤と遺伝情報つき地域エキシカータ作成の試み	佐久間大輔
(4年間継続の4年目)	(課題番号: 23300333)

- 本郷次雄菌類図譜は日本の菌類研究上極めて重要な資料である。この資料を整理、公開し、また分子的手法を用いたDNAバーコーディングなどの情報提供などを行なうことでアマチュア菌学の活性化を図るのが本研究の要点である。
- 34冊の標本ノート1500点の画像、6000点の標本の確認データベース化及び論文引用状況のデータベース化を終えた。これらの情報を元に学会発表などで順次公開し、一部の情報はweb公開を試みている。
- 本郷標本はパラホルムアルデヒドによる燻蒸が繰り返されDNAの断片化が進んでいるが、これを1) 短鎖DNAの分析で利用、2) 顕微鏡などによる組織確認などでの利用を進めており、Endo et. al (2014)、遠藤 (2015) など成果も上がっている。
- 同一産地からの標本でのシーケンスするなど、DNAバーコーディングのリファレンス資料整備を進めており、現在データベース登録とレビューを共同研究者らとともに執筆している。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
アカハネオンブバッタの移入・	松本吏樹郎

調査研究事業

拡散の実態と在来オンブバッタに
与える影響の解明

(4年間継続の1年目) (課題番号: 26430209)

- 9月20日～27日の7日間、台湾に出張してサンプリングを行った。
- 10月20日～21日の2日間、島根・鳥取に出張してサンプリングを行った。
- 得られたサンプルからDNAを抽出し、COI、ITS2領域の塩基配列を部分的に決定した。
- 近畿地方を中心にアカハネオンブバッタとオンブバッタの分布調査を行った。
- 市民と共同での分布調査を行い、得られた分布情報はweb上の調査ページで公表した。

■基盤研究 (C)

研究課題 研究代表者

「対話と連携の博物館」の実践的総括に
基づく博物館運営の新たな指針の構築
に向けて

山西 良平

(3年間継続の1年目) (課題番号: 26350396)

- 「公立博物館の地方独立行政法人化に関する研究会」を設立し、公立博物館の経営形態の新たな選択肢としての地方独立行政法人制度をどのように捉えるべきか、またその活用の可能性と留意点について、多くの博物館関係者と検討している。

■基盤研究 (C)

研究課題 研究代表者

生物標本作製作業への市民参加が
生物多様性の意義理解を促進する
効果の測定

和田 岳

(3年間継続の1年目) (課題番号: 26350265)

- 日本各地の博物館施設などにおいて、標本作製を行っているサークル・個人が一堂に会する機会として「ホネホネサミット2014」を開催。
- 「ホネホネサミット2014」への出展者・来場者を対象に生物多様性理解についてのアンケート調査を

行った。

- 大阪市立自然史博物館に蓄積している鳥類死体を対象に、市民参加での標本化作業を実施。参加者に対して生物多様性理解についてのアンケート調査を行った。
- 日本各地の自然史系博物館など鳥類標本を所蔵する施設に対して、鳥類標本の所蔵状況、その材料となる鳥類死体の蓄積状況、その標本化作業の実態のアンケート調査を依頼。

■基盤研究 (C)

研究課題 研究代表者

現世および考古遺跡における高潮・
越波堆積物の認定と津波堆積物との
比較

中条 武司

(3年間継続の2年目) (課題番号: 25400494)

- 三重県松名瀬海岸において、越波堆積物の微地形および堆積物の検討を行った。
- 瀬戸内海地域を中心に、高潮堆積物についての調査を行った。また福島県において、東日本大震災における津波堆積物の検討を行った。
- 大阪市内の遺跡の堆積物の分析作業を行った。

■基盤研究 (C)

研究課題 研究代表者

甲虫化石を用いた最終氷期最寒冷期
における気温低下の推定

初宿 成彦

(3年間継続の3年目) (課題番号: 24570120)

- 昆虫化石の発掘調査を行なった。
- 甲虫類の分布データやその気象データをまとめ、古気候解析を行った。

■基盤研究 (C)

研究課題 研究代表者

教科書を基本とした理科以外の教科
での自然史博物館活用と学校向けツ
ールの調査・開発

釋 知恵子

(3年間継続の2年目) (課題番号：25350411)

- 国語で使える貸し出しキット「タンポポ」と「虫の体」を作成した。「タンポポ」の試作段階では、8月8日に開催した教員向け行事「教員のための博物館」において紹介し、教員から感想・意見を集めて、改良を加えた。次年度の貸し出しキットの改良と評価に向け、教員をメンバーとする貸し出しキットの企画会議を行った。
- 大阪市内の小中学校に採用されている教科書と、自然史博物館の展示や貸し出し資料等との対応表を掲載するなど、博物館のホームページの「学校と博物館」のページを教員に使いやすくリニューアルした。
- 8月8日の「教員のための博物館の日」参加者と秋の遠足の下見に来る教員等に見てもらえるように、特別展「ねこが見つける都市の自然」と学校の教科書との関連を紹介するコーナー展示を作った。
- 博物館のホームページ「学校と博物館」のリニューアル、貸し出しキットについて、博物館のホームページへの情報掲載や、チラシを作成するなどして次年度以降の活用につなげた。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
カビの勝者と敗者を分ける要因は何か？	浜田 信夫

(3年間継続の3年目) (課題番号：24500936)

- 石灰岩帯の他にセメントの粉塵が蓄積している都市公園からも、浴室に多い*Scolecobasidium humicola*に遺伝的に近縁の株が分離された。耐アルカリ性、石けん利用性、界面活性剤利用性、耐熱性のいずれの特性も*S. humicola*の株が保持しているのに対して、この株は多くの生理的に共通の特性を持つものの、いずれか1つか2つの特性を欠いていることが分かった。とりわけ、都市公園由来の株は、界面活性剤利用性についても、*S. humicola*に類似していた。セメントとともに、住宅の近くに移入した*S. humicola*の近縁種の中で、耐熱性などに優れた株が住宅の浴室などに侵入し、定着したと思われる。

2. 当館学芸員が研究分担者となったもの

■基盤研究 (B)

研究課題	研究代表者	当館分担者
日本の博物館総合調査研究	篠原 徹	佐久間大輔

(課題番号：25282079)

- 平成25年度に実施された「博物館総合調査」のデータを元に博物館の現状に関する全国調査の解析を行うプロジェクト。佐久間はこのうち友の会、講演会、ボランティアなどの博物館活動への市民参加に関する研究、博物館学芸員の調査研究活動、SNSなどインターネットの利用に関する研究を分担した。

■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者	当館分担者
博物館植物標本の生存組織を用いた絶滅集団の復元：組織培養法の確立と普及	志賀 隆	長谷川匡弘

(課題番号：26350387)

- 博物館標本にある生存種子を探索し、その組織より絶滅植物の植物体を得て野生復帰を行うための技術、方法論を確立するための研究。長谷川はこのうち、博物館標本の種子の収集を担当した。

IV. 財団等の助成を受けて行った研究

■琉球大学熱帯生物圏研究センター 平成26年度共同利用研究公募成

研究課題	研究代表者
クロボウモドキの集団間の個体群構造と遺伝構造に関する研究	横川 昌史

- 沖縄県西表島のクロボウモドキの生育地において、個体群構造と植生の調査を行った。
- クロボウモドキのすべての自生地から採取した葉を用いて、アロザイム多型の分析を行った。

調査研究事業

■平成26年度 タカラ・ハーモニストファンド

研究課題	研究代表者
草原再生が半自然草原の植生と 土壌に与える影響の検証	横川 昌史

○熊本県高森町の草原再生実験区において、植生調査を行った。

■一般財団法人 全国科学博物館振興財団 平成26年度全国科学博物館活動等助成

研究課題	研究代表者
博物館所蔵ボーリング標本から探る 平野地下の地層：貸出教材の開発による地学教育支援	石井 陽子

(助成金交付番号：14017)

○大阪市立自然史博物館所蔵のボーリング標本を調査し、大阪平野の地下に分布する第四系の層序と地質構造を検討した。その研究成果に基づき、ボーリング標本と展示品の写真パネルを組み合わせた、小中学校の地学分野の貸出教材を開発し、運用を行った。貸出教材を用いた指導案やワークシートを作成して貸出教材の利用を促進した。

V. 海外派遣

■科研費（若手研究B）による出張

氏名：林 昭次

日程：10月22日～11月12日（22日間）

出張先：ドイツ、フランス

目的：首長竜化石の組織学サンプル採取のため

VI. 著作活動

■研究室別報文一覧

大阪市立自然史博物館友の会発行のNature Study誌は、ns.と略記した。当館職員以外の著者には氏名に*を付した。

【動物研究室】

波戸岡清峰（分担執筆）（2014.7）大阪市立自然史博物館第45回特別展「ネコと見つける都市の自然」解説書「都市の自然2014」.大阪市立自然史博物館、

113pp.

波戸岡清峰・石田 惣（2014.11）イギリス海洋調査船チャレンジャー号が1875年に瀬戸内海で採集した魚類. 2014年度日本魚類学会講演要旨：38.

宮越和美*・箕輪義隆*・和田岳（2014.4）三重県津市町屋浜海岸で得られたマダラシロハラミズナギドリ *Pterodroma inexpectata*. 日本鳥学会誌 63：59-62.

和田岳（分担執筆）（2014.4）鳩居. 「岩波科学ライブラリー 広辞苑を3倍楽しむ」岩波書店.128pp.

和田岳（2014.5）大阪府レッドリスト改訂 鳥類から見た大阪府の生物多様性. むくどり通信（231）：10.

和田岳（2014.5）身近な鳥から鳥類学 第20回 巣立ちピナを減らすのは誰？. むくどり通信（231）：11.

和田岳（2014.6）大阪府のレッドリスト改訂 新たな取り組みと残された課題、及び大阪府の水田環境の危機について. 地域自然史と保全 36(1)：21-26.

和田岳（2014.7）大阪府とその周辺ハッカチョウの歴史と現状. ns. 60：86-88.

和田岳（分担執筆）（2014.7）大阪市立自然史博物館第45回特別展「ネコと見つける都市の自然」解説書「都市の自然2014」.大阪市立自然史博物館、113pp.

和田岳（2014.7）身近な鳥から鳥類学 第21回 イソヒヨドリとハッカチョウ. むくどり通信（232）：11.

和田岳（2014.9）身近な鳥から鳥類学 第22回 ヒヨドリの渡りも調べよう. むくどり通信（233）：15.

和田岳（2014.11）身近な鳥から鳥類学 第23回 ヤマガラが下りてくる年. むくどり通信（234）：11.

和田岳（2014.12）大阪府のムクドリ集団ねぐらさがし. ns. 60：163.

和田岳（2015.1）身近な鳥から鳥類学 第24回 ムクドリねぐら探し. むくどり通信（235）：11.

和田岳（2015.3）身近な鳥から鳥類学 第25回 ウグイスにせまる2つの危機. むくどり通信（236）：10.

和田岳（分担執筆）（2015.3）堺市の生物多様性保全上考慮すべき野生生物 堺市レッドリスト2015・堺市外来種ブラックリスト2015. 堺市環境局環境保全部環境共生課、堺. 59pp.

石田惣（2014.4）博物館標本から再現する明治から昭和前期の干潟の貝類相 - 東京湾と大阪湾を中心に -. 日本貝類学会平成26年度大会研究発表要旨集：38.

石田惣（分担執筆）（2014.7）大阪市立自然史博物館第45回特別展「ネコと見つける都市の自然」解説書「都市の自然2014」.大阪市立自然史博物館、113pp.

石田惣・波戸岡清峰（2014.9）イギリス海洋調査船チャレンジャー号が1875年に瀬戸内海で採集した底生生物標本. 2014年日本プランクトン学会・日本ベ

- ントス学会合同大会（広島）講演要旨。
- 石田惣（2014.9）家の中の生き物：ヒル、エビ、ウナギにアユモドキ？. ns. 60（9）：9.
- 大古場正*・北藤真人*・石田惣（2014.12）男里川河口に生息するタケノコカワニナ. ns. 60（12）：2-3.
- 石田惣・山田浩二*・山西良平・和田太一*・渡部哲也（2014.12）大阪府の汽水域・砂浜域の無脊椎動物および藻類相. 自然史研究 3（15）：237-271.
- 佐々木猛智*・石田惣・中野智之*・照屋清之介*（2014.12）大阪市立自然史博物館所蔵吉良コレクション中のカサガイ類. ちりぼたん 45（2）：62-71.
- 石田惣・木邑聡美*・唐澤恒夫*・岡崎一成*・星野利浩*・長安菜穂子*（2015.3）淀川のヌートリアによるイシガイ科貝類の捕食事例，および死殻から推定されるその特徴. 大阪市立自然史博物館研究報告（69）：29-40.
- 【昆虫研究室】**
- 平化躰逸*・土井仲治郎*・金沢至（2014.5）伊勢湾周辺における移動昆虫調査の報告（2012年）. Gracile（74）：23-28.
- 金沢至（2014.5）国境をこえて、人々をつなぐアサギマダラの移動. センスオブワンダー. 環境市民マガジン「流れをかえる」：24-25.
- 金沢至（2014.6）都市の蝶・モンシロチョウの不思議. ns. 60(6)：7-8.
- 松田真平*・金沢至（2014.7）8.チョウ・ガ. 第45回大阪市立自然史博物館特別展「都市の自然」解説書：33-36.
- 中塚久美子*・広渡俊哉*・池内健*・長田庸平*・金沢至（2014.9）大阪府内のさまざまな緑地における腐植食性ガ類の種多様性. 日本昆虫学会第74回大会講演要旨：34.
- 金沢至（2014.9）大阪府のウラナミジヤノメの保護活動. 日本昆虫学会第74回大会講演要旨：92.
- 金沢至（2014.9）2012年のアサギマダラの調査成果報告. 2013年第一回アサギマダラプロジェクト公開シンポジウム報告. やどりが(242)：60.
- 金沢至（2014.11）アサギマダラなどの移動蝶の調査－2013年の成果－. 日本鱗翅学会第61回大会講演要旨：12.
- 今城香代子*・金沢至（2014.12）カシノナガキクイムシの効果的防除方法の一例. 日本昆虫学会近畿支部2014年度大会・日本鱗翅学会近畿支部第150回例会講演要旨：11.
- 金沢至・伊藤雅男*・福村拓己*（2014.12）アサギマダラの南下移動コースに関する仮説. 日本昆虫学会近畿支部2014年度大会・日本鱗翅学会近畿支部第150回例会講演要旨：11-12.
- Kanazawa I., Cheng W. W. W.*, Pun S. F. H.*, Sakiyama Y.*, Doi H.*（2015.3）First migration record of Chesnut Tiger Butterfly, *Parantica sita nipponica* (Moore, 1883) (Lepidoptera : Nymphalidae : Danainae) from Japan to Hong Kong and longest recorded movement by the species. The Pan-Pacific Entomologist 91(1) : 91-97.
- William Wai-wa Cheng*, Hydrogen Sui-fai Pun*, On-ming Chung*, Takumi Fukumura* and Itaru Kanazawa（2015.3）*Parantica sita nipponica* (Lepidoptera : Nymphalidae) migrated from Japan to Hong Kong, southern China in 2013. Bulletin of the Osaka Museum of Natural History（69）：25-28.
- 大阪生物多様性ネットワーク（編）（2014.3）大阪府レッドリスト2014. 大阪府. 48pp. [分担執筆]
- 初宿成彦（2014.4）プロジェクトU都市の自然調査レポート なぜ減った？ 都市部の糞虫. ns. 60（4）：9.
- 初宿成彦（2014.4）六甲山麓、標高300mのクマゼミぬけがら. ns. 60(4)：15.
- 初宿成彦（文責）（2014.6）鞠公園セミのぬけがらしらべ2013の結果. ns. 60(6)：8.
- 大原昌宏*・林成多*・門脇久志*・初宿成彦（2014.6）鳥取県のエンマムシ科. さやばね（14）：15-18.
- 大阪市立自然史博物館（編）（2014.7）第45回特別展「ネコと見つける都市の自然」解説書 都市の自然2014. 113pp.（分担執筆）
- Shiyake S. Fossil Insect Research Group for Nojiriko-Excavation（2014.8）Applying the Mutual Climatic Range method to the beetle assemblages in Japan using accurate data of climate and distribution of modern species. Quaternary International 341 : 267-271.
- 初宿成彦（2014.9）大阪市24区の甲虫あれこれ. ns. 60（9）：2-6.
- 初宿成彦（2014.11）虫えいの名前. ns. 60(11)：8.
- 初宿成彦・安井通宏*・伊藤建夫*・富永修*・三宅規子*・市川顕彦*・河合正人*・大阪市立自然史博物館「都市の自然」調査グループ甲虫班（2014.11）[P-6] 大阪市24区の甲虫相とその変遷. 日本甲虫学会第5回大会講演要旨：20.
- 初宿成彦・大阪市立自然史博物館「都市の自然」調査グループ甲虫班（2014.11）都市部において生物多様性が減少した時期 ～大阪市の甲虫相変遷を例に

- ～. 日本環境動物昆虫学会大会講演要旨：14.
- 初宿成彦 (2015.1) 10月のクマゼミ. ns. 61(1) : 12.
- Havill N*, Shiyake S, Galloway A*, Footitt R*, Yu G*, Cacoon A* (2015.1) Ancient and modern colonization by hemlock adelgids despite host plant specialization, a complex life cycle and genetic bottlenecks. USDA Research Forum.
- 初宿成彦 (編) (2015.3) 大阪市立自然史博物館 所蔵甲虫類目録 (4) -ハネカクシ科1・コムツキムシ科2・テントウムシ科-. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第47集. 145 pp.
- 初宿成彦 (2015.3) 昆虫類. 堺市の生物多様性保全上考慮すべき野生生物 -堺市レッドリスト2015・堺市外来種ブラックリスト2015 : 17.
- 初宿成彦・井上智博* (2015.3) 田井中遺跡12-2の昆虫遺体. 大阪文化財研究(46) : 35-40.
- 松本吏樹郎 (2014.8) (総説) クモヒメバチ属群 (Polysphincta-group of genera) の自然史. Acta Arachnologica 63(1) : 41-53.
- Matsumoto R. (2014.7) Phylogeny and reclassification of the *Polysphincta* group of genera (Ichneumonidae; Pimplinae), with reference to host association and host manipulation. Eighth International Congress of Hymenopterists. Program and Abstracts : 39.
- Takasuka K.* Yasui T.* Ishigami T.* Nakata K.* Matsumoto R. Ikeda K.* Maeto K.* (2014.7) A parasitoid larva evokes the resting web of a host spider with fibrous thread decoration as an amber light for flying insects. Eighth International Congress of Hymenopterists. Program and Abstracts : 55.
- 松本吏樹郎 (2014.9) クモヒメバチ属群の系統と分類～クモ利用の進化 (Polysphincta group, Pimplinae; Ichneumonidae). 講演要旨 : 77.
- 松本吏樹郎 (2014.9) 分子マーカーのつかいよう～寄生バチの分類、系統、生活史の研究において. 講演要旨 : 100.
- 松本吏樹郎 (2014.12) 近畿地方におけるアカハネオンブバッタ移入個体群の分布拡大と由来. 日本昆虫学会近畿支部2014年度大会・日本鱗翅学会近畿支部第150回例会講演要旨 : 12.
- 大阪市立自然史博物館 (編) (分担執筆) (2014.7) 第45回特別展「ネコと見つける都市の自然一家の中から公園さんぽー」解説書「都市の自然2014」
- 松本吏樹郎 (2014.5) 近畿地方に移入したアカハネオンブバッタ. ns. 60 (5) : 9-10.
- 松本吏樹郎 (2014.11) 今年はスズメバチが多かった? ns. 60 (11) : 12.
- 松本吏樹郎 (2014.12) チャバネフユエダシヤクのメス. ns. 60 (12) : 1.
- 【植物研究室】**
- 佐久間大輔・橋屋誠* (2014.6) 本郷博士記載種の京都・滋賀周辺の基準産地の分布、植生と現状. 日本菌学会第58回大会要旨 : 30.
- 今村彰生*・乾美浪*・菊地淳一*・佐久間大輔 (2014.6) 属特異的プライマーによる本郷次雄標本の断片化した DNA 増幅の試み. 日本菌学会第58回大会要旨 : 31.
- 佐久間大輔 (2014.6) 「多様化する博物館の理念と制度『対話と連携の博物館の総括』(1)」について. 博物館研究 49(6) : 13-17.
- 佐久間大輔 (2014.6) 東日本大震災における大阪市立自然史博物館の活動記録と残された課題. 大阪市立自然史博物館館報 (39) : 1-4.
- Naoki Endo*, Fuminori Kawamura*, Ryoko Kitahara*, Daisuke Sakuma, Masaki Fukuda*, Akiyoshi Yamada* (2014.6) Synthesis of Japanese *Boletus edulis ectomycorrhizae* with Japanese red pine. Mycoscience 55 (5) : 405-416.
- 佐久間大輔 (2014.8) 小難しい学芸員のやさしい小咄 本郷博士のきのこ図鑑は散歩で作られた? ご近所サイエンスのススメ. ns. 60(7) : 8.
- Sakuma, D. (2014.9) What has to be done before the next disaster? - Biodiversity Heritage in Museums needs multi-core network, social supports and legitimate frameworks. IUBS/BDNJ Joint International Symposium and Workshop on Disaster and Biodiversity Abstracts : 43-44.
- 佐久間大輔 (2014.9) 博物館の基礎的ビハインド・ザ・シーンである研究活動を公開する : SNS の利用を中心に. 博物館研究 49(9) : 18-21.
- 佐久間大輔 (2014.9) ワチとワチガイソウの名についての雑想 近畿植物同好会会報 (119) : 31-32.
- 佐久間大輔 (文)・荒尾瀧男 (写真) (2014.10) スギヒラタケの成長. ns. 60(10) : 15,16.
- 佐久間大輔 (2014.12) 生物多様性時代、自然史博物館の持つ資源をどうアーカイブし公共財として活かすのか. デジタルアーカイブ研究誌2 (1) : 11-16
- 佐久間大輔 (2015.1) 京都の桃山に残るモモの枝花生産. ns.61(1) : 3-5,12.
- 佐久間大輔 (2015.1) 報告 : 菌学会中高生向け実習講座「きのことカビから始めるバイオサイエンス」. 日本菌学会ニュースレター 2015-1 : 7-8.

- 佐久間大輔 (2015.2) 大阪市立自然史博物館菌類コレクションと上田俊穂先生. 関西菌類談話会会報 No.31 : 32-33.
- 佐久間大輔 (2015.1) 博物館の市民協働における「友の会コミュニティ」の基盤としての重要性. Museum 2015 論文集 講演4_3.
- 佐久間大輔 (2015.2) 博物館を規定するもの. 博物館研究 50 (2) : 7-8.
- 佐久間大輔 (2015.2) 第4部 博物館の市民協働 第1章 博物館の市民協働における「友の会コミュニティ」の基盤としての重要性ーボランティア・地域連携との関連からー. 日本の博物館総合調査研究 : 中間報告書 : 178-191.
- 佐久間大輔 (2015.3) 多様性とネットワーク 自然史系博物館の場合. ふるさとの植物を守ろう No.16 : 2
- 佐久間大輔 (分担執筆) (2015.3) 堺市の生物多様性保全上考慮すべき野生生物 -堺市レッドリスト 2015・堺市外来種ブラックリスト2015- 堺市環境局 環境保全部 環境共生課.
- 佐久間大輔 (分担執筆) (2015.3) 堺市野生生物目録 (2015年3月版). 堺市環境局 環境保全部 環境共生課.
- 今村彰生*・乾美浪*・菊地淳一*・脇村圭*・佐久間大輔 (2015.3) 属特異的プライマーによる本郷次雄標本の断片化したDNA増幅の試み. 日本生態学会第62回大会講演要旨PA2-112.
- 久米田裕子*・坂田淳子*・高鳥浩介*・木川りか*・佐藤嘉則*・佐久間大輔 (2015.3) 津波による被災植物標本のカビ被害調査. 保存科学 54 : 75-82.
- 長谷川匡弘 (2014.6) 住吉大社の花とハナバチたち～神事と関係のあるハナバチも～ 住吉っさん 22 : 7-8.
- 大阪市立自然史博物館 (佐久間・長谷川・横川分担執筆) (2014.7) ネコと見つける都市の自然2014. 大阪市立自然史博物館.
- 長谷川匡弘・藤井俊夫*・佐久間大輔 (2014.8) 大阪市西成区の住宅街の中に残る「湿地」～生育する植物相の報告～ ns. 60 (8) : 2-5.
- 澤優輝*・港翼*・長谷川匡弘・志賀隆* (2014.9) 標本の種子は長生きか? 日本植物学会第78回大会 P-053.
- 長谷川匡弘 (2015.3) 住吉大社・御田の植物～大阪市内の都市水田との比較～. 関西自然保護機構 (KONC) 2015年度大会.
- 志賀隆*・平澤優輝*・中浜直之*・井鷲裕司*・長谷川匡弘. (2015.3) その標本のタネ, 生きてますよ! : 標本種子を用いた絶滅集団復元の試み. 日本植物分類学会第14回大会.
- 長谷川匡弘 (2014.3) 紀伊半島南部のママコナ属における花形態の進化とその要因. 近畿植物同好会総会.
- 長谷川匡弘 (2014.3) ガ媒花オオママコナと近縁種シコクママコナの生育地における訪花昆虫相比較～ポリネーターシフトが進行する環境を考える. 第62回日本生態学会大会 PA2-170
- 藤井俊夫*・長谷川匡弘. 都市公園と里山林の植物相の比較. 第62回日本生態学会大会 PA2-127
- Worth R. P. J.*, Yokogawa M., Isagi Y*. (2014. 6) Outcrossing rates and organelle inheritance estimated from two natural populations of the Japanese endemic conifer *Sciadopitys verticillata*. Journal of Plant Research 127(5) : 617-626.
- Worth R. P. J.*, Yokogawa M., Andres P. F*, Tsumura Y.*, Tomaru N.*, Janes J. K.*, Isagi Y.* (2014. 7) Conflict in outcomes for conservation based on population genetic diversity and genetic divergence approaches : a case study in the Japanese relictual conifer *Sciadopitys verticillata* (Sciadopityaceae) . Conservation Genetics 15(5) : 1243-1257.
- 横川昌史 (2015. 3) 国東半島南東部における塩生湿地および砂浜・砂丘の植生の現状と各調査地における20年間の変化. 大阪市立自然史博物館研究報告 (69) : 1-18.
- 横川昌史 (2014.8) 吹田市に残る小っちゃい半自然草原の謎. ns. 60(8) : 9.
- 横川昌史 (2014.12) 本の紹介 : ネイチャーガイド「日本の水草」. ns. 60(12) : 15.
- 横川昌史 (2014.10) 大阪府吹田市の「小っちゃい草原」を見学しました. 全国草原再生ネットワーク ニュースレター (20) : 4-5.
- 横川昌史 (2015. 3) 半自然草原の生物多様性保全について注意すべきこと. 2015年度日本草地学会大会講演要旨 企画シンポジウム1「草地生態系の多面的機能と環境保全」.
- 野間直彦*・升方拓郎*・水田有夏志*・横川昌史 (2015. 3) 鈴鹿山脈御池岳におけるニホンジカ食圧下の植生変化. 第62回日本生態学会大会講演要旨 PB2-204.
- 指村奈穂子*・池田明彦*・大谷雅人*・澤田佳宏・須貝杏子*・内貴章世*・古本良*・横川昌史 (2015. 3) 希少樹種クロボウモドキ (バンレイシ科) の個体群構造. 第62回日本生態学会大会講演要旨 PA2-038
- 内貴章世*・須貝杏子*・安藤朋恵*・小川遼*・古本良

・池田明彦・大谷雅人*・指村奈穂子*・横川昌史 (2015.3) クロボウモドキ (バンレイシ科) の遺伝的多様性. 植物分類学会第14回大会講演要旨: 48.

横川昌史 (2015.3) 瀬戸内海沿岸に生育する海岸植物の分布調査に向けて. 関西自然保護機構2015年度大会講演要旨.

指村奈穂子*・大谷雅人*・古本良*・横川昌史・澤田佳宏* (2014.10) 新潟県における海岸の希少種バシクルモンの分布・個体群構造と植生の関係. 第19回植生学会大会講演要旨 P04.

澤田佳宏*・指村奈穂子*・池田明彦*・大谷雅人*・須貝杏子*・内貴章世*・中山博子*・古本良*・横川昌史 (2014.10) 希少樹種クロボウモドキ (バンレイシ科) の生育立地と植生. 第19回植生学会大会講演要旨 P06.

【地史研究室】

川端清司 (2014.4) 小難しい学芸員のやさしくない小咄. ララミディア大陸と海面変動. ns. 60(4): 6-7.

川端清司 (2014.9) 改訂版 プラスチック水槽を用いた褶曲モデル実験. 日本地質学会第121年学術大会 (鹿児島) 講演要旨集: 297.

川端清司 (2014.11) ビルの石材のカンラン岩. ns.60 (11): 1.

川端清司 (2014.11) 梅田で岩石観察をしよう! ns.60 (11): 2-5.

川端清司 (2014.11) 夜間小集会「大学の博物館と地域の博物館」報告. 日本地質学会News 17(11): 9.

川端清司・中条武司 (2015.3) ミニガイドNo.27 大阪の川原の石ころ. 大阪市立自然史博物館: 36pp.

塚腰実 (2014.5) トリケラトプスの仲間が暮らした森. ns. 60 (5): 2-3.

山田敏弘*・山田茉莉子*・塚腰実 (2014.6) バラバラの器官をつなぎ合わせる作業: マツ亜節 (マツ科マツ属) の場合. 日本古生物学会2014年会 (講演要旨).

塚腰実・岡本隆*・堀利栄* (2014.6) キントラノオ科化石の研究成果を「久万層群から発見された *Banisteraecarpum giganteum*. 日本古生物学会2014年会 (講演要旨).

塚腰実 (2014.8) 柏餅を包んでいる葉の観察. ns. 60 (8): 10.

塚腰実・岡野浩* (2014.8) メタセコイア: 発見・普及の歴史と三木茂博士の着眼点. 地学団体研究会第68回総会. (講演要旨)

Tsukagoshi, M., H. Okano* (2014.8) The spreading of paleobotanical research on *Metasequoia* and its relationship with cultural development. 9th

European Palaeobotany and Palynology conference. (Abstract, Poster)

Tsukagoshi, M. (2014.8) Reexamination of the taxonomy of the genus *Hemitrapa* (Trapaceae) from Europe and North America. 9th European Palaeobotany and Palynology conference. (Abstract, Poster)

釋知恵子・塚腰実・佐久間大輔・和田岳・広瀬祐司* (2014.8) 博物館に親しみがない教員にむけた博物館からのアプローチ. 「教員のための博物館の日 in 大阪市立自然史博物館」の取り組み. 日本理科教育学会第64回全国大会論文集: 432 (講演要旨).

塚腰実 (2014.10) イヌカラマツ. ns. 60 (10): 25, 140.

塚腰実 (2014.10) アーモンドの観察と扁桃・扁桃体. ns. 60 (10): 126-129.

塚腰実 (2015.1) 小難しい学芸員のやさしい小咄. フェニックスの幹にある葉の痕がつくる斜めの列. ns. 61 (1): 6.

山田敏弘*・山田茉莉子*・塚腰実 (2015.1) オオミツバマツの学名 *Pinus trifolia* Miki は不要名である. 日本古生物学会第164回例会 (講演要旨)

岡野浩・塚腰実 (2015.3) メタセコイアと文化創造—植物的社会デザインへの招待. 大阪公立大学共同出版会. 49pp.

柴田正輝*・林昭次・塚腰実編集 (2015.3) 特別展「スペイン 奇跡の恐竜たち」 大阪市立自然史博物館・読売新聞社. 158pp.

林昭次. (2014.3) ステゴサウリア類の板と棘はなんのため? ns. 60 (4): 3-5.

林昭次・渡部真人*・Burns, M.*・Carpenter, K.* (2014.7) 剣竜類と鎧竜類の皮骨における成長様式の差異: 装楯類恐竜がもつ皮骨機能の多様性. 日本古生物学会, 九州大学, 講演要旨.

林昭次 (監修) (2014.10) 研究室に行ってみた. 大阪市立自然史博物館 地史研究室 古脊椎動物学 ナショナルジオグラフィック web版.

Hayashi, S., Redelstorff, S.*, Mateus, O.*, Watabe, M.*, Carpenter, K.* (2014.11) Gigantism of stegosaurian osteoderms. 74st Annual Meeting Society of Vertebrate Paleontology, Belrin, Germany, 講演要旨.

林昭次 (2014.11) 骨の内部組織から探るマチカネワニの謎. マチカネワニ化石発見50周年記念事業 大阪大学シンポジウム「マチカネワニ・サミット2014」, 豊中市アクア文化ホール, 講演要旨.

Redelstorff, R.*, Hayashi, S., Rothchild, B.*, Chinsamy,

- A.* (2015.1) Multifocal bone infection in stegosaurs from Como Bluff, Wyoming. *Lethaia* 48 (1) : 47-55.
- 花井智也*, 林昭次, 佐藤たまき* (2015.2) 首長竜類ポリコティルス科の骨組織. 日本古生物学会, 豊橋市立自然史博物館, 講演要旨.
- 林昭次 (2015.3) 骨組織学から読み解く絶滅動物の生理と生態. 化石研究会会誌 47 (1) : 18-26.
- 林昭次 (分担執筆・監修・編集) (2015.3) 特別展 スペイン奇跡の恐竜たち図録, 大阪市立自然史博物館 読売新聞社. 158pp.
- 林昭次 (監修) (2015.3) ステゴサウルス. 科学雑誌 ニュートン.

【第四紀研究室】

- 中条武司 (2014.7) 第1章1都市環境の特性 (pp.3-4) ; 第1章2都市の立地と地形 (4-5) ; コラム都市の「坂」を調べる (5-7) ; コラム都市平野に起こる災害 (10-11) . 大阪市立自然史博物館第45回特別展解説書「都市の自然2014」. 113pp.
- 中条武司・三田村宗樹*・奥平敬元*・菅森義晃* (2014.9) 大阪府レッドリスト地形・地質版の作成とその課題. 日本第四紀学会2014年大会 (柏) 講演要旨集 : 24.
- 趙 哲済*・中条武司・松田順一郎* (2014.9) 難波砂州における縄文時代後期以降の古地理の変遷. 日本第四紀学会2014年大会 (柏) 講演要旨集 : 182.
- 中条武司・三田村宗樹*・奥平敬元*・菅森義晃* (2014.9) 大阪府レッドリスト地形・地質版作成の意義と問題点. 日本地質学会第121年学術大会 (鹿児島) 講演要旨 : 219.
- 中条武司・趙 哲済* (2014.10) 大阪の地下にある石ころの浜辺. *ns.* 60 (10) : 137-138.
- 川端清司・中条武司 (2015.3) ミニガイドNo.27 大阪の川原の石ころ. 大阪市立自然史博物館. 36pp.
- 石井陽子 (2014.4) 博物館所蔵のボーリングコアをつかって大阪平野地下の地層をさぐる - 地学分野の学校向け貸し出し教材の開発・運用と防災教育への展開 -. 平成25年度笹川科学研究奨励賞受賞研究発表会. <http://www.jss.or.jp/material/img2/d-etal6.pdf> (20150415閲覧)
- 石井陽子 (2014.6) 蒜山原の珪藻土層. *ns.* 60 (6) : 1,14.
- 石井陽子 (2014.6) 大阪平野の地下の地層 : 大阪市西成区、浪速区で明らかになったこと. *ns.* 60 (6) : 2-4.
- 石井陽子 (2014.7) 第1章3都市の地盤 (pp.7-9) , 附図1,2 : 表紙見返し. 大阪市立自然史博物館第45回

- 特別展解説書「都市の自然2014」. 113pp.
- 石井陽子 (2014.8) 博物館所蔵ボーリングコアを用いた地学分野の学校向け貸し出し教材の開発と運用. 日本地学教育学会第68回全国大会 北海道大会講演予稿集 : 125-126.
- 石井陽子 (2014.9) 博物館所蔵ボーリングコアを用いた学校向け貸し出し教材の開発と地学教育支援. 日本地質学会第121年学術大会 (鹿児島) 講演要旨集 : 297.
- 石井陽子 (2014.12) 岸和田市で観察できる大阪層群の火山灰層 顕微鏡観察編. *From M.*56,1-2. (岸和田市郷土文化室) http://www.city.kishiwada.osaka.jp/u-ploaded/life/7212_56778_misc.pdf (20150415閲覧)
- 石井陽子 (2015.2) 蒜山原層の珪藻土と珪藻化石. *ns.*61 (2) : 10.

【総務課】

- 土屋実穂*・岩崎誠司*・渡部千秋*・杉本加奈子*・釋知恵子・星野由美子*・小川義和* (2014.5) 「教員のための博物館の日」の現状と全国展開について. *博物館研究* 49 (5) : 12-15.
- 釋知恵子・塚腰実・佐久間大輔・和田岳・広瀬祐司* (2014.8) 博物館に親しみがない教員に向けた博物館からのアプローチ 「教員のための博物館の日 in 大阪市立自然史博物館」の取り組み. *日本理科教育学会第64回全国大会論文集* : 432.
- 広瀬祐司*・引馬淳*・釋知恵子・石田惣・佐久間大輔 (2014.8) 博物館と連携したPISA型学力養成の成果 - カリキュラムマネジメントと授業改善 -. *日本理科教育学会第64回全国大会論文集* : 374.

VII. 講演・館外活動・社会貢献など

報文一覧に含まれない講演などの館外活動をここに採録した。

波戸岡

日本魚類学会評議員
大阪市立大学非常勤講師「博物館資料保存論」

石田

日本貝類学会評議員
日本貝類学会研究連絡誌「ちりぼたん」編集幹事
日本ベントス学会自然史学会連合派遣委員
軟体動物多様性学会「Molluscan Diversity」編集委員
環境省モニタリングサイト1000沿岸域部会委員 (磯分科会代表)
大阪府レッドリスト改定検討委員会委員

調査研究事業

金沢

金沢 至 (2014.6) セアカゴケグモの発見と咬傷分析など. 平成26年度福岡市セアカゴケグモ講習会 (福岡市)

金沢 至 (2014.8) 虫は超能力者～昆虫たちのオドロキの生活. 富田林市立中央公民館講座 (富田林市)

日本昆虫学会評議員

日本昆虫学会電子化推進委員長 (～12月)

日本環境動物昆虫学会評議員

日本鱗翅学会評議員

渡りチョウを調べる会企画・HP担当

大阪市立大学非常勤講師「博物館資料保存論」

初宿

日本甲虫学会 評議員 (～12月) ・副会長 (1月～)

日本環境動物昆虫学会 生物保護とアセスメント手法研究部会 運営委員

松本

日本昆虫学会評議員

日本昆虫学会近畿支部幹事

大阪市立大学 非常勤講師「生物学実験」

佐久間

日本菌学会評議員

大阪市立大学非常勤講師「博物館経営論」

全国科学系博物館協議会WG委員・編集委員

岸和田市環境審議会委員

吹田市文化財審議会委員

大阪府レッドリスト改定検討委員会委員

長谷川

日本生態学会近畿地区会委員

大阪府レッドリスト改定検討委員会委員

横川

大阪府レッドリスト改定検討委員会委員

横川昌史 (2014. 9) 吹田の原っぱが持つ意味と草花の調査方法. SAVE JAPANプロジェクト2014 まちなかにある小っちゃい草原～「吹田の原っぱ」は希少種の宝庫 (吹田市)

横川昌史 (2014. 10) 半自然草原ってな～に: 日本の草原から見た吹田の小っちゃい草原の意味. NPO法人吹田市民環境会議主催 第4回環境楽座 (吹田市)

川端

日本地質学会理事、各賞選考委員会委員、「県の石」選定委員会委員長

日本地質学会第121年学術大会夜間小集会「大学の博物館と地域の博物館」鹿児島大学 (鹿児島市) を主催

地学団体研究会大阪支部運営委員

大阪市立大学非常勤講師「博物館展示論」

川端清司 (2014.10) 東大阪市立埋蔵文化財センター 歴史講座第1回「地質と石材利用 近畿の地質と岩石」 (一般市民向け招待講演)

塚腰

地学団体研究会大阪支部運営委員

大阪市立大学教務部非常勤講師「大阪の自然」

塚腰実 (2014.7) メタセコイアと大阪一三木茂博士のメタセコイア発見の着眼点とメタセコイア保存会によるメタセコイアの普及. 第5回国際ラウンドテーブル会議「都市の世紀を拓く」・第3回国際都市創造性学会 (一般市民向け招待講演)

塚腰実 (2014.9) 生きている化石 イチョウ・メタセコイア. 第29回サイエンス・フォーラム in さっぽろ (一般市民向け招待講演)

塚腰実 (2015.2) 大阪市立大学理学部附属植物園市民講座「植物と私たちの生活」第3回「メタセコイアから見た大阪の森の歴史と文化」 (一般市民向け招待講演)

林

大阪大学大学院工学研究科招聘研究員

林昭次 (2014.8) 夏休みスペシャル 恐竜の細胞が見える!? 化石研究新時代 「サイエンスZERO」NHK (東京都)

林昭次 (2014.8) 恐竜の繁栄と絶滅. 大東市立西部図書館 (大東市)

林昭次 (2014.9) 絶滅哺乳類パレオパラドキシアとその仲間のナゾの生態を探る. 三重県立総合博物館 (津市)

林昭次 (2014.11) 骨の内部組織から探るマチカネワニの謎. マチカネワニ化石発見50周年記念事業 大阪大学シンポジウム「マチカネワニ・サミット2014」, 豊中市アクア文化ホール (豊中市)

林昭次 (2014.12) たんぱ恐竜塾, ちーたんの館 (丹波市)

林昭次 (2015.2) 常設展示解説映像パネル「ステゴサウルス」「スコロサウルス」国立科学博物館 (東京都).

花井智也・林昭次・佐藤たまき (2015.2) 日本古生物学会第164回例会 (豊橋自然史博物館) 優秀ポスター受賞「ポリコティルス科首長竜類の肋骨の組織学的研究」

石井

石井陽子 (2014.6,2015.2) 火山灰を観察しよう. きしわだ自然資料館ミニ実習

石井陽子 (2014.12) 豊中市教育研究会理科部会講師 平成25年度笹川科学研究実践研究部門奨励賞受賞「博物館所蔵のポーリングコアを使って大阪平野地下の

地層をさぐる-地学分野の学校向け貸し出し教材の開発・運用と防災教育への展開-」<http://www.jss.or.jp/material/img2/d-etal6.pdf> (20150422閲覧)

中条

日本地質学会代議員、行事委員 (堆積地質部会)
地学団体研究会大阪支部委員
大阪市立大学非常勤講師「博物館展示論」

VIII. 学術交流

■大阪市立大学との共同研究

研究テーマ：日本および世界における植物 (メタセコイアなど) の普及の歴史と文化創造性・社会および文化のデザインに与えた影響

研究者：岡野 浩 (大阪市立大学都市研究プラザ)・塚腰 実

期 間：2014年7月1日～2015年3月31日

■大阪大学工学部との共同研究

研究テーマ：化石骨の構造的研究

研究者：中野 貴由 (大阪大学大学院工学研究科マテリアル生産科学専攻)・林 昭次

期 間：2014年10月17日～2015年3月31日

IX. 外部研究者の受け入れ

外部研究者の受け入れに関する要項により、平成26年度に受け入れた外部研究者は表1のようである。期間中に外部研究者が公表した業績は次の通り。

松井彰子・上野正博・山下 洋 (2014) 京都府舞鶴湾の同所的生息地におけるキララハゼ属3種の成長および繁殖特性. 水産海洋研究 78 (2) : 75-85.

Saito, N., T. Yamauchi, H. Ariyama, O. Hoshino (2014) Descriptions and ecological notes of free-swimming forms of cymothoid isopods (Crustacea: Peracarida) collected in coastal waters of Japan. Crustacean Research 43 : 1-16.

反田實・赤繁悟・有山啓之・山野井英夫・木村博・團 昭紀・坂本久・佐伯康明・石田祐幸・壽久文・山田卓郎 (2014) 瀬戸内海の栄養塩環境と漁業. 水産技術 7 : 37-46.

Ariyama, H., M. Sano (2015) Growth, reproduction and ontogenetic migration of the greasyback shrimp *Metapenaeus ensis* in Osaka Bay, Japan. Plankton and Benthos Research 10 : 55-66.

Valerii Mutin, K. Ichige (2014) A new species of

Xylota Meigen (Diptera: Syrphidae) from the Far East. Zootaxa 3878 (2) : 196-200.

今村彰生・乾美浪・菊地淳一・佐久間大輔 (2014) 属特異的プライマーによる本郷次雄標本の断片化したDNA増幅の試み. 日本菌学会第58回大会 : P31.

今村彰生・乾美浪・菊地淳一・脇村圭・佐久間大輔 (2014) 属特異的プライマーによる本郷次雄標本の断片化したDNA増幅の試み. 日本生態学会第62回大会 : PA2-112.

今村彰生 (2014) 琵琶湖汀線の踏査による絶滅危惧魚食魚ハス *Opsariichthys uncirostris uncirostris* の詳細な分布情報. 保全生態学研究 19 : 151-158.

Nakaya, H., Yamashita, K., Utsunomiya, S., Kikuchi, N., Kondo, Y. The late Cretaceous elasmosauridae (Plesiosauria) from Shishi-jima Island, Kagoshima, southwest Japan. 74st Annual Meeting Society of Vertebrate Paleontology, Berlin, Germany, 講演要旨.

篠木善重・大石久志・蒔田実造 (2014) 三重県RDB種の記録. はなあぶ 37 : 92-99.

大石久志・村山茂樹 (2014) 日本産イエバエの同定. はなあぶ 37 : 100-136.

大石久志 (2014) ハナアブ科・ミギワバエ科日本産昆虫目録第8巻 (1・2部) 日本昆虫目録編集委員会編. 1101pp. 権歌書房.

大古場正 (2014) 三河湾 (愛知県) で確認されたイボキサゴ個体群の消滅. ちりぼたん44 (1-2) : 10-12. 日本貝類学会.

大古場正 (2015) 大阪湾初記録のヘソアキオリイレボラ. ns. 61 (3) : 4.

大古場正・北藤真人・石田 惣 (2014) 男里川河口に生息するタケノコカワニナ. ns. 60 (12) : 2-3.

川上誠太 (2014) 宝塚昆虫館旧蔵の矢倉和三郎貝類コレクション. かいなかま48 (1) : 27-45.

川上誠太 (2014) ナカムラギセルの中村定八 貝類コレクション拝見記-矢倉和三郎関係資料を多数含む、昭和初期のタイムカプセル-. かいなかま 48 (2) : 35-43.

Kawakami, Y., K. Yamazaki, K. Ohashi (2015) Increase in dark morph types and decrease in body size of *Cheilomenes sexmaculata* (Coleoptera: Coccinellidae) during a range expansion. European Journal of Entomology. 112 (2) : 289-294.

河上康子・山崎一夫・大橋和典 (2014) ダンダラテントウの分布北上とそれに関わる気候要因. 昆虫と自然. 49(13) : 29-31.

- 河上康子・村上健太郎 (2014) 海岸性甲虫類の種構成と海浜の面積および孤立度との関係. 昆虫(ニューシリーズ) 17 (2) : 59-66.
- Negrobov, O. P., T. Kumazawa, T. Tago, O. O. Maslova (2014) Two new species of *Paraclius* Loew, 1864 (Diptera : Dolichopodidae) from Japan with a key to Palearctic species. Caucasian Entomological Bulletin 10 (2) : 311-316.
- Negrobov, O. P., T. Kumazawa, T. Tago, O. O. Maslova (2014) The species of the genus *Thinophilus* Loew, 1864 (Diptera : Dolichopodidae) of Japan, with description of one new species. Far Eastern Entomologist 281 : 1-6.
- Negrobov, O. P., T. Kumazawa, T. Tago, O. O. Maslova (2014) New data on the genus *Dolichopus* Latreille, 1796 (Dolichopodidae, Diptera) from Japan. Amurian Zoological Journal 6 (4) : 369-371.
- 熊澤辰徳・吉田浩史 (2014) 兵庫県におけるアシナガバエ科の採集記録. はなあぶ (38) : 25-30.
- 佐藤隆春・森山義博・坂本隆彦・小西哲夫・竹内靖夫・別所孝範・山本睦徳 (2014) 大阪層群ピンク火山灰の堆積ユニット. 日本火山学会講演予稿集2014年度秋季大会 : 141.
- 佐藤隆春・森山義博・坂本隆彦・小西哲夫・竹内靖夫・別所孝範・山本睦徳 (2014) 降灰順を示す大阪層群ピンク火山灰. 地学団体研究会第68回総会(九州in SAGA) 講演要旨集・巡検案内書 : 102.
- 坂本隆彦・森山義博・佐藤隆春・小西哲夫・竹内靖夫・別所孝範・山本睦徳 (2014) 堆積環境を急変させたピンク火山灰の降灰. 地学団体研究会第68回総会(九州in SAGA) 講演要旨集・巡検案内書 : 89.
- Yoshito Shimon, S. Hiroi, S. Takamatsu (2014) . The phylogeny of *Russula* section *Compactae* inferred from the nucleotide sequence of the rDNA large subunit and ITS regions. The Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University (40) : 65-75.
- 下野義人 (2015) 上田俊穂先生と思い出深いベニタケ属の過去・現在. 関西菌類談話会会報 31 : 6-15.
- 下野義人・小寺祐三・高松進 (2014) カラムラサキハツ (*Russula omiensis*) とその近縁種の形態および分子系統学的解析 日本菌学会講演要旨集 : 44.
- 下野義人 (2015) ニセクロハツType2 (アカハニセクロハツ) は*R. eccentrica*か?. 関西菌類談話会講演要旨集 : 2.
- Greenfield, D. W., Suzuki, T., Shibukawa K (2014) Two new dwarfgobies of the genus *Eviota* from the Ryukyu Islands, Japan (Teleostei : Gobiidae) , Zootaxa 3774 (5) : 481-488.
- 鈴木寿之 (2014) クモハゼ属 (pp.495-497) ; イソハゼ属 (507-517) ; コバンハゼ属 (522-527) ; ダルマハゼ属 (530-531) ; ベニハゼ属・シマイソハゼ属 (536-541) in 本村浩之・松浦啓一編. 奄美群島最南端の島与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- Suzuki, T., D. W. Greenfield (2014) Two new dwarfgobies from the Ryukyu Islands, Japan : *Eviota shibukawai* and *Eviota filamentosa* (Teleostei : Gobiidae) . Journal of the Ocean Science Foundation 11 : 32-39.
- Shibukawa, K., T. Suzuki, H. Senou (2014) *Dotsugobius*, a new genus for *Lophogobius bleekeri* Popta, 1921 (Actinopterygii, Gobioidae, Gobiidae) , with re-description of the species. Bulletin of the National Science Museum, Tokyo, Series A 40 (3) : 141-160.
- 中村政裕・鈴木寿之・河野裕美・塚本勝巳・大竹二雄 (2014) 琉球列島西表島浦内川の感潮域が絶滅に瀕する魚類5種のナーサリーとして果たす役割. 日本生物地理学会会報 69 : 45-56.
- 鈴木寿之・渋川浩一・I-Shiung Chen・矢野維幾・千葉悟・内野啓道・高瀬歩・瀬能宏 (2015) 琉球列島から得られた日本初記録のハゼ亜目魚類8種. Fauna Ryukyuana 18 : 9-38.
- 谷田一三 (2014) 河原の水族館 川虫と河川環境を調べる. Rio(豊田市矢作川研究所月報) (181) : 2-3.
- 小倉紀雄・竹村公太郎・谷田一三・松田芳夫 (編) (2014) 水辺と人の環境学 (全3巻). 朝倉書店, 東京, 143pp.+142pp.+158pp.
- Tanida, K., Hanafia, Z. (2014) Some simple methods to estimate surface area of stones in streams. Biology of Inland waters 28 : 37-41.
- Tanaka, A., Namba, T., Tanida, K., Takemon Y. (2014) Evaluation of a pump method for unbiased sampling of stream hyporheos. Hydrobiologia, 730 : 29-43.
- 谷田一三 (2014) 河床材料(底質環境)を線格子法で調べる. Rio(豊田市矢作川研究所月報) 187 : 3-4.
- Inaba, S. Nozaki, T. Kobayashi S., Tanida K. (2014) Discovery of immature stages of *Neureclipsis mandjurica* (Martynov, 1907) (Trichoptera, Polycentropodidae) from Japan. Biogeography 16 : 63-70.

- Taira, A., Tanida K. 2013 (2014) Unusual behaviour and morphology of some *Rhyacophila* Pictet, 1834 caddisfly (Trichoptera: Rhyacophilidae) larvae reflect their ability to use the hyporheic zone. *Aquatic Insects* 35: 23-37.
- 谷田一三・江崎保男・一柳英隆 (共編著) (2014) ダムと環境の科学 III. エコトーンと環境創出. 京都大学学術出版会, 京都, 352 pp.
- 谷本正浩 (2014) 千地万造先生追悼記事 爬虫類化石とともに. *メランジェ* 14: 4-5. きしわだ自然友の会.
- 谷本正浩 (2014) 第4回モササウルス類シンポジウム (Fourth International Mosasaur Meeting) に参加して. *化石研究会会誌* 46-2: 124-125.
- 谷本正浩, 北田稔 (2015) 伊賀のアリゲーターは冬ごもり用の穴を掘ったのか? 第30回地学研究発表会講演要旨集: 1.
- 田村美美子・井上泰江 (2015) ナミフタオカゲロウ終齢幼虫の塩類細胞分布パターンについて. *奈良女子大学共生科学研究センター要旨*: 1-3.
- 宮平絹枝・天満和久 (2015) 奈良県御所市におけるギフチョウの保全活動. 第11回チョウ類の保全を考える集い要旨: 8.
- 名部みち代・糟谷大河・保坂健太郎 (2014) 日本産 *Leucoagaricus viridiflavus* (ハラタケ科). *日菌報* 55: 35-40.
- 鳴橋直弘・中山徹 (2014) バラ科ニシムラキイチゴ (*Rubus nishimuranus*) 四国で発見. *植物地理・分類研究* 62 (1): 19-21.
- 花崎勝司 (2015) 芥川水系 (大阪府高槻市) から2009年~2013年に記録された魚類. *地域自然史と保全* 36 (2): 135-146.
- 松下功・小島未希・荏開津孝生・濱田信夫 (2014) ミスト発生による浴室のカビ胞子の発芽抑制効果. *日本防菌防黴学会誌* 42: 233-238.
- 浜田信夫 (2014) スマホカバーとカビ. *環境管理技術* 32: 242-246.
- Takenaka, Y., N. Hamada, T. Tanahashi (2014) γ -lactonic and linear carboxylic acids from cultured lichen mycobionts of *Graphis scripta*. *Heterocycles* 89: 2729-2738.
- 林 寿一 (2014) ルソン島からのリカエニナニセキララシジミとカマエレオナムラサキシジミの異常型. *やどりが* (243): 12-13.
- 林 寿一 (2015) フィリピン・ミンドロ島のトシコツメアシフタオシジミ, オスの異常型 (鱗翅目: シジミチョウ科). *大阪市立自然史博物館研究報告* (69): 19-23.
- Fujie S. & K. Maeto (2015) A new species and a new record of the genus *Ascogaster* Wesmael, 1835 (Hymenoptera: Braconidae) from Japan. *Japanese Journal of Systematic Entomology* 20 (2): 177-179.
- 松田真平・金沢至 (2014) 8.チョウ・ガ. 第45回大阪市立自然史博物館特別展「都市の自然」解説書: 33-36.
- 松田真平 (2014) 大阪府産キマダラルリツバメ最初の発見地と発見時の標本について. *やどりが* (240): 23-27.
- 松田真平 (2014) 沿海州と北海道のエゾスジグロシロチョウの発香鱗の個体差について (おもに渡辺康之氏からの提供標本から). *日本鱗翅学会近畿支部第150回例会講演要旨*: 9-10.
- 松田真平 (2015) 大阪市内でホンサナエを記録. *大昆虫Crude* (59): 19.
- 松田真平 (2015) ヤマト (エゾ) スジグロシロチョウとスジグロシロチョウの成虫を後翅裏面の肩脈で区別することについて. *大昆虫Crude* (59): 24-29.
- 丸井英幹 (2014) 箕面山ニホンザルのF群に装着したGPSの特性と遊動の解析 - GPSの測位頻度と観察日誌の記録方法を変更して得られた効果 -. 平成25年度天然記念物「箕面山サル生息地」の箕面ニホンザル集団の保護管理調査報告書: 38-61. 箕面山猿保護管理委員会・箕面市教育委員会.
- 松橋義隆 (2014) 三重県津市美里町柳谷の中新統一志層群産海生哺乳類大型骨化石. *化石の友, 東海化石研究会誌* (59): 22-28.
- 松橋義隆・小池伯一 (2015) 長野県戸隠産の鮮新世齧歯類化石. *長野市立博物館紀要* (16): 8-15.
- 吉田浩史 (2015). 琵琶湖・淀川水系の河川周辺における双翅目の記録. *はなあぶ* (39): 64-76.
- 渡辺克典 (2014) 『奇跡の古代鱈マチカネワニ発見50年の軌跡 記録集』大阪大学総合学術博物館発行.

表1. 平成26年度に受け入れた外部研究者

氏名	利用形態	依頼元	担当学芸員
秋山 彰子	外来研究員	京都大学教授 山下 洋	波戸岡清峰
有山 啓之	外来研究員	本人	石田 惣
安藤 洋子	外来研究員	本人	佐久間大輔
石井 久夫	外来研究員	本人	中条 武司
石田 路子	外来研究員	本人	石田 惣
市毛 勝義	外来研究員	本人	松本吏樹郎

乾 美浪	外来研究員	本人	佐久間大輔
今村 彰生	外来研究員	本人	佐久間大輔
宇都宮 聡	外来研究員	鹿児島大学教授 仲谷 英夫	林 昭次
大石 久志	外来研究員	本人	松本吏樹郎
大古場 正	外来研究員	本人	石田 惣
大谷 道夫	外来研究員	本人	山西 良平
大塚 公雄	外来研究員	本人	金沢 至
奥田 尚	外来研究員	本人	川端 清司
数見 保則	外来研究員	本人	佐久間大輔
川上 誠太	外来研究員	本人	石田 惣
河上 康子	外来研究員	本人	松本吏樹郎
熊澤 辰徳	外来研究員	本人	松本吏樹郎
小郷 一三	外来研究員	本人	山西 良平
佐藤 隆春	外来研究員	本人	中条 武司
清水 裕行	外来研究員	本人	川端 清司
下野 義人	外来研究員	本人	金沢 至
鈴木 寿之	外来研究員	本人	佐久間大輔
瀬戸 剛	外来研究員	本人	波戸岡清峰
谷田 一三	外来研究員	本人	長谷川匡弘
谷本 正浩	外来研究員	本人	金沢 至
田村美美子	外来研究員	本人	林 昭次
樽野 博幸	外来研究員	本人	金沢 至
天満 和久	外来研究員	本人	塚腰 実
中谷 憲一	外来研究員	本人	川端 清司
長江眞紀子	外来研究員	本人	金沢 至
名部みち代	外来研究員	本人	石田 惣
鳴橋 直弘	外来研究員	本人	佐久間大輔
西澤真樹子	外来研究員	本人	長谷川匡弘
花崎 勝司	外来研究員	本人	和田 岳
濱田 信夫	外来研究員	本人	波戸岡清峰
林 寿一	外来研究員	本人	佐久間大輔
弘岡 拓人	外来研究員	本人	金沢 至
藤江 隼平	外来研究員	本人	松本吏樹郎
細川 正富	外来研究員	本人	松本吏樹郎
前田 哲弥	外来研究員	本人	波戸岡清峰
松江実千代	外来研究員	本人	佐久間大輔
松田 真平	外来研究員	本人	塚腰 実
丸井 英幹	外来研究員	本人	金沢 至
松橋 義隆	外来研究員	本人	長谷川匡弘
道盛 正樹	外来研究員	本人	塚腰 実
森下奈津子	外来研究員	本人	佐久間大輔
森本 繁雄	外来研究員	本人	佐久間大輔
山住 一郎	外来研究員	本人	佐久間大輔
吉田 浩史	外来研究員	本人	松本吏樹郎
米澤 里美	外来研究員	本人	和田 岳

渡辺 克典	外来研究員	本人	林 昭次
渡部 哲也	外来研究員	本人	石田 惣

X. 収蔵資料を利用した研究

植物標本庫 (OSA) の収蔵標本を研究材料として利用し、2014年度に寄贈された文献のリストは次の通りである (発表順)。

- 村瀬ますみ (2013) ジュウニキランソウ及び外来植物. 紀州生物 42 : 18-22.
- Y. Inoue et al. (2013) Notes on rhizoidal tubers in *Tortuka truncata* from Japan. *Hikobia* 16 : 299-302.
- Y. Shimono, M. Hiroi and S. Tkamatsu (2014) The phylogeny of *Russula* section *Compactae* inferred from the nucleotide sequences of the rDNA large subunit and ITS regions. 三重大学大学院生物資源学研究科紀要 40 : 65-75.
- 平澤優輝 (2014) 標本種子の発芽可能性の評価と種子生存率の高い標本作成方法の開発. 新潟大学教育学部学校教員養成課程理科教育専修平成25年度卒業論文.
- 井上侑哉・長谷信二・坪田博美 (2014) センボンウリゴケ (センボンゴケ科、蘚類) の新産地と日本国内の分布. 植物研究雑誌 89 (3) : 189-192.
- T. Ohi-Toma, K. Watanabe-Toma, H. Murata, J. Murata (2014) Morphological variations of *Aristolochia kaempferi* and *A. tanzawana* (Aristolochiaceae) in Japan. *The Journal of Japanese Botany* 89 (3) : 152-163.
- 木村全邦 (2014) 奈良県新産のカサゴケモドキ. 蘚苔類研究 11 (2) : 45-46.
- 支倉千賀子 (2014) 牧野富太郎博士採集の神奈川県産ヒメスズタケ (ヤマキタダケ). *FLORA KANAGAWA* (78) : 928-929
- 藤井伸二・牧雅之・國井秀伸 (2014) 島根県新産植物3種の記録 (シログワイ, ノダイオウ, ヒメタデ) とアオヒメタデに関するノート (調査報告). 日本植物分類学会誌 14(2) : 169-176.
- 山本和彦・市川正人 (2014) 三重県における絶滅危惧の分布に関する最近の知見. 三重自然史 (14) : 37-47.
- 市川正人 (2015) 桑名市でコウガイモを再確認. 自然誌だより. 三重自然誌の会情報誌 (103) : 4.
- 遠藤直樹 (2015) 難培養性食用担子菌タマゴタケの人工栽培化に関する基礎的研究. 信州大学大学院農学研究科生物・食料科学専攻博士学位論文.

資料収集保管事業

動物・植物・昆虫・化石・岩石・鉱物等の資料を、大阪を中心に日本全国、さらに必要に応じ海外からも収集してきた。収集した標本は冷凍燻蒸などを実施した後、温度湿度管理が可能な収蔵庫において、資料ごとに最適な環境で保管し、研究・展示活動に活用している。また、資料情報のデジタル化を進め、可能なものについては広く標本情報を公開している。

この数年間、新規資料は主として寄贈によって増加している。26年度に寄贈を受けた主なコレクションは以下の通りである。都市の自然調査プロジェクト Project U 採集標本（コウガイビル・陸産貝類など167点）、オオカンガルー・ヒョウなどの飼育哺乳類（天王寺動物園、58点）、日本産イシガイ類標本（250点）、日本産ハゼ科魚類（298点）、奄美大島産ハネカクシホロタイプ・タイプシリーズ（6点）、日本産ベニボタルタイプシリーズ（7点）、都市の自然調査プロジェクト Project U 甲虫班採集標本（2,478点）、日本産昆虫（春沢コレクション）（8,239点）、ツバキ関係書籍・図譜一式、東北地方津波被災地の植物標本（243点）、岐阜県瑞浪層群産貝化石標本一式、香川県和泉層群のウミガメ・首長竜化石（9点）、*Eostegodon* など化石ゾウ臼歯模型（50点）など。

平成26年度末の総資料数は約156万点である。

I. 寄贈および交換標本

■動物研究室

オオカンガルー他	7点	天王寺動物園
高槻市のニホントカゲ	1点	古谷亜矢子氏
沖縄県のウミシダ他棘皮類	25点	幸塚 久典氏
香川県のキツネ	1点	三木 武司氏
香川県のタヌキ・鳥他	54点	滝 明子氏
能勢町のイタチ	1点	上條 健一氏
青森県のアナグマ	1点	西澤真樹子・米澤里美氏
三重県・千葉県の子海鳥	6点	宮越 和美氏
奈良県のカワウ	1点	植木 大介氏
五月山動物園のヒツジ他	2点	五月山動物園
兵庫県のスズメ	1点	西尾ゆう子氏
和歌山県のホオジロ	1点	中野喜代子氏
池田市のイカル	1点	橋高加奈子氏
池田市のキビタキ	1点	今城香代子氏
河南町のツバメ	1点	森 ひとみ氏
兵庫県のウグイス	1点	井内 由美氏
此花区のヒヨドリ他	2点	磯貝 知香氏
愛知県のセグロセキレイ	1点	井ノ瀬利明氏
山口県のミソサザイ他	2点	沖田 絵麻氏

鹿児島県のヨウナシカワスナガニ	4点	野元 彰人氏
大阪府他のコウガイビル	51点	
都市の自然調査プロジェクト	コウガイビル班	
小豆島の無脊椎動物	25点	
大阪市立自然史博物館友の会	小豆島合宿参加者	
大阪府他の陸産貝類	112点	
都市の自然調査プロジェクト	カタツムリ班	
香川県のテン	1点	滝 明子氏
鳥取県のツキノワグマ	1点	片山 敦司氏
モルモット	1点	井上眞由美氏
交野市のシロハラ	1点	西畑 敬一氏
鶴見区のキジバト	1点	中谷 憲一氏
北海道のハシボソガラス	1点	中村眞樹子氏
中央区のヤマシギ	1点	
		積水ハウス環境推進部
茨城県のカモメ類	2点	宮越 和美氏
奄美大島のサシバ	1点	矢田部典子氏
河内長野市のルリビタキ	1点	岩崎 佳子氏
此花区のノゴマ	1点	磯貝 知香氏
奈良県の鳥	12点	木村 全邦氏
堺市のシジュウカラ	1点	下湯瀬可奈子氏
大阪府他の陸産等脚類	4点	
都市の自然調査プロジェクト	ダンゴムシ班	
沖縄県のコウガイビル	1点	河越 恵美氏
山口県のタヌキ	1点	
		橋本 順子・光郎氏
三重県のタヌキ	1点	平賀ひろ子氏
山口県のテン他	3点	橋本 順子氏
河南町のイタチ	1点	森 ひとみ氏
三重県のスナメリ	1点	宮越 和美氏
大和川のネコ	1点	新田 哲志氏
河南町のヒヨドリ	2点	森 ひとみ氏
東淀川区のヒヨドリ	1点	植本 拓治氏
兵庫県のアオバト	1点	勝間田玲子氏
奈良県のヤマセミ	1点	木村 全邦氏
寝屋川市のスズメ	1点	山田 明子氏
長居のネコ	1点	米澤 里美氏
奈良県のテン他	2点	河原 風花氏
埼玉県のタヌキ	1点	長畑 直和氏
兵庫県のヌートリア	1点	高津 一男氏
滋賀県のアライグマ	4点	阿部 勇治氏
豊中市のハシボソガラス	2点	高妻 勲氏
三重県のキジ他	2点	宮越 和美氏
和歌山県のオシドリ他	3点	中西 正和氏
長崎県の底生無脊椎動物	19点	濱口 春代氏
豊中市のスズメ	1点	熊代 直生氏
堺市のナミマイマイ	1点	下湯瀬可奈子氏

資料収集保管事業

奈良県の陸産貝類	2点	古谷亜矢子氏	箕面市他の等脚類	5点	市川 顕彦氏
京都府のナミマイマイ	1点	大石 久志氏	ヒヤクメヒトデのタイプ標本	3点	木暮 陽一氏
中央区のアオバト	1点	井関 浩光氏	奈良県のコガモ	1点	濱田 聰氏
静岡県のクノウマイマイ	1点	大石 久志氏	福岡県のシロハラ	1点	清水 孝良氏
沖縄県のウミシダ	5点	小渕 正美氏	吹田市のクロツグミ他	2点	田中 正夫氏
堀江鳥類コレクション	13点	堀江 進・洋子氏	門真市のカルガモ	1点	古田 ちえ氏
奈良県のアライグマ	1点	河原 和子氏	三重県のタヌキ	1点	新保 満子氏
能勢町のアナグマ	1点	上條 健一氏	ライオン他	11点	天王寺動物園
奈良県のタヌキ	1点	河原 和子氏	三重県のチュウサギ	1点	宮越 和美氏
大分県のノウサギ	1点	丹生 忠嗣氏	泉南市のムクドリ	1点	矢田部典子氏
五月山動物園のカイウサギ他	3点	五月山動物園	鶴見区のツツドリ	1点	麦島貴美子氏
能勢町のハシブトガラス	1点	上條 健一氏	北区のマミジロ他	2点	積水ハウス環境推進部
堺市のハイタカ	1点	木村 寛氏	堺市のシロハラ	1点	下湯瀬可奈子氏
埼玉県のムクドリ	1点	花崎 ゆり氏	奈良県のタヌキ	3点	河原 和子氏
千葉県のオオハム	1点	井野 靖子氏	兵庫県のタヌキ	1点	佐竹 敦司氏
兵庫県のトビ	1点	佐竹 敦司氏	長野県のニホンジカ	1点	佐々木國勝氏
日本各地のイシガイ類	250点		石川県のハクビシン他	8点	谷 春代氏
		福原 修一・田部 雅昭氏	大阪湾のヘソアキオリイレボラ他	2点	大古場 正氏
ゾウの皮	1点	天王寺動物園	河南町のタヌキ	1点	森 ひとみ氏
アシカ他	5点	天王寺動物園	京都府のハクビシン	1点	
滋賀県のタヌキ	1点	阿部 勇治氏			難波希美子・池田 裕計氏
和歌山県のアライグマ	1点	小泉 智弘氏	山口県のテン他	7点	橋本 順子氏
京都府のツキノワグマ	1点	片山 敦氏	堺市のイタチ	1点	浦野 信孝氏
滋賀県のニホンザル	1点	阿部 勇治氏	千葉県のタヌキ・イヌ・ネコ	4点	小出 一彦氏
堺市大浜公園のアカゲザル	1点	大浜公園	千早赤阪村のマミジロ	2点	森山 義博氏
埼玉県のニホンザル	1点	廣瀬 勝彦氏	東淀川区のシロハラ	1点	小林 一皓氏
兵庫県のネコ	1点	岩田真衣子氏	兵庫県のシロハラ	1点	菅村 定昌氏
岡山県のヒメエガイ	6点	内野 透氏	兵庫県のシロハラ	1点	勝間田玲子氏
男里川河口のオハグロガキ属	7点	大古場 正氏	東住吉区のキジバト	1点	森永絢一朗氏
秋田県のキタノムラサキイガイ	11点		兵庫県のカルガモ	1点	松浦 宜弘氏
		岩崎 敬二・馬場 孝氏	能勢町のテン	1点	難波希美子氏
山口県のシュイロホシガタヒトデ	1点	木暮 陽一氏	河内長野市のテン	1点	麻野 浩氏
ウラウチヒメドロソコエビのタイプ標本他	20点	有山 啓之氏	奈良県のコジュケイ	1点	前田 露氏
静岡県のヒメヤマトオサガニ	4点	野元 彰人氏	八尾市のヒドリガモ	1点	福田 和浩氏
千葉県のクロガモ	16点	古屋 直子氏	沖縄県のリュウキュウコノハズク	1点	古本 良氏
京都府のシロハラミズナギドリ	1点	小出 智矢氏	大阪湾の無脊椎動物	7点	大阪湾海岸生物研究会
長居のドバト	1点	岩坪 幸子氏	港区・住之江区の陸産貝類他	6点	矢田部典子氏
河内長野市のキジバト	1点	佐藤 隆春氏	千早赤阪村のカイツブリ	1点	河越 恵美氏
滋賀県のトビ	1点	藤本 貴司氏	愛知県のアオサギ	1点	中村 肇氏
阿倍野区のカワウ	1点	小林春平・智氏	ヒョウ他	34点	天王寺動物園
奈良県のハシブトガラス	1点	河原 和子氏	三重県のタヌキ	1点	榎谷ゆきえ氏
大阪湾の貝類	2点	大古場 正氏	沖縄県のアオウミガメ	1点	酒田千佳子氏
兵庫県のヤマモトゴマオカチグサ他	9点	和田 太一氏	千葉県のオオセグロカモメ他	4点	宮越 和美氏
岬町の底生動物	8点	和田 太一氏	兵庫県のヒヨドリ	1点	勝間田玲子氏
動物標本	37点	香川県立三本松高等学校	大東市のスズメ	1点	米澤 里美氏
阪南市のスカシカシパン	1点	有山 啓之氏	柏原市のイタチ	1点	安田賀津子氏
和歌山県のカニ類	5点	濱口 春代氏	泉南市のスナメリ他	2点	石川 恵氏

吹田市のジョウビタキ	1点	吉林 典子氏	奄美大島産ハネカクシホロタイプ	4点	林 靖彦氏
兵庫県のハシブトガラス	1点	高木 綾湖氏	中南米のテントウムシ	87点	大阪甲虫同好会
ヒツジ他	3点	五月山動物園	京都産ウスイロトラカミキリ	1点	斎藤 拓己氏
三重県のタヌキ	1点	宮越 和美氏	国内外産昆虫	1592点	春沢圭太郎氏
堺市のヌートリア	1点	浦野 信孝氏	台湾産昆虫土産額縁	2点	多田多恵子氏
吹田市のネコ	1点	水野 直子氏	奈良産オオチャイロハナムグリ	1点	瀬口 翔太氏
ニワトリ	3点	浦野 信孝氏	大阪市内産甲虫	12点	澤田 義弘氏
兵庫県のカジカ（大卵型）	1点	弘岡 和子氏	日本産ベニボタルタイプシリーズ	7点	松田 潔氏
高槻市のタウンギ	1点	奈良崎 泉氏	奄美大島産ハネカクシタイプシリーズ	2点	林 靖彦氏
岬町のムラサキウミヘビ	1点	有山 啓之氏	埼玉県産昆虫	763点	内田 正吉氏
若狭湾のサケガシラ	1点	伊藤 雅彦氏	国内外産昆虫	626点	春沢圭太郎氏
西日本各地のハゼ科魚類	145点	松井 彰子氏	国内外産ハネカクシホロタイプ	3点	伊藤 建夫氏
兵庫県のタカクラダツ	1点	北垣 和也氏	国内産昆虫	1783点	生き生き地球館
西日本各地のハゼ科魚類	65点		国内産昆虫	2478点	プロジェクトU甲虫班
	乾	隆帝・松井 彰子氏	■植物研究室		
岬町の魚類	12点	松井 彰子氏	寄贈および交換（*）標本、		
岬町の魚類	29点		日本産植物標本	381点	
	松井 彰子・秋山 諭氏		兵庫県立人と自然の博物館*		
山口県萩沖の魚類	9点	土井 啓行氏	大台ヶ原産ツブツブヘチマゴケ	1点	大崩 貴之氏
山口県のアオギス	1点	土井 啓行氏	南三陸町植物標本	117点	高田みちよ氏
九州のタツノオトシゴ等魚類	3点	渡部 哲也氏	三重県、静岡県産植物標本	11点	山脇 和也氏
高石市のボラ	1点	本多 俊之氏	ショウジョウソウモドキ、ジュウニキランソウ	2点	村瀬ますみ氏
大阪湾沿岸の魚類	121点		ツメクサ類及び金剛山植物標本	10点	田中 光彦氏
	2014年大阪湾生き物一斉調査参加者		ハイコヌカグサ	1点	山本 晃氏
長崎県のハゼ科魚類	22点		ツボスミレ類	3点	川口 尚毅氏
	乾	隆帝・松井 彰子氏	大阪府南部産シダ植物標本	一式	辻井 謙一氏
大阪湾の魚類	20点	鍋島 靖信氏	三重県中心としたシダ植物標本	386点	市川 正人氏
日本各地のハゼ科魚類	46点		香川県産アキノギンリョウソウ（液浸）	1点	
	乾	隆帝・松井 彰子氏	香川県立三本松高校		
岸和田市の魚類	39点	松井 彰子氏	維管束植物標本（和歌山産、三重産、大阪産など）		
男里川河口のハゼ科魚類	14点	松井 彰子氏		67点	梅原 徹氏
大阪湾のニベ類	5点	松井 彰子氏	大阪府枚方市産ヒメシオン	1点	木村 雅行氏
成ヶ島のミサキウナギ	2点	和田 太一氏	近畿地方産シダ植物等	208点	山住 一郎氏
諫早湾のハゼ科魚類	6点	濱口 春代氏	近畿地方産植物	82点	小林 禎樹氏
和歌山県のミミズハゼ類	1点	渡部 哲也氏	タデ科、東北被災地の標本等	243点	藤井 伸二氏
和歌山県他の魚類	70点	山崎 公裕氏	神戸市産帰化植物	9点	植村 修二氏
■昆虫研究室			ヤッコソウ、キイレツチトリモチ	2点	北川 万里氏
日本産昆虫	8239点	春沢圭太郎氏	維管束植物標本	54点	梅原 徹氏
日本産シロチョウ類	807点	藤森 信一氏	近畿地方産菌類	200点	関西菌類談話会
日本産昆虫	26点	市川 顕彦氏	大阪府産菌類	50点	
国内外産同翅類	19点	林 靖彦氏	菌学会西日本支部		
タイ産クロコガネホロタイプ	2点	松本 武氏	近畿地方植物（マウント済み）	276点	山住 一郎氏
波照間島産アカオビゴケグモ	1点	澤島 拓夫氏	ツクシイバラ	12点	岡本 素治氏
大阪市産クマゼミ	1点	小林 譲氏	近畿地方産植物標本	69点	田中 光彦氏
大阪・奈良産昆虫	12点	河合 正人氏	果実標本	12点	吉田ミドリ氏
ビワキジラミパラタイプ	10点	井上 広光氏	■地史研究室		
日本産ハネカクシホロタイプ	2点	伊藤 建夫氏	和歌山県新宮市産熊野層群貝化石	9点	樽野 博幸氏

資料収集保管事業

大阪府高槻市出灰産フズリナ石灰岩 10点 樽野 博幸氏
 香川県産ウミガメ・首長竜化石 9点 金澤 芳廣氏
 海百合化石、魚化石、アンモナイト、鉱物教材
 4点 中村 牧子氏
 岐阜県瑞浪層群産会化石 一式
 瑞浪市化石博物館
 岐阜県大垣市赤坂金生山石灰岩 一式
 瑞浪市化石博物館
 兵庫県明石市産アケボノゾウ脛骨 1点
 唐岩幸博氏・王上幸子氏
 大阪府富田林市産大阪層群植物化石 10点 樽野 博幸氏
 Eostegodon, Stegorophodon他白歯模型 50点 亀井 節夫氏
 奈良市菩提山町産ベグマタイト 1点 安藤 文平氏
 石川県金沢市犀川層産フジイマツ球果化石
 4点 山田茉莉子氏・山田敏弘氏

■第四紀研究室

海浜砂 1点 小林 智氏
 海浜砂 1点 鳥山 寛氏
 海浜砂 1点 小沢 利幸氏
 海浜砂 3点 堀家 建氏
 海浜砂 3点
 宮崎真氏・息吹氏・穰氏・明子氏
 海浜砂 2点 米澤 里美氏
 海浜砂 1点 三木 康宏氏
 海浜砂 1点 大西 清美氏
 海浜砂 2点 横山 康子氏
 海浜砂 1点 三井 梨嘉氏
 大阪市内ボーリング資料 14件
 大阪市都市整備局

Ⅱ. 館員による資料収集

■動物研究室

担当学芸員は、波戸岡…H、和田…W、石田…Iと略記する。

大阪府岬町で魚類を採集 (5月、H)
 和歌山市で魚類を採集 (6月、H)
 大阪市淀川河口で魚類を採集 (6月、H)
 別府湾周辺で魚類を採集 (8月、H)
 岡山県笠岡市・倉敷市・瀬戸内市で魚類を採集
 (9月、H)
 神戸市須磨区での須磨沖生物調査会で魚類を収集
 (9月、H)
 広島県呉市・竹原市で魚類を採集 (10月、11月、H)
 大阪府泉佐野漁港で海産魚類を収集 (10月、H)
 愛媛県今治市・松山市・伊予市・大洲市で魚類を採集
 (12月、H)

大阪市此花区でスナメリ死体を回収 (6月、W)
 香川県東かがわ市でスナメリ死体を回収 (6月、W)
 大阪府貝塚市でスナメリ死体を回収 (1月、W)
 大阪府泉南市でスナメリ死体を回収 (3月、W)
 大阪府岬町・和歌山県和歌山市で海産無脊椎動物を採集
 (4～6、3月、I)
 大阪府で陸産貝類・陸産無脊椎動物を採集
 (4～3月、I)
 大阪市で淡水貝類を採集 (5～3月、I)
 和歌山県白浜町で海産無脊椎動物を採集 (6月、I)
 三重県鳥羽市で海産無脊椎動物を採集 (7月、I)
 大分県別府湾周辺で海産無脊椎動物を採集
 (8月、I)
 岡山県笠岡市・倉敷市・瀬戸内市で海産無脊椎動物を
 採集 (9月、I)
 兵庫県西宮市で海産無脊椎動物を採集 (10月、I)
 大阪府泉佐野漁港で海産無脊椎動物を収集
 (10月、I)
 広島大学豊潮丸調査航海に乗船して瀬戸内海域で海産
 動物を採集 (11月、I)
 市場で海産無脊椎動物の抱卵個体を購入
 (11～3月、I)
 市場で瀬戸内海産の海産無脊椎動物を購入
 (8～3月、I)

■昆虫研究室

日本産昆虫の平均的収集、大阪府産昆虫の完全な収集等の目的で、担当学芸員(金沢…K、初宿…S、松本…Mと略記)が行った出張は次の通り。調査研究や資料収集のほか、普及行事やその予備調査の際の出張も含めて記した。

4月5日 真田山～大阪城 都市の昆虫(S,M)
 4月10・11日 和泉葛城山 クモヒメバチ(M)
 4月12・26日 高槻市三島江～唐崎
 テントウムシ(S)
 4月23日 此花区 オンブバッタ(M)
 4月27日 高槻市 レンゲ畑の虫(M)
 5月2日 京都府八幡市 昆虫全般(M)
 5月4日 住之江公園 都市の昆虫(S)
 5月4日 此花区 オンブバッタ(M)
 5月6日 箕面 昆虫全般(M)
 5月8日 和泉葛城山 クモヒメバチ(M)
 5月12日 高槻市ポンボン山 昆虫全般(M)
 5月13日 愛知県豊田市 昆虫全般(M)
 5月16日 此花区 オンブバッタ(M)
 5月17日 都島区桜宮 都市の昆虫(S)
 5月19～23日 北海道道北地方 昆虫化石(S)
 5月22日 奈良県奈良市 昆虫全般(M)

5月24・25日	岡山県蒜山・鳥取県大山	昆虫全般 (M)	9月20～27日	台湾・台北・基隆・台中・高雄	アカハネオンブバッタ (M)
5月25日	滋賀県大津市びわ湖バレイ	アサギマダラ (K)	9月21日	藤井寺市石川河川敷	バッタ (K)
5月29日	此花区	オンブバッタ (M)	9月24日	京都府京都市大原野	アサギマダラ (K)
6月1日	高槻市ポンポン山	昆虫全般 (M)	9月24日	滋賀県永源寺町	昆虫化石 (S)
6月6・7日	京都府京丹後市経ヶ岬	移動昆虫 (K)	10月1日	奈良県高円山	昆虫全般 (M)
6月5日	京都府八幡市	昆虫全般 (S)	10月2・3日	愛知県西尾市三ヶ根山	アサギマダラ (K)
6月8日	奈良県和佐又山	昆虫全般 (M)	10月5日	藤井寺市石川河川敷	バッタ (K・M)
6月10日	此花区	オンブバッタ (M)	10月7日	岩湧山	行事下見 (S)
6月13日	奈良県高円山	昆虫全般 (M)	10月14日	此花区	オンブバッタ (M)
6月15日	青森県大間	海岸甲虫 (S)	10月17日	奈良県高円山	昆虫全般 (M)
6月19日	大正区	都市の昆虫 (S)	10月20・21日	鳥取県鳥取市・島根県出雲市	オンブバッタ (M)
6月23日	此花区	オンブバッタ (S)	10月26日	奈良県奈良公園	昆虫全般 (M)
6月27日	福岡県福岡市香椎	ゴケグモ類 (K)	10月26・27日	鹿児島県南さつま市坊岬・指宿市開聞岳	アサギマダラ (K)
6月29日	滋賀県高島市マキノ高原	昆虫全般 (K)	10月30日	滋賀県彦根市	昆虫化石 (S)
6月29日	大阪城公園	クモ (M)	11月7日	奈良県高円山	昆虫全般 (M)
7月4日	此花区	オンブバッタ (M)	11月7～12日	台湾澎湖島・墾丁公園・高雄	昆虫全般 (K)
7月5日	長居公園	灯火の昆虫 (S)	11月8～10日	青森県つがる市	昆虫化石 (S)
7月5・6日	富山県有峰	昆虫全般 (K)	11月21日	兵庫県淡路島	オンブバッタ (M)
7月16日	此花区	オンブバッタ (M)	11月24・30日	八尾市高安地区	昆虫全般 (K)
7月19・20日	滋賀県高島市マキノ高原	昆虫全般 (K)	11月27日	奈良県高円山	昆虫全般 (M)
7月24日	比良山	セミ (S)	12月15日	奈良県橿原市	越冬昆虫 (M)
7月25日	滋賀県白倉岳・マキノ町黒河峠	昆虫全般 (S)	12月22日	奈良県奈良市	越冬昆虫 (M)
7月31日	此花区	オンブバッタ (M)	1月5日	高槻市鶴殿	越冬昆虫 (M)
8月1日	能勢町	セミ (S)	1月9日	奈良県奈良市	越冬昆虫 (M)
8月1～3日	岡山県蒜山・鳥取県大山	昆虫全般 (M)	1月13日	奈良県高円山	越冬昆虫 (M)
8月2日	滋賀県大津市びわ湖バレイ	アサギマダラ (K)	1月14日	滋賀県高島町	越冬昆虫 (M)
8月4日	滋賀県栃ノ木峠	昆虫全般 (S)	1月18日	池田市五月山	越冬昆虫 (M)
8月5日	滋賀県伊吹山地	セミ (S)	2月1日	東大阪市枚岡公園	越冬昆虫 (S)
8月5日	奈良県高円山	昆虫全般 (M)	2月6日	奈良県奈良市	越冬昆虫 (M)
8月8日	大和郡山市矢田丘陵	昆虫全般 (M)	2月10日	兵庫県明石市	海浜昆虫 (M)
8月12日	此花区	オンブバッタ (M)	3月4日	奈良県橿原市	越冬昆虫 (M)
8月13・14日	広島県大崎上島	昆虫全般 (M)	3月12日	大阪市都島区・京都府八幡市	昆虫全般 (S)
8月17日	富田林市公民館	昆虫全般 (K)	3月13日	奈良県大和郡山市	越冬昆虫 (M)
8月18日	鈴鹿山脈鎌ヶ岳	セミ (S)	3月15日	藤井寺市大和川河川敷	ミノガの寄生バチ (M)
8月23日	此花区	オンブバッタ (M)	3月16日	泉佐野市滝の池	昆虫全般 (M)
8月25日	奈良県高円山	昆虫全般 (M)	3月23日	枚方市淀川河川敷	昆虫全般 (M)
8月31日	浅香	昆虫全般 (M)			
9月6日	鞆公園	セミぬけがら (S,M)			
9月8日	此花区	オンブバッタ (M)			
9月11日	奈良県高円山	昆虫全般 (M)			

■植物研究室

調査研究の他、野外観察会の機会等を利用した資料収集のうち、以下に主なものを記す。担当学芸員は、

資料収集保管事業

佐久間…S、長谷川…H、横川…Yと略記する。	9月3日	大阪市	水生植物 (Y)
4月2日 大阪市内 植物一般 (Y)	9月7～9日	和歌山県田辺市・串本町	
4月13日 高槻市 植物一般 (Y)			ママコナ属 (H)
4月14日 吹田市 植物一般 (H・Y)	9月8日	吹田市	植物一般 (Y)
4月17日 大阪市内 植物一般 (H)	9月8日	仙台市青葉山	菌類 (S)
4月23～25日 和歌山県田辺市・串本町	9月11日	岡山県長島	植物一般 (H)
	9月12日	河内長野市	植物一般 (Y)
	9月13日	大阪市内	植物一般 (H)
4月28日 大阪市内 植物一般 (H)	9月17日	和歌山県田辺市・串本町	
5月2日 住吉大社 植物一般 (H)			ママコナ属 (H)
5月8～13日 台湾 植物一般 (Y)	9月19～22日	北海道奥尻町・青森県平内町	海岸植物 (Y)
5月19日 大阪市内 植物一般 (H)	9月22～23日	和歌山県田辺市・串本町	
5月19～23日 熊本県阿蘇市・高森町 植物一般 (Y)			ママコナ属 (H)
5月21～23日 和歌山県田辺市・串本町	9月26日	和歌山県田辺市・串本町	
			ママコナ属 (H)
5月24～25日 岡山県真庭市・鳥取県伯耆町	9月29日	吹田市	植物一般 (Y)
	10月1～5日	和歌山県田辺市・串本町	
5月28日 吹田市 植物一般 (H・Y)			ママコナ属 (H)
5月29日 大阪市西成区 植物一般 (H)	10月7日	河内長野市	植物一般 (Y)
5月29日 高槻市 植物一般 (Y)	10月7～8日	和歌山県串本町	ママコナ属 (H)
5月30日 大阪市内 植物一般 (H)	10月10日	和歌山県串本町・田辺市	
6月1日 高槻市 植物一般 (Y)			ママコナ属 (H)
6月6日 兵庫県川西市 植物一般 (Y)	10月10日	和歌山県田辺市	水生植物 (Y)
6月6・7日 和歌山県田辺市・串本町	10月14～15日	三重県伊勢市・串本町・田辺市	
			ママコナ属 (H)
	10月15～16日	熊本県高森町	植物一般 (Y)
6月20～23日 新潟県新潟市 海岸植物 (Y)	10月17日	岐阜県関市百年記念公園	菌類 (S)
6月29日～7月8日 北海道各地	10月24・25日	福岡県小呂島	植物一般 (H)
	10月26日	京都市京都府立植物園	菌類 (S)
	10月27日	和歌山県串本町	ママコナ属 (H)
	11月1日	東大阪市枚岡公園	菌類資料 (S)
6月22日 橿原市橿原神宮 菌類 (S)	11月4～8日	和歌山県串本町・田辺市	
6月25～27日 和歌山県田辺市・串本町			ママコナ属 (H)
	11月5・6日	奈良県上北山村大台ヶ原	菌類・蘚苔類 (S)
7月5日 東大阪市枚岡公園 菌類 (S)	11月6日	吹田市	植物一般 (Y)
7月20日 藤井寺市 水生植物 (Y)	11月17日	和歌山県すさみ町	植物一般 (H)
7月24・25日 和歌山県田辺市・串本町	11月28日～12月1日	沖縄県竹富町	植物一般 (Y)
	12月12日	交野市大阪市大植物園	菌類 (S)
	12月19日～12月23日	沖縄県竹富町	
7月30日～8月2日 香川県栗島、広島			クロボウモドキ・植物一般 (Y)
	2月18日	高槻市楊梅山	菌類 (S)
	3月11日	八尾市	植物一般 (H)
8月1～3日 岡山県真庭市・鳥取県伯耆町	3月25日	大阪市	植物一般 (H)
8月9～17日 北海道各地 ハナシノブ属など (Y)			
8月18～20日 熊本県阿蘇市・高森町 植物一般 (Y)			
8月15～18日 和歌山県田辺市・串本町			
8月27～29日 大分県日出町・杵築市・国東市			
8月22日 和歌山県田辺市・串本町			
8月25～31日 屋久島			

■地史研究室

担当学芸員は、川端…K、塚腰…T、林…Hと略記

する。
9月1～6日 フランスで植栽されているメタセコイア (T)
9月9～12日 北海道中川町 海生爬虫類化石・アンモナイト・貝化石 (H)
10月2・3日 香川県高松市塩江町 海生爬虫類化石 (H、T)
10月9・10日 香川県高松市塩江町 海生爬虫類化石 (H)
11月24日 滋賀県湖南市野洲川、古琵琶湖層群産植物化石 (T)
1月13～16日 愛媛県久万層群産植物化石 (T)
1月17日 大阪府泉佐野市 アンモナイト化石 (H)

■第四紀研究室

担当学芸員は、石井… I、中条武司… Nと略記する。

5月4日 香川県小豆島 海浜砂 (N)
5月24日 岡山県真庭市蒜山 珪藻土・火山灰試料 (I)
5月24日 鳥取県大山町 石英安山岩 (I)
5月28日 岡山県玉野市 海浜砂 (N)
8月2～4日 福島県南相馬市 海浜砂・津波堆積物はぎ取り標本 (N)
8月11日 北海道白滝市 黒曜石・流紋岩 (I)
8月27～29日 大分県国東市 海浜砂 (N)
9月9～11日 岡山県倉敷市・瀬戸内市 海浜砂 (N)
9月12日 鹿児島県志布志市 火山灰試料・海浜砂 (I)
9月16日 鹿児島県鹿児島市・霧島市 火山灰試料 (I)
9月18日 鹿児島県南さつま市・日置市・指宿市 海浜砂 (N)
9月26・27日 長野県王滝村 安山岩溶岩 (I)
2月16日 富田林市 大阪層群火山灰試料 (I)
3月8日 堺市 大阪層群火山灰試料 (I)

Ⅲ. 資料

動物研究室 (平成26年度末)

海綿動物	133点
刺胞動物・有櫛動物	696点
扁形・紐形動物	444点
触手動物	141点
環形動物	5,628点

甲殻類	16,003点
軟体動物	37,521点
棘皮動物	2,914点
原索動物	467点
その他無脊椎動物	1,028点
魚類	41,286点
両生類	22,043点
爬虫類	7,897点
鳥類	7,294点
哺乳類	2,889点

(計) 146,384点

■昆虫研究室 (平成26年度末、未登録標本を含む)

標本総数 966,656点

日本産昆虫

カワゲラ目	534
カゲロウ目	10,183
トンボ目	18,772
カマキリ目	625
直翅目	23,352
ナナフシ目	516
ハサミムシ目	563
ガロアムシ目	99
ゴキブリ目	575
シロアリ目	93
シロアリモドキ目	25
チャテテムシ目	335
アザミウマ目 24	
同翅類 (カメムシなど)	15,108
異翅類 (セミなど)	30,324
脈翅目	1,736
シリアゲムシ目	1,915
トビケラ目	2,284
蛾 (ガ)	65,622
蝶 (チョウ)	77,608
甲虫目	315,626
ハエ目	47,985
ハチ目	44,941
その他 (各目)	17,006
クモなど	16,928

(計) 692,779

資料収集保管事業

外国産昆虫	
蝶（チョウ）	83,109
蛾（ガ）	7,727
ハチ目	5,171
ハエ目	3,415
甲虫	128,964
脈翅目	108
同翅類（セミなど）	6,152
異翅類（カメムシなど）	2,099
直翅型昆虫	6,263
トンボ目	1,317
カワゲラ目	66
その他（各目）	3,117
クモなど	1,581
南太平洋学術調査コレクション	4,700
田中竜三氏コレクション	12,439
韓国産昆虫コレクション	1,506
アフガニスタンの昆虫	6,143
（計） 273,877	

■植物研究室（平成26年度末、未登録標本を含む）

種子・シダ植物さく葉標本	283,312
蘚類標本	36,300
苔類標本	23,550
地衣類標本	353
海藻標本	12,708
菌類標本	18,000
木材標本	1,772
木材プレパラート	1,283
果実標本	6,071
（計） 383,349	

■地史研究室（平成26年度末、登録済標本数）

岩石	1,275点
鉱物	2,815点
脊椎動物化石	1,764点
古生代無脊椎動物化石	1,370点
中生代無脊椎動物化石	3,090点
有孔虫等微化石プレパラート	17,841点

放散虫化石	135点
古生代植物化石	185点
中生代植物化石	369点
第三紀植物化石	3,745点

（計） 32,589点

■第四紀研究室（平成26年度末、登録済標本数）

人類遺物	29点
植物化石	25,974点
現生花粉プレパラート	2,114点
現生花粉	941（種）
現生シダ植物胞子	362（種）
無脊椎動物化石	5,564点
大阪市内ボーリング資料	1,683（件）

（計） 36,667点（件・種）

IV. 自然史図書の収集と活用

当館の資料収集活動の一環として、自然史科学に関係した図書資料の収集を行っている。その大部分は当館発行物との交換で収集しているものであるが、個人、出版社、団体、自治体、政府機関等からの単行本、各種報告書等の寄贈や、当館予算による購入によるものもある。

普及書や図鑑類は、大半を「花と緑と自然の情報センター」内の自然の情報センターに配架し、入館者の閲覧と、市民からの各種の相談や質問への対応に使用されている。

専門図書は主として各研究室に、調査報告書・逐次刊行物は書庫に配置されている。また各種地図の収集も行っている。これら専門図書の閲覧や利用の希望も近年増加してきているが、司書が配置されていないため、市民が直接利用できる体制はとれていない。コピーサービスについては、学芸員が文化庁の著作権実務講習を受けることによって、法的には実施可能な体制を整え、自然の情報センターにおいて市民の要望に応えられるように備えているが、現在のところ、サービスを開始できていない。

平成9年度に開始した交換・寄贈による逐次刊行物と寄贈・購入書籍のコンピュータへのデータ入力は、平成26年度（2014年度）も、新しく受け入れたものについて引き続きおこなっている。

平成26年度末までにデータ入力をおこなった電子出版物を含む図書は、350部で、入力済み収蔵数は15,353部である。また、交換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物と調査報告書は平成25年度に2,430冊、平成25年度末現在の累計180,010冊である。

1. 個人・機関からの受贈（登録済みの分のみ。交換分は除く、敬称略）

●**個人**：藤田敏彦、小郷一三、稲葉満里子、小林真吾、沖野登美雄、矢部淳、下野義人、山下博由、宮武頼夫、盛口満、桑島正二、渡部哲也、岡本好司、樽野博幸、白木江都子、谷田一三、藤丸篤夫、塚本珪一、宮田彬、林靖彦、勝山照男、宮武頼夫、岸川慎一郎、河合真弓、中山博子、虞国躍、浜田信夫、西澤真樹子、山西良平、波戸岡清峰、佐久間大輔、石田惣、松本吏樹郎、粉川昭平、市川顕彦、藤井伸二

●**民間団体、出版社、企業など**：山川出版社、公益財団法人武田科学振興財団杏雨書屋、鳥根県環境生活部自然環境課、日本直翅学会、日本自然科学写真協会、小学館出版局、講談社、トンボ出版、株式会社全国農村教育協会、JT生命誌研究館、独立行政法人森林総合研究所、日本ベントス学会自然史学会連合、大阪府環境農林水産部みどり・都市環境室みどり推進課、滋賀経済同友会「企業と生物多様性」研究会、株式会社水曜社、伊吹山ネイチャーネットワーク、日本植物画倶楽部

●**政府機関及び自治体および関連団体、大学、研究所など**：石川きのこ会、MUSEO REGIONALE DI SCINZE NATURALI、神奈川県横須賀市三浦地域県政総合センター、北広島町教育委員会、環境省自然環境局生物多様生センター、西宮市役所、兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課、萩市総合政策部企画政策課、八王子市、高梁市成羽美術館、千葉県環境生活部自然保護課生物多様性センター、愛媛県民環境部環境局自然保護課、大阪市立長居植物園、東北学院大学博物館、国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所、関西広域連合広域環境保全局（滋賀県琵琶湖環境部環境政策課内）、枚方市教育委員会文化財課（市史資料室）、三重県農林水産部みどり共生推進課、岐阜大学地域科学部、札幌市博物館活動センター、岩手県立博物館

2. 購入等によるもの

●**図書購入費による購入（登録済みの分のみ）**

平成27年度 30冊

●**消耗品費による購入**

国内7誌

[平成27年度購入雑誌]

国内：科学、遺伝、海洋と生物、月刊地球、別冊地球、月刊海洋、別冊海洋。

●学会への加入による収集

10学会へ団体会員として加入し、会誌を収集した。学会名は以下の通りである。この他にも、多く収集すべき学会が国内外に多数あるが、予算の状況から入会できていないのが現状である。

日本動物学会（動物学雑誌）

日本生物地理学会（Biogeography, 日本生物地理学会会報）

日本衛生動物学会（衛生動物）

日本遺伝学会（遺伝学雑誌）

日本藻類学会（The Japanese Journal of Phycology, 藻類）

日本陸水学会（Limnology, 陸水学雑誌）

日本地学研究会（地学研究）

日本博物館協会（博物館研究）

全国科学博物館協議会（全科協ニュース）

国際トンボ学会（ODONATOLOGICA）

この他、交換により、会誌を受領している学会も多い。

3. 文献交換状況

当館発行の研究報告・自然史研究・収蔵資料目録・展示解説・館報および大阪市立自然史博物館友の会発行(当館編集)Nature Study と交換に、国内国外の研究・教育機関と文献交換を行っており、各種自治体・団体・個人から調査報告書等の寄贈を受けた。

■研究報告など出版物の配布

2014年度の配布は以下の通り。

	国内		国外	
研究報告68号	471ヶ所	484冊	400ヶ所	403冊
自然史研究 第3巻15号	365か所	378冊	178カ所	181冊
収蔵資料目録 第46集	241ヶ所	252冊	53ヶ所	54冊
展示解説 第45回特別展解説書				
トリケラトプス展 図録				
ミニガイド No.26	264ヶ所	283冊	0カ所	0冊
館報 39号	665ヶ所	684冊	11ヶ所	11冊

展 覧 事 業

自然史博物館の展示は、常設展示を主体とし、特別展示、特別陳列が、これを補っている。常設展示室としては、旧来の博物館建物（以下本館）にナウマン・ホールならびに第1～第5展示室があり、平成13年4月にオープンした「花と緑と自然の情報センター（略称：情報センター）」1階には、地域自然誌展示室がある。特別展示は情報センター2階のネイチャー・ホールで開催している。特別陳列はネイチャー・ホールまたは本館2階のイベント・スペースで開催している。

平成26年度の常設展入館者数は、207,526名（うち有料80,447名）、特別展120,109名（うち有料33,314名）であった。常設展、特別展を合わせた総入館者数は、327,635名であった。常設展入館者は前年度比9,792名増、総入館者数も前年度比18,071名増となった。

I. 常設展

常設展示は「自然と人間」を基本テーマとし、具体的に身近な自然現象から出発し、分野的、地理的に、そして歴史的にも視野を広げることによって、人と自然とのかかわりをも含めた自然界の法則性に至ろうとする考えのもとで展開されている。したがって、本館の展示は、一つのストーリーに従って組み立てられている。本館入口のナウマン・ホールでは、上記の基本テーマに基づき、自然史博物館の展示のねらい、すなわち、私たち人間が、どのように自然とかわって来たのか、そしてこれから、どう自然とつきあっていけばよいのか、ということ、象徴的に展示している。

第1展示室「身近な自然」と第2展示室「地球と生命の歴史」では、身近な大阪の自然から出発して、その歴史を地球の誕生まで遡り、第3展示室「生物の進化」では、その地球上のさまざまな環境において、生物は、他の生物と関わりを持ちながら、常に進化し分布を広げようとしてきたし、今もそうであることを述べている。締めくくりの第5展示室では、「生き物の暮らし」をテーマに、生き物たちは、生き物同士、そして私たちの生活と、どのようにつながって、どんな環境でくらしているのかを、展示している。

情報センター1階の「大阪の自然誌」展示室は、大阪の自然に関するものはすべて知りたいという市民の要望に応えることをめざしたものである。ここでは、大阪各地域の自然の特徴を地域ごとに解説する展示、大阪で見られる生物や化石の標本をできるだけ網羅するコーナー、そしてパソコンによる大阪の自然に関する情報検索コーナーを設け、多くの市民が大阪の自然について自主的に学ぶことが可能な施設となっている。さらに、学芸員による相談コーナーが、情報検索

コーナーに隣接した場所に設けられ、常時、市民の質問に答えられる体制をとっている。

平成26年度には、第2展示室から2階に上がる階段部分の壁クロスの一部張り替え補修工事を行うとともに、満足度向上もめざして「ジオラボ」・「子どもワークショップ」・「ミニワークショップ（たんけんクイズ）」等の館内行事を実施し、来館者サービスに努めた。

II. 特別展

特別展示は、地元大阪とその周辺地域の自然誌を紹介したり、学芸員の研究成果を広く市民に還元するという趣旨で、開催してきた。13年度からは、ネイチャーホール新設を契機として、新聞社などが企画する、自然史科学あるいは生命科学に関する展覧会を積極的に誘致し共催することによって、さらに広い分野の展覧会を市民に提供することとしている。館主催特別展のテーマについては、少なくとも数年先までの計画を立てている。

(1) 第45回特別展「ネコと見つける都市の自然

一家の中から公園さんぽー」

都市は、もともとあった自然を人間がほぼ完全にくりかえることによって、新しくできた環境。もともとその場所にすんでいた生き物の大部分は姿を消している一方で、都市がつくられることによって、逆に数を増やす生き物もいる。都市には自然がないといった言い方をされることがあるが、そうではなく、山や川や海とは違って、都市には都市の自然がある。多くの人が気付いていない都市で暮らすさまざまな生き物を探し、都市生態系について考える。

1998年、第25回特別展「都市の自然」展を開催した。その開催趣旨は、上記とほぼ同じで、街の中にさまざまな生き物が暮らしていることを紹介した。それを受けての今回は、単に都市の生物相を紹介するだけでなく、都市の自然の“変遷”を一つの大きなテーマに据えた。比較的新しくできあがった都市の自然は、今なお人の手を加えられ続け、その中でどんどん変化している。その都市の自然の実態を紹介した。

本特別展は、大阪市立自然史博物館友の会会員を中心に組織した、「都市の自然調査プロジェクト Project U」のメンバーと共に実施した調査の成果の発表の場でもあった。都市の自然調査プロジェクトは、2011年4月から2014年7月まで活動し、登録メンバーは156名であった。

なお、本特別展は、大阪市立自然史博物館開館40周年記念イベントの一環として開催した。

●内容（主な展示物）

家の中の虫、都市の鳥類・哺乳類、セミの抜け殻、公園の昆虫、公園の植物・菌類。日本各地の都市のタンポポ、カミキリ、セミ、陸貝、鳥。ゴケグモ、アライグマ、カミツキガメ、外来昆虫、外来陸貝、埋立地の植物など外来生物。住吉大社、天下茶屋の湿地、吹田の草地の植物。ヘビ・トカゲ類、カエル類、アシダカグモ、アリ、陸貝の生品も展示した。企画物として、入って虫をさがせる部屋、巨大な蚊の大群、黄金御殿、巨大ゴキブリホイホイ、過去と現在の大阪市内の水田面積を示した床張り展示がある。会場での子どもワークショップが終わった10月には、ワークショップスペースにおいて、天王寺動物園から引き取った動物の骨格標本の展示を行った。

●会 期：平成25年7月19日（土）～10月13日（月祝）

●主 催：大阪市立自然史博物館

●観 覧 料：大人500円、高校生・大学生300円（30人以上団体割引あり）、中学生以下無料。本館（常設展）とのセット券は、大人700円、高大生400円。障がい者手帳などをお持ちの方、市内在住の65歳以上の方（要証明）は無料。

●入 場 者：13,275人。有料合計3,914人、29.5%（大人3,330人、高大生509人、ぐるっとパス25人、キャンパスメンバーズ50人）。無料合計9,361人、70.5%（中学生以下3,528人、高齢者1,152人、その他個人2,767人、団体1,914人）。

●キッズマップ・パネル：子どもに展示の見どころを、楽しく、判りやすく伝えるために、キッズパネルを設置し、キッズマップ（A4判両面刷り）を配布した。子ども向けを意識して、イラストを用い、平易な表現を用いたため、大人の来場者にとっても、展示を見学する手がかりとして機能していた。

●展示見学ワークシート：多くの中学生や高校生に、課題意識を持ちながら展示を見学してもらうために展示見学ワークシート（A3判両面刷り）を作成し、中学校、高等学校に配布した。

●ネコ関連企画：ネコキャラクターの「ニャンたろう」を設定し、ポスター・チラシ、解説書、及び展示パネルにも登場させた。ニャンたろうがネコ目線でコメントをつける「ニャンたろうパネル」22枚、来場者が着てみるができる「ネコマント」3種（手袋付き）、SNSを見て来た来場者に配布する「ニャン太郎免許証」、来場者に募集をかけたネコの写真館、といったネコ関連企画を展示室で展開した他、床にネコの足跡を貼って、会場にネコ要素を付け加えた。

●展示解説書：「都市の自然2014」というタイトルをつけ、大阪府を中心に都市の自然について解説した。

1998年の「都市の自然」展の解説書の内容を新しくしただけでなく、都市の自然をさらに広範囲に取り扱い、現時点での都市の自然解説の決定版を目指した。カラーページ8ページ、本文113ページ。

●連携展示：大阪市内の図書館12館において、会期前から会期中の4月～10月にミニ展示を行った。また、7月に大阪市立大学の学術総合センター、8月にインテックス大阪において開催開催された夏休み！こども冒険博でもミニ展示を行った。その他、長居植物園・長居公園の展示している生き物のいる場所に、小型パネルを取り付け解説し、展示と植物園・公園との連携の取り組みを行った。

●関連行事

・子どもワークショップ

特別展会場のワークショップスペースにおいて、小学生以下を主な対象として、2つのワークショップを実施した。

「まちなかネコさんぽ」：展示室を見て回って、ネコが食べる生き物と食べない生き物を区別して、塗り絵。「ネコさんぽ」マップに貼る。随時参加。7月20日、7月21日、7月26日、7月27日、8月16日、8月17日。参加者285名。

「おしえて！カラスはかせ」：ハカセのカラスの解説を聞き、展示を見た後、「カラスてちょう」を完成させる。1日3回のプログラム。8月2日、8月3日、8月23日、8月24日。参加者96名。

「いえのなか・きらわれものカード」：ハカセから虫の話聞いた後、「おもしろカード」を作る。1日3回のプログラム。8月9日、8月30日、8月31日（8月10日は台風接近のため臨時休館で中止）。参加者56名。

・特別展普及講演会「田舎のネコと町のネコ」

ノネコの生態研究の第一人者に、さまざまな環境でのネコの社会構造の可塑性についての講演をしていただいた。

日 時：8月16日

場 所：大阪市立自然史博物館 講堂

講 師：伊澤雅子氏（琉球大学）

参 加 者：154名

・大阪市立中央図書館講演会「都市で暮らす動物たち ツバメ、タヌキ、カエル」

大阪市内のタヌキ、市街地の田んぼのカエル、大阪市内や関西の駅のツバメの話などを紹介した。

日 時：5月31日

場 所：大阪市立中央図書館 5階 中会議室

講 師：和田 岳

参 加 者：55名

(2) 自然史博物館・長居植物園 40周年記念企画
特別展「恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス」
～知られざる大陸ララミディアでの攻防～

- 会 期：平成26年3月21日（金・祝）～5月25日（日）61日間（うち平成25年度は50日間）
- 会 場：大阪市立自然史博物館ネイチャーホール（花と緑と自然の情報センター2階）
- 主 催：大阪市立自然史博物館、読売新聞社、中央宣伝企画
- 後 援：一般財団法人大阪スポーツみどり財団（長居植物園）、大阪よみうり文化センター、大阪府公衆浴場生活衛生同業組合
- 協 賛：ダイワボウ情報システム
- 協 力：国立科学博物館、天草市立御所浦白亜紀資料館、群馬県立自然史博物館、篠山市、丹波市、栃木県立博物館、名古屋大学博物館、バーピー自然史博物館、兵庫県立人と自然の博物館、福井県立恐竜博物館、北海道大学総合博物館、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、ロイヤルオンタリオ博物館
- 観 覧 料：大人1,200円、高大生800円。特別展入場料にて、自然史博物館常設展（大人300円、高大生200円）も入場可能。中学生以下、障がい者手帳などなどをお持ちの方は無料。30人以上の団体割引あり。

大阪市立自然史博物館は西区靉2丁目（元靉小学校校舎改造）から長居公園に移転してから、長居植物園は開園から、40周年を迎えた。これを記念して開催した。

恐竜時代の最後・後期白亜紀に北アメリカ大陸の東西の分断によって出現したララミディア大陸をクローズアップすることで、そこを舞台に多様化し、繁栄していった植物食恐竜トリケラトプスの仲間の起源と進化の謎に迫る展示。アラスカからメキシコまで南北に



図1. 特別展「恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス」

長く伸びた西の陸地ララミディア大陸には、恐竜たちの中でも新参者としてアジアから移り住んできたトリケラトプスの仲間の劇的な進化の舞台となった。トリケラトプスの仲間がララミディア大陸内の各地域で次々に入れ替わり、その頭の飾りが派手に変化していく様子は、まるで日本の戦国時代の戦国武将の様相であった。そして、戦国時代の最後に登場したトリケラトプスが大陸の広域に分布して天下統一を果たし、恐竜戦国時代の覇者となったが、それから間もない6600万年前に恐竜は絶滅を迎えた。

日本初公開となる多数の新しい標本を用いて、トリケラトプスの仲間の起源から絶滅までの歴史を、多彩な骨格標本や生態復元モデルを通じて分かりやすく展示した。特にララミディアの多様なケラトプシア類の頭骨については、ずらりと一か所にならべ、ケラトプシア類の頭骨の展示会のようなスタイルの展示にした。さらに、中国のインロン、ララミディア大陸のズニケラトプスやカスモサウルスなど、トリケラトプスの仲間の進化史を飾った恐竜たち、および同時代にともに進化してきたティラノサウルスをはじめとする肉食恐竜たちとの対峙も、全身骨格展示によりダイナミックに展示した。本展示会は当館初のオリジナル恐竜展示であり、わずか61日間の会期で11万人もの多くの来場者が来館した展示となった。

●入 場 者：110,461人。有料37,731人（34%）、無料入場者72,730人であった。うち平成26年度の入場者は89,880人。

●関連行事

- 3月21日（金）特別展記念講演会「トリケラトプスとその仲間達の謎を探る」 250名
- 3月21日（金）ギャラリートーク 60名
- 3月21日（金）～4月15日（火）恐竜ぬりえ「トリケラトプスのなかまをぬってみよう！」 351名
- 3月24日（月）ギャラリートーク 20名
- 3月26日（水）恐竜バルーンを作ってみよう！ 54名
- 3月27日（木）恐竜ハンコ教室 44名
- 3月28日（金）折り紙教室「いろいろな恐竜をつくってみよう」 61名
- 3月29日（土）折り紙教室「いろいろな恐竜をつくってみよう」 48名
- 3月31日（月）ギャラリートーク 30名
- 3月31日（月）恐竜ワークショップ「飛び出す恐竜カード」 55名
- 4月7日（月）ギャラリートーク 40名
- 4月7日（月）春休み企画「きょうりゅう寿司を作ろう」 44名

4月12日(土) ジオラボ「様々な恐竜化石をみてみよう」	61名
4月12日(土)、13日(日)、5月17日(土)、18日(日) 子どもワークショップ「ずら〜り！ト リケラ ミニびょうぶ」	482名
4月19日(土) 自然史オープンセミナー「ララミディ ア大陸の恐竜」	89名
5月10日(土) ジオラボ「中生代の森の植物」	52名
5月10日(土) 映画「ウォーキングwithダイナソー」 ブルーレイ&DVDリリース記念 試 写会	200名
5月17日(土) 映画「ウォーキングwithダイナソー」 ブルーレイ&DVDリリース記念 試 写会	200名
5月17日(土) 折り紙教室「いろいろな恐竜をつくっ てみよう」	84名
5月17日(土) 自然史オープンセミナー「中生代の植 物の移り変わり」	30名
5月18日(日) ワークショップ「恐竜折り紙ストラッ プ作り」	20名

(3) 特別展「スペイン奇跡の恐竜たち」

- 会 期：平成26年3月21日(土)～5月31日(日)
66日間(うち平成25年度は11日間)
- 会 場：大阪市立自然史博物館ネイチャーホール
(花と緑と自然の情報センター2階)
- 主 催：大阪市立自然史博物館、読売新聞社、読
売テレビ
- 後 援：スペイン大使館、大阪スポーツみどり財
団(長居植物園)、大阪府公衆浴場生活
衛生同業組合
- 協 賛：大和ハウス工業、ダイワボウ情報システム
- 特別協力：スペイン教育・文化・スポーツ省、カ
スティーリャ＝ラ・マンチャ州、カス
ティーリャ＝ラ・マンチャ州立博物館、
マドリッド自治大学、スペイン国立通信
教育大学
- 学術協力：福井県立恐竜博物館
- 協 力：国立科学博物館、栃木県立博物館、兵庫
県立人と自然の博物館、北海道大学総合
博物館、丹波竜化石工房 ちーたんの館
- 観 覧 料：大人1,000円、高大生700円。特別展入場
料にて、自然史博物館常設展(大人300
円、高大生200円)も入場可能。中学生
以下、障がい者手帳などなどをお持ちの
方は無料。30人以上の団体割引あり。
支倉常長(はせくらつねなが)を大使とする慶長遣

欧使節団派遣(1613年)から400年にあたる2013年から2014年にかけて、日本とスペインにおける「日本スペイン交流400周年事業」の一環として、特別展「スペイン 奇跡の恐竜たち」が企画された。

本展では、中生代白亜紀(約1億4500万年前から6600万年前)のスペインの地層から見つかった肉食恐竜「コンカベナトール」と日本の肉食恐竜「フクイラプトル」が近縁な関係であることから、これらの恐竜を比較するとともに、スペインの様々な恐竜を紹介している。2010年にイギリスの科学誌「ネイチャー」で発表された、腰部分に奇妙な突起をもち、羽毛や手足の裏の肉球のあとが残る“奇跡的”な保存状態の恐竜「コンカベナトール」の全身骨格標本をはじめ、スペインから発見されている白亜紀の様々な恐竜化石や初期の鳥類化石、そして生息環境を示す動植物の化石を多数展示している。

日本ではこれまで、北アメリカ、南アメリカ、モンゴル、中国などで産出した恐竜化石がしばしば紹介されてきたが、スペインも世界有数の恐竜化石産地である。これほど大規模なスペイン恐竜展は国内では初めてで、展示物もほぼすべてが日本初公開となっている。
※関連行事など詳しくは館報41号に掲載する。

Ⅲ. 特別陳列

特別陳列は、特別展と同様な趣旨で行っているが、より小規模なもの、あるいはテーマを絞ったものであり、また市民からの寄贈品・コレクションの紹介も含めて、随時実施している。

■ミニ展示 270万年前に出現したクロマツ～日本列島に生育するクロマツの起源と歴史を解明～

金沢大学と共同で行ったマツ属の化石研究において調査したクロマツの化石とオオミツバマツの化石(いずれも三木茂コレクション)をナウマンホールにて、平成26年1月25日(土)～5月25日(日)に展示した。

■ミニ展示「植物標本のタネは地域の自然を救う!？」～時を越えて発芽する植物標本のタネ～

会 期：2014年3月15日(土)～5月31日(土)
会 場：自然史博物館本館 2F 第5展示室出口
主 催：自然史博物館
監 修：新潟大学教育学部 植物学教室
概 要：大阪市立自然史博物館の標本庫には、都市化などによって現在では失われてしまった植物の標本を数多く保管している。今回の展示では、志賀元学芸員の科学研究費によ

展 覧 事 業

る研究成果を元に、これらの植物標本に残されたタネ（種子）に注目し、博物館標本を用いた新しい生物保全の可能性について、植物標本と標本から撒きだしたタネ、実際に発芽した芽生え（生品）や写真などをミニ展示を通して紹介した。

■自然史博物館・長居植物園 40周年記念企画 恐竜戦国時代の「エサ」?! 一化石と長居植物園で知る植物の進化一

恐竜が食べたかもしれない植物に触ってみよう!

会 期：平成26年4月26日（土）～5月25日（日）
会 場：花と緑と自然の情報センター2階 アトリウム

主 催：大阪市立自然史博物館・大阪市立長居植物園
概 要：中生代には様々な恐竜が栄えたが、「エサ」となった植物があったからこそ植物食恐竜は栄えた。そして、植物食恐竜が栄えたからこそ、肉食恐竜も栄えたと言える。植物があつてこそ、恐竜だけでなく、地球の生物は存在できた。

展示では、恐竜のエサとなった植物化石の他、地球最古の陸上植物から、現在栄えている被子植物までの化石を展示し、化石をもとに、5億年の植物の進化をたどった。

自然史博物館がある長居植物園には、恐竜が生きていた時代に栄えた植物の子孫（イチヨウ、ソテツ、アロウカリアなど）が植えられている。また、メタセコイア、セコイア、ユリノキなどの、化石として日本からは見つかるが、日本列島からは消滅した植物も植えられている。長居植物園の樹木にも、「恐竜のエサとなった植物」、「日本列島からは消滅した植物」の表示を行い、化石と長居植物園の植物を通して、恐竜戦国時代の「エサ」、植物の歴史、日本列島の太古の時



図2. 恐竜戦国時代の「エサ」?!

代の森に思いを巡らせる展示を行った。

会期中に開催していた特別展「恐竜戦国時代の覇者! トリケラトプス ～知られざる大陸ララミディアでの攻防～」とも関連した展示となった。

主な展示物：クックソニア、クックソニア（復元模型）、カラミテス、アロウカリア（球果、幹）、メタセコイア、ユリノキ

■ミニ展示 ミュージアムウィークス大阪2014 大坂の陣400年

「大阪城の石垣の石材」

会 期：平成26年10月1日（水）～11月3日（月・祝）
発掘調査が行われた豊臣期大坂城の石垣と徳川期大坂城の石垣に使われている石材について解説し、推定される産地の石材と同じ岩石を収蔵標本から選定して本館1階 入口脇の展示スペースで展示した。

■ミニ展示「大山桂貝類学文庫の貝類図譜」

会 期：平成26年10月18日（土）～11月9日（日）
詳細は8ページ参照。

■夏休み 自由研究・標本展

会 期 2014年12月6日～2015年2月1日
場 所 自然史博物館本館2階イベントスペース
主 催 大阪市立自然史博物館
概 要 児童生徒が夏休みに行った自由研究や、作成した標本を展示した。生き物や化石・岩石がテーマの作品を対象とし、関連する分野の学芸員による講評を付けた。

展示内容 Nature Study11月号で作品を募集をした。11名の児童（未就学児1名を含む）による、植物、昆虫、動物、菌、プランクトン、化石などを対象とした自由研究・標本を展示した。

■ミニ展示「タンポポの不思議を探ろう」

サクラや菜の花同様、誰もが春の花としてその名を失くしたタンポポ。春休み、そして春の遠足シーズンを前に、タンポポのちょっとした生態とともに自然史博物館が開発した学校向け貸出教材の紹介の意味を含めて、本館1階入口脇の展示スペースで平成27年2月17日から展示している。

IV. 館外での展示

市立図書館・市民学習センターなどの依頼に応じて、また特別展の広報を兼ねて、小規模な移動展示を

行っている。

■「生物多様性協働フォーラムいのちにぎやか、文化ゆたか。 ～いのちと文化の共鳴をよみがえらせる～」

月 日：2014年12月21日
場 所：京都市京都劇場
主 催：生物多様性協働フォーラム事務局
共 催：京都府、京都市
協 力：当館他
概 要：京都の文化と生物多様性保全をテーマとした講演会とパネルディスカッション

大阪市立自然史博物館及び大阪自然史センターが活動紹介をパネル出展、また佐久間学芸員がパネルディスカッションコーディネーターとして登壇した。

■「夏休み こども冒険博」

期 間：平成26年8月2日～22日
会 場：インテックス大阪
主 催：（一財）大阪国際経済振興センター、テレビ大阪
後 援：大阪府、大阪市、大阪府教育委員会、大阪市教育委員会
協 力：大阪市立自然史博物館他
概 要：「出張 大阪市立自然史博物館 ネコと見つける都市の自然と大阪の化石」というタイトルで、同時期に開催中の特別展のダイジェスト展示と、大阪の化石を紹介した。

V. 「たんけんクイズ」

自然史博物館は、大阪市内の他の社会教育施設と同様、平成7年より小中学生の入館料を無料としている。このような状況の中で、展示をよく見ることによって、学習効果をいっそう高めることをめざし、平成8年7月より「自然史探検すくらっちクイズ」を、実施してきた。入館時、小中学生に各1枚手渡し、5問中正解4問以上の場合には、絵はがきまたは昆虫カードを記念品として配布している。ただし学校団体での見学は対象外としている。

問題のカードは各5問で、当初は10種類であった。平成16年7月からは、あらたに低学年（小学1～3年生）向けに4種類のカードを制作し配布を始め、従来のカードは4年生～中学生向けとした。

さらに平成17年7月以降の土・日曜日には、専任スタッフによるカードの配布を開始した。その際カードに自由に書き込みできる用紙を添付し、毎月テーマを決めて参加者に絵を描いてもらい、その絵を館内に掲

示するなどした。

平成18年3月からは名称を「たんけんクイズ」にあらためた。平成24年度の春には、第5展示室の問題を入れるなど、改訂を行った。

VI. その他

- (1) 「関西文化の日」の11月15日（土）ならびに16日（日）を無料開放とした。
- (2) 3月23日（月）、30日（月）、4月6日（月）を臨時開館し、特別展「スペイン 奇跡の恐竜たち」では、学芸員によるギャラリートークを開催した。

普及教育事業

I. 各種普及教育活動

多様な博物館利用者とその要望に応えるため、次のような各種の普及行事を行っている。観察会のテーマの多様化と参加者数の増加にともない、館外からの講師を招いている(**印)。また、市民の社会奉仕活動への参加意欲を満ち、よりきめ細かい普及教育活動を行うために、普及行事にボランティアによる補助スタッフを導入している(*印)。補助スタッフ制度は、下見を兼ねた事前学習や学習会等をそれぞれの行事について行うのが特徴であり、補助スタッフにとっては少人数制の中身の濃い学習の場として活用されている。各種行事はこうした多数の方々の理解と協力によって支えられている。特に2007年度より、野外学習会や野外実習・室内実習などの行事を、特定非営利活動法人大阪市自然史センターとの共催で実施している。自然史センターとの連携により、柔軟な講師配置、補助スタッフによるサポート体制の拡充、より充実した教材の提供を行う事が可能になり、行事の質の向上につながるものと考えている。

近年、自然観察や、標本作りをする人が減少していると言われている。若い世代の標本作りや自然観察への支援を強化するために、今年度より一部の行事をリニューアルした。「夏休み自由研究相談会」をとりやめ、新たに「標本作りまつり」を行った。「標本の名前をしらべようー標本同定会ー」には、同定会講師による講義「達人による標本トーク」を新たに実施した(詳細は47ページ)。また、児童・生徒による夏休み自由研究や標本を展示する「夏休み自由研究・標本展」を行った(詳細は展覧事業40ページ)。今後も、若い世代の自然観察や標本作りを支援する普及行事や展示に力を入れて継続する予定である。

以下に各行事の記録を、行事名、実施場所、実施月日、参加者数の数の順に略記する。なお、各種特別展に関連して実施した普及行事はここでは略記するか省略した。行事の詳細は展覧事業36～39ページの各特別展関連事業の項を参照のこと。

■やさしい自然かんさつ会

これまでに自然史博物館の行事に参加したことのない人を主な対象に、自然の面白さを野外で直接体験してもらい、自然に親しむ糸口をつかんでもらうことをねらいとした行事。普及行事の中では初級向け。独自の広報用チラシを作成し、区役所、社会教育施設および当館内で配布し、野外活動に参加したことのない新しい層の開拓に努めた。

定員を超過した行事もあるが、自然史センターとの共催に伴い外部講師を増員して抽選率を緩和した行事

もある。また補助スタッフの導入により、安全と教育効果の両面を確保しながらも大人数での行事を行うことが可能になっている。

「レンゲ畑の生き物」*、** 高槻市		
4月27日	申込143名(当選143名)	参加104名
「海べのしぜん」*、** 岬町長崎海岸		
5月18日	申込289名(当選289名)	参加218名
「はじめてのキノコ」*、** 東大阪市枚岡公園		
7月6日	申込210名(当選150名)	参加106名
「ツバメのねぐら」* 奈良市		
8月9日	申込216名(当選216名)	台風中止
「バッタのオリンピック」** 藤井寺市石川		
10月5日	申込141名(当選141名)	雨天中止
「はじめてのキノコ」* 東大阪市枚岡公園		
11月2日	申込132(当選123名)	雨天中止
「化石さがし」 泉佐野市		
12月7日	申込246名(当選204名)	参加183名
7回計画	4回実施	延べ参加者数611名

■地域自然誌シリーズ

大阪をとりまく地域を歩き、その地域の自然をさまざまな分野の観点から観察し、自然の特徴とそこを利用する人との関わりについて総合的に考えることを目的とした行事。普及行事の中では中・上級向け。

「ポンポン山」高槻市		
6月1日	申込84名(当選84名)	参加56名
「岩湧山」* 河内長野市		
10月12日(日)	申込60名(当選45名)	台風中止
2回計画	1回実施	延べ参加者数56名

■テーマ別自然観察会

自然の中の諸現象からテーマと対象をしぼって観察することで、自然に対する理解をより深めようとする行事。学芸員の専門分野を基礎にしたテーマが多く、さらに掘り下げた学習機会の提供を可能にしている。他の博物館施設や図書館、研究団体との共催が増えていく。

「公園のネコの観察」 長居公園		
4月6日	申込71名(当選71名)	参加45名
「テントウムシ」*、** 高槻市		
4月26日	申込42名(当選42名)	参加22名
(あくあびあ芥川と共催)		
「はじめてのバードウォッチング 春の渡り鳥を見つけよう」長居植物園(大阪府立図書館と共催)		
4月29日	申込152名(当選87名)	雨天中止
「ハッカチョウとムクドリを比べる」大阪市東淀川区～淀川区		
5月10日	申込47名(当選47名)	参加35名
「二上山の火山岩類」** 葛城市～香芝市		

6月8日	申込99名(当選51名)	参加42名
(地学団体研究会大阪支部と共催)		
「埋立地の帰化植物」* 大阪市舞洲緑地		
6月14日	申込28名(当選28名)	参加26名
「高槻のカエル探し」*、** 高槻市		
6月22日	申込151名(当選107名)	雨天中止
(あくあぴあ芥川と共催)		
「アカハネオンブバッタ」** 大阪市南港野鳥園		
9月28日	申込53名(当選53名)	参加38名
「鳴くシカの声聞く会」** 奈良市		
10月25日	申込60名(当選60名)	参加43名
「二上山の火山岩類」** 葛城市～香芝市		
10月26日	申込59名(当選58名)	参加50名
(地学団体研究会と共催)		
「川の地形と堆積物」 大阪市住吉区		
11月24日	申込37名(当選37名)	参加31名
「恐竜化石産地の地層と化石を調べよう」丹波市		
2月8日	申込98名(当選30名)	参加23名
(丹波竜化石工房ちーたんの館と共催)		
「大阪層群の地層と化石」岸和田市		
3月29日	申込74名(当選25名)	雨天中止
(きしわだ自然資料館と共催)		

13回計画 10回実施 延べ参加者数355名

■プロジェクトU都市の自然の調査

2011年度より都市の自然の調査プロジェクト(プロジェクトU)を実施した。市民参加で都市の自然を調べる企画であり、今年度の特別展「ネコと見つける都市の自然」でその成果を紹介した。今年度を実施した観察会は以下の通りである。

「大阪平野のボーリング標本調査」		
4月6日		14名
5月3日		14名
5月31日		14名

■室内実習

生物・化石などを材料に、博物館に備え付けの研究機器を活用しながら、野外では行えない分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。普及行事の中では上級向け。

「鳥の調査の勉強会」		
4月5日	申込20名(当選20名)	参加15名
「ホネ標本の作り方」*、**		
8月10日	申込44名(当選37名)	台風中止
「ホネ標本の作り方(大人)」*、**		
9月28日	申込48名(当選26名)	参加22名
「樹脂包埋標本の作製1」		
10月26日	申込12名(当選12名)	参加8名
「平野の地下の地層の調べ方」		

11月2日	申込12名(当選12名)	参加13名
「樹脂包埋標本の作製2」		
11月30日	申込12名(当選12名)	参加6名
「解剖で学ぶイカの体のつくり」*		
2月1日	申込16名(当選16名)	参加13名
「マツボックリ」*		
2月15日	申込10名(当選10名)	参加4名
「魚のからだ」		
2月22日	申込14名(当選14名)	参加13名
9回計画 8回実施 延べ参加者数94名		

■長居植物園案内

第4土曜日に長居植物園で行う植物研究室の学芸員の案内による観察会。近年は参加者が多いため、補助スタッフによる観察の手引きが不可欠である。また、補助スタッフが自主的に学芸員による解説の記録を発行しており、参加者の学習効果を高めることに貢献している。6、12、1、2月には、他分野の学芸員とのコラボレーションによるスペシャル編の植物園案内を行った。

4月26日*	参加87名
5月24日*	参加144名
6月28日「昆虫と植物」*	参加122名
7月26日*	参加42名
8月23日*	参加69名
9月27日*	参加88名
10月25日*	参加102名
11月22日*	参加75名
12月27日「木の実と鳥」*	参加119名
1月25日「球果実スペシャル」*	参加99名
2月28日「葉脈スペシャル」*	参加101名
3月28日*	参加90名

12回実施 延べ参加者数1138名

■長居植物園案内：動物・昆虫編

季節の変化に応じた身近な都市公園の自然を知ること、身の回りの自然をより知ってもらいたいがある。原則として毎月第1土曜日に開催している。普及行事の中では初・中級向け。

「春の渡り鳥」*	
4月26日	参加81名
「小さな甲虫いろいろ」	
5月3日	参加53名
「公園で繁殖する鳥」*	
6月7日	参加46名
「大池の生き物」	
7月5日	参加37名
「夏の昆虫たち」	
8月9日	台風中止

普及教育事業

「秋の渡り鳥」*	
9月6日	参加58名
「秋の羽根ひろい」*	
10月4日	参加50名
「ダンゴムシ・ワラジムシ」*	
11月1日	雨天中止
「冬越しの虫さがし」	
12月6日	参加47名
「公園の冬鳥」	
1月10日	参加64名
「冬の羽根ひろい」*	
2月7日	参加64名
「花にくる鳥」*	
3月7日	参加33名

10回実施 延べ参加者数533名

■自然史オープンセミナー

自然史科学に関する話題を市民に普及する講演会。当館学芸員が自らの調査・研究の成果に基づいて行ったほか、外部講師も招いた。原則として、毎月第三土曜日の午後1時～2時30分に、当館集会室で開催。夏から秋には、特別展に関連して都市の自然に関するテーマで5回実施した。8月は特別展「ネコと見つける都市の自然」の普及講演会、3月は特別展「スペイン 奇跡の恐竜たち」のオープニング講演会を兼ねた。

「ラミディア大陸の恐竜」	
4月19日	参加89名
「中生代の植物の移り変わり」	
5月17日	参加30名
「都市の地形と地盤」	
6月21日	参加56名
「カラスから見た都市の自然」 「高木化する公園の樹木」	
7月19日	参加79名
「田舎のネコと街のネコ」**	
8月16日	参加154名
「都市に残る自然と植物」	
9月20日	参加47名
「都市の甲虫相」 「移入種アカハネオンブバッタ」	
10月11日	参加37名
「アサギマダラなどの長距離移動蝶は日本海周辺を移動するか」	
12月20日	参加37名
「菌類学講座」**	
1月17日	参加65名
「果実と種の多様性」	
2月21日	参加50名
「スペイン 奇跡の恐竜たち」**	
3月21日	107名

11回実施 延べ参加者数751名

■ジオラボ

普段はくわしく観察するチャンスが少ない化石や岩石、鉱物、地層などについて、展示解説、簡単な実験、顕微鏡観察などの方法により体験学習してもらう行事。当日の来館者に気軽に参加してもらえよう、展示室内や展示室に隣接した場所で行っている。普及行事のなかでは、初・中級向け。原則として第2土曜日の午後に行っている。

「様々な恐竜化石を見てみよう」*	
4月12日	参加61名
「中生代の森の植物」*	
5月10日	参加52名
「裸子植物の化石」*	
6月14日	参加35名
「海の砂を見てみよう」*	
7月12日	参加39名
「石ころ調べ」*	
8月9日	参加21名
「葉っぱの化石」*	
9月13日	参加34名
「珪藻の化石を見てみよう」*	
10月18日	参加15名
「ボーリング資料を使って地質断面図を描く」*	
11月8日	参加17名
「絶滅動物の病気を調べよう」*	
12月13日	参加37名
「防災地図を作ってみよう」*	
1月10日	参加28名
「褶曲のモデル実験」*	
3月14日	参加27名

11回実施 延べ参加者数366名

■標本作りまつり*

前年度まで行っていた「夏休み自由研究相談会」をリニューアルした行事である。小学生から大人までを対象とし、1日で昆虫・植物・動物（鳥の羽根と貝）の標本作りを体験することができるようにした。さらに、キノコ標本づくり、植物化石のクリーニング、鳥の剥製づくり、岩石の割り方を見学できるブースを設定した。この行事で標本作りを体験し、夏休みに自分でも実際にやってみて、「標本の名前をしらべよう」で講師と一緒に種名を調べて夏休みの自由研究を完成させることが可能である。また、作成した標本や自由研究を、「夏休み自由研究・標本展」（42ページ）で展示して多くの人に見てもらえることができる。

今年度は初めての実施だったため、参加人数が非常に多く、標本作りをあきらめた参加者が見られた。事

前申込みにするなど、次年度以降は実施方法を変更する必要がある。

日時：7月21日（月・祝）

場所：自然史博物館 講堂、集会室、実習室、
ミュージアムサービスセンター、玄関前
ポーチ

参加人数：310名

■標本の名前を調べよう & 達人による標本トーク*、**

児童生徒が夏休みに採取して作成した標本の名前を、講師と一緒に調べる行事。生き物や化石・岩石の名前をしらべることにより、自然をより身近なものとしてとらえ、探究心を育てることをねらいとしている。子どもだけでなく、大人の参加も多い。館外から多数の専門家に講師として参加していただき、8月下旬に実施している。今年度は、講師に自身が専門とする分野の標本作りや標本から分かることについてお話いただく「達人による標本トーク」を、ミュージアムサービスセンターにおいて行った。

なお、この行事の効果を高めるため、夏休みの始めに「標本作りまつり」（7月21日）を行った。

日時：8月24日（日）

場所：自然史博物館 集会室、実習室、会議室、
ミュージアムサービスセンター

件数：88件

参加者数：118名

■講演会・シンポジウム・実習（学会等と共催）

学会などと共催した講演会やシンポジウム・実習を開催し、多数の市民に聴講いただき、好評を得た。特別展普及講演会と友の会総会招待講演は、それぞれ別項に記した。

貝類学会公開講演会「追うヘビ、逃げるカタツムリの
右と左の共進化」

4月13日 参加208名

博物館・センター報告会

4月26日 参加117名

第31回地球科学講演会（日本地質学会近畿支部・地学
団体研究大阪支部）「プレートの沈み込みと国土形成」

5月25日 参加125名

菌学会中・高生向け実習講座（キノコとカビから始める
バイオサイエンス）

8月22日 参加21名

すげの会「スゲ属（カヤツリグサ科）植物分類勉強会」

11月2日 参加35名

日本昆虫学会近畿支部・日本鱗翅学会近畿支部合同大
会「昆虫学公開研究発表会」

12月14日 参加89名

関西自然保護機構総会「地域自然誌と保全研究発表会」

3月1日

参加185名

■はくぶつかん・たんけん隊*

実験室や収蔵庫などのバックヤードを中心とする館内見学行事。普段は見ることのできない博物館の施設を、学芸員の具体的な仕事内容とともに紹介する。博物館を身近で親しみやすいものとして感じ、自然史についての興味をそだてることをねらいとしている。2008年度からタイトルを変更し、対象を小学生から小中学生に広げた。参加者とは別枠で、参加者の家族（保護者や未就学児）を対象に、ガイドランスとバックヤードショートツアーを行った。

1月11日（日）・12日（月祝） 申込79名 参加68名

■ジュニア自然史クラブ

従来から普及行事の参加者を見ると、小学生連れの親子の参加は多いものの、中学生の参加は少なく、さらに高校生や大学生の参加がほとんど見られないことが指摘されていた。それを克服すべく、高校の教員との懇談（1999年2月20日）を持った中で、高校生は小学生連れの家族や年輩と一緒にの行事には参加しないとの指摘を受けた。

それらをふまえて、2000年から中学生・高校生を対象にした「ジュニア自然史クラブ」を開始している。単に中高生向けの行事を実施するだけでなく、クラブ組織とすることによって、学校外の友人と出会う場となることと、継続的な参加を意識した。

●部員の募集

博物館の通常の行事案内で、ジュニア自然史クラブの行事を告知し、部員を募集した。また、前年度の部員にも引き続き行事案内を送付した。

●ジュニア自然史クラブへの参加者

一度申し込んだ中高生を部員とし、申込者にはその後も、行事の案内を直接送ることとした。2015年3月31日現在の部員数は72名。

●2014年度の活動内容

当初は、2ヶ月に1度のペースでの行事を学芸員が企画した。その他に、部員からの希望に応じて、行事を追加した。

「ミーティング」	4月2日	27名
「溪流の生きものさがし」	5月6日	24名
「磯観察」	6月15日	12名
「川遊びしてスッポン探し」	7月20日	10名
「ミーティング」	8月7日	18名
「キノコ狩り 星田園地」	9月15日	16名
「奈良公園のリスとシカ探し」	10月26日	14名
「五月山と五月山動物園」	11月3日	6名
「ミーティング・フェスティバルの準備」	11月9日	9名
「メタセコイアとゾウの足跡」	12月14日	15名

普及教育事業

「河原で焼き芋」	1月5日	7名
「琵琶湖博物館」	2月1日	14名
「屯鶴峯とサヌカイト」	3月26日	11名

13回計画 13回実施 参加者数のべ183名

■子ども向けワークショップ

未就学児や小学生、親子連れの来館者にも、楽しみながら展示の内容を理解していただくために、子ども向けワークショップを2005年から実施している。テーマは常設展示に関わるものや、特別展に関連したものなどから、ワークショップスタッフと担当学芸員で決定している。

2007年から、行事をより円滑に進めるために、18歳以上の学生からサポートスタッフを15～20名程度募集し研修を実施した上で、2ヶ月に1回程度プログラムに参加してもらっている（年間登録制）。サポートスタッフには、学芸員やワークショップスタッフと一緒にオリジナルプログラムを製作、3月の「はくぶつかん 子どもまつり」において実施してもらった。特別展開連行事として行ったワークショップについての詳細は、展覧事業36ページからの各特別展の関連行事を参照のこと。

「クジラスタンプラリー」		
5月5日・6日		参加972名
「ながいるかな まちのなか」		
6月14日・15日		参加101名
「はかってビックリ！大きな生きもの」		
9月20日・21日		参加112名
「じっけん タネたねハカセ」		
10月4日・5日、11月8日・9日		参加97名
「ふゆのおちば」		
12月13日・14日		参加65名
「びっくり変態！むしムシ親子」		
1月17日・18日、2月21日・22日		参加159名
「はくぶつかん 子どもまつり」		
3月28日・29日		参加206名
35日実施 延べ参加者数2428名（特別展開連含む）		

II. 博物館実習

以下の日程で博物館実習を実施し、本年度は以下の14大学、のべ24名の学生を受け入れた。

一般実習コース

夏 期：9月3日～9月7日 10名

貞國利夫（八洲学園大学）、山本友里（甲南女子大学）、嶋 耀子（京都府立大学）、田中夏季（京都精華大学）、里見駿太・千田海帆・井上弘貴・大塚啓太郎（近畿大学）、井上 誉（龍谷大学）、山上繁政

（滋賀県立大学）

秋 期：10月15日～19日 13名

寺山佳奈（高知大学）、中西亮太（京都教育大学）、中園美紀（日本大学）、藤原英明（追手門学院大学）、小林正幸（京都府立大学）、森本 然・佐藤真央（琉球大学）、中西篤樹（龍谷大学）、谷口 龍・松井佑希子・村上美雪・横村尚子（神戸大学）、半田和正（滋賀県立大学）

普及教育専攻コース

冬 期：1月10～12日・24～25日 1名

越田 有（北海道大学）

III. 各種研修

■補助スタッフ研修

1995年度から友の会による補助スタッフ制度を導入している。補助スタッフ事業の運営は当館の事業の最もよき理解者である「友の会」に委託し、会員の中から募集を行なっている。行事实施に必要な知識・技術会得のために、行事のテーマと内容に応じて当館学芸員による事前研修、勉強会、打ち合わせ、企画会議、事後研修等を行なった。補助スタッフは、こうした研修を通して自身の学習に積極的に取り組み、その成果を社会に還元しようとする方々であり、当館の普及事業の一翼を支えている。行事内容に即した多様な興味を反映し、補助スタッフ参加者も広範になっている。このことは、補助スタッフ研修が「魅力ある学習の機会」として認知されていることを示し、この意味でも改めてこの事業が当館の普及活動の大きな柱となり、当博物館の普及教育プログラムとして重要な位置を占めていることがわかる。

IV. 学校教育への対応

博物館には学校の授業の一環として、多くの生徒、児童、園児が訪れている。来館当日だけではなく、事前学習・事後学習において、博物館の展示や資料を教材にして授業が行われている。また、博物館の訪問とは別に、博物館の展示や資料は授業の教材として活用されている。

博物館には、収集された標本・資料と学芸員の専門的な知識を基に、学校教育活動を多面的に行なえる素材がたくさんある。この多面的な教育活動をより充実させるためには、博物館と学校、それぞれの特徴を活かして、双方が連携することが重要である。

これまで博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、学校の先生と情報交換をしなが

ら、様々な素材を準備してきた。今後も、博物館・学校の双方が連絡を密にして、新たな博物館と学校の連携の方法を創り出す必要がある。

1. 体制

学校と博物館の連携を中心とした普及教育事業を担当する教育スタッフ1名を配置している。教育スタッフと学芸員数名によって、委員会（TM（Teachers-Museum）委員会）を組織し、学校と博物館の連携について検討し、連携の推進を図っている。

2. 連携のための事業

博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、以下の様々な事業を行っている。

<児童・生徒向け事業>

・博物館マップ・ワークシートの配布

見学に便利な博物館マップとワークシートを作成し、学校で印刷して持参できるようにしている。博物館マップは小学校低学年・高学年の2種類、ワークシートは小学校低学年・高学年、中学校の3種類がある。特別展「恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス」、「都市の自然」では、中学生・高校生向けのワークシートを作成し、春夏の課題として学校へと案内した。

・博物館での授業（学芸員によるレクチャー）と質問対応

当館を訪れた児童・生徒に対して、各分野の学芸員が、設定したテーマに基づく展示の解説、レクチャー、質問対応などを行なっている。テーマによっては、展示だけでなく長居植物園の見学、収蔵標本の鑑賞、実習室を使った実習などを組み込んでいる。実施に当たっては、先生からの要望を基に、先生と学芸員の十分な事前打ち合わせを行い実施している。児童・生徒が博物館に来られない事情がある場合は、学芸員が出向いて授業を行っている。（長居植物園は除く）。

2014年度は保育所・幼稚園1件、小学校10件、中学校6件、高校7件、大学2件、専門学校2件、合計28件の授業を行った。

2014年度の授業例：「生物と環境のかかわり」、「植物のサイクル」、「環境によるほ乳類の骨格の違い」、「虫の体」、「大阪平野のおいたち」など。

・職場体験学習・就業体験（インターンシップ）の受け入れ

受け入れの運用方針を定め、受け入れている。運用方針はホームページに掲載している。2014年度は、大阪府内の中学校4件、視覚支援学校高等部1件（計7人）を受け入れた。

<先生向け事業>

・遠足下見時の説明

遠足等の下見に来た学校園の先生に対して、教育スタッフおよび博物館警備員が、博物館見学についての説明を行っている。施設利用の手続きや注意事項、見学の見所などの博物館見学の概要説明に加え、学校向け貸し出し資料や学校向けの博物館事業の紹介も行っている。学芸員によるレクチャーなどのリクエストの受付、見学やレクチャーについて提案するなど、学校と博物館をつなぐ窓口となっている。また、電話等による問い合わせにも対応している。

春の下見集中時に合わせ、隣接する長居植物園の教員向け案内行事を行い、遠足で来るときの植物観察の参考にしてもらえるようにしている。4月7日、8日に実施した。

下見の時には、見学時や事前学習に役立つ様々な資料を配布している。配布している資料：団体見学の案内、貸し出し資料の一覧、博物館と学校連携の紹介資料、子ども向け館内マップ（小学生低学年用・高学年用）、ワークシート（中学生用、小学低学年用・高学年用）など。

・資料の貸し出し

見学の事前学習、先生の教材研究のために、博物館の出版物、ビデオ、標本キット（授業用に準備された標本と解説資料）を貸し出している。それらの内容、貸し出し方法はホームページに掲載している。

2014年度は、博物館の出版物等書籍22件、ビデオ・CD-ROM・DVD22件、紙芝居38件、標本キット31件の貸し出しを行った。

貸出資料

博物館の出版物：特別展展示解説書、ミニガイド、博物館叢書シリーズ、「ナガスケ」紙芝居セットなど。

ビデオ・CD-ROM・DVD：蝶・蛾の世界、昆虫の化石、都市の自然など。

標本キット：川原の石ころ、ボーリングコア、セミ、テントウムシ、ドングリ、ホネキット（肉食・草食動物の頭骨、アライグマの全身骨格）など。

・教員向けの研修

小中学校、高校、特別支援学校、教員を目標としている大学生、総合的な学習の時間に関わる活動をされている方、自然観察会の指導している方を対象に研修を行っている。これら以外に、各地の理科教育研究会等からの依頼教員研修を7件行った。

・情報誌「TM通信」の発行とTMネットワーク（Teachers-Museum Network）

先生と博物館の交流を深め、情報を交換することを目的としたTMネットワーク（Teachers-Museum



図3. タンポポキット

Network) をつくっている。118名が登録しており、電子メールや郵送により、「総合学習の支援プログラム」をはじめ、特別展、自然観察会、実習、講座など、学校の先生に役立つ博物館の行事を掲載した情報誌「TM通信」を4回発行した。

＜その他＞

・教員のための博物館の日 in 大阪市立自然史博物館の実施

国立科学博物館が全国的に進めている事業である「教員のための博物館の日」を8月8日に行った。ガイドツアー・体験型のプログラムなどさまざまな教員向け研修を実施した。大阪市・大阪府の研修の一つとして、大阪教育大学が実施するコアサイエンスティーチャーの授業としても位置づけ、また、他館（あくあびあ芥川、海遊館、天王寺動物園、国立科学博物館など）からもブース出展してもらい、109名の参加があった。

プログラム 学芸員と一緒に歩く解説ツアー1：長居植物園で学ぶ日本の植物群系、学芸員と一緒に歩く解説ツアー2：特別展で学ぶ都市の自然の生態系、学芸員と一緒に歩く解説ツアー3：常設展で学ぶ「動物のホネ」、体験型プログラム1：無脊椎動物（イカ）の体、体験型プログラム2：虫の体、体験型プログラム3：ぐるぐる消しゴムアンモナイトなど。

※教員のための博物館の日はJSPS科研費（課題番号25350411）の助成を受けて実施した。

・大阪府内の高校との連携

大阪府高校生物研究会および地学研究会と連携し、特別展の情報提供を行っている。2014年度の大阪府の高校の生徒生物研究発表会を博物館で実施した。

・教科の単元と博物館の展示の対応関係の紹介

小学校の生活科・社会科・理科・国語、中学校の

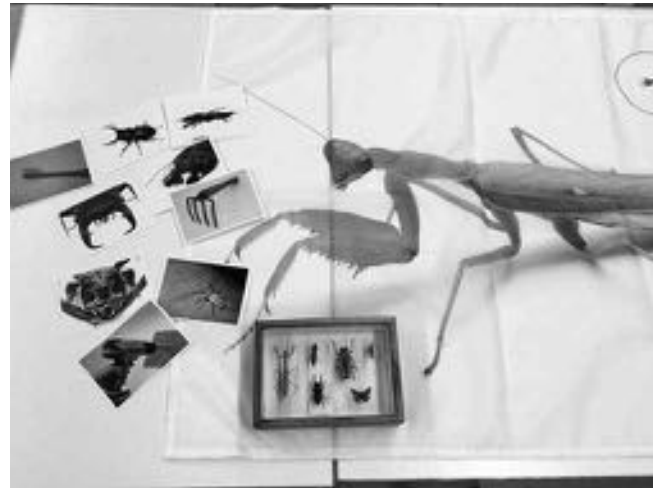


図4. 虫の体キット03

社会科（地理・歴史・公民）・理科（第2分野）・国語・家庭科・技術・保健体育の指導要領における学習内容と博物館の展示の対応を博物館ホームページで公開し、学校での事前学習、事後学習などの資料としている。

・ホームページでの情報提供

博物館ホームページに「学校と博物館」のページを開設し、上記の学校向けの博物館事業についての情報提供を行っている。ワークシートやマップなどの配布資料はホームページからダウンロードできるようにし、学校の博物館利用計画に役立つ情報を提供している。今年度は、JSPS科研費（課題番号25350411）の助成を受け、全面リニューアルを行い、利用しやすいようにデザインを改めた。特に、「学習を深めるために」のコーナーに掲載した「教科書から見た展示」を今年度の指導要領に合わせて更新し、整理するとともに、国語（小・中学校）や中学校の家庭科・技術・保健体育にも対応できるようにした。また、それぞれの学習に対応するワークシートや貸出キットの有無を対応表に追加した。

・ミュージアムサービスセンターでのスクールサポート

自然史博物館の本館1階の展示室に面したエリアに、ミュージアムサービスセンターがあり、スクールサポートの場として位置づけられている。学校の先生の相談に応じたり、貸出資料（標本キット、ビデオ・CD-ROM・DVDなど）、授業に役立つ博物館の出版物などを展示・紹介している。

・今年度は平成26年度科学博物館活動等助成事業を受け、ボーリングコアを貸し出し標本として運用すると同時に指導案やワークシートを作成し研究授業を行い、その教育効果の検証を行った。また、JSPS科研費（課題番号25350411）の助成を受け、国語で使える貸出キット（「タンポポ（図3）」と「虫の

体(図4)」の2種)を開発した。

V. 大阪自然史フェスティバル 2014

大阪市立自然史博物館、認定特定非営利活動法人大阪自然史センター、関西自然保護機構の3団体の主催のもと、多くの出展団体の参加を得て2014年11月15～16日に盛大に開催された(カラー口絵参照)。

なお、過去のフェスティバルなどの出展者数、参加者数の推移は表2のとおりである。

●出展団体108、出展ブース100

●来場者数

11月15日(土) 10,500名

11月16日(日) 12,800名

合計23,300名

●主な関連イベントと参加者数

■シンポジウム「森に生きる不思議なサギ ミゾゴイ
～その暮らしを知り、保護を考える～」

日時：11月15日(土) 13:00～15:30

主催：日本野鳥の会大阪支部

基調講演「ミゾゴイの魅力～分かってきた生態と習性～」川名国男氏(ミゾゴイ研究会代表)

報告「新梅田シティのミゾゴイを密着追跡した3日間～採餌行動を中心に～」納家 仁氏(日本野鳥の会大阪支部)

パネルディスカッション「ミゾゴイを守るために 現状と課題」

パネリスト：川名国男氏、納家 仁氏、橋本正弘氏
(大阪府鳥獣専門員)

参加：151名

■講演会「大震災が東北太平洋沿岸域に及ぼした影響とその後のベントスの回復状況」

日時：11月16日(日) 10:30～12:00

主催：大阪湾海岸生物研究会

講師：鈴木孝男氏(東北大学大学院生命科学研究科)

参加：55名

■2010年代の里山管理シンポジウムⅡ「薪のある暮らしは何を変えるのか」

日時：11月16日(日) 13:00～16:30

主催：大阪自然史センター(二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金「地域における草の根活動支援事業」として)

「里山管理は二酸化炭素排出抑制と生物多様性の二兎を追えるのか」

佐久間大輔(大阪市立自然史博物館)

「里山はなぜ管理を必要とするか」

大住克博氏(鳥取大学)

「薪で変える里山と社会の関係」

奥敬一氏(富山大学)

「薪ストーブのある暮らし」

中田兼介氏(京都女子大学)

「芸北せどやま再生事業の担うもの」

白川勝信氏(北広島町芸北高原の自然館)

総合討論

参加：93名

■谷口高司のたまご式鳥絵塾

5回実施 のべ参加者数75名

■叶内拓哉 野鳥の話 アレコレ

参加 43名

■叶内拓哉“350mm/500mm/850mm超望遠撮影体験”

参加 40名

■はじめての鳥みたい(隊)

2回実施 のべ参加者数151名

■植物園の小さな秋を見つけよう

4回実施 のべ参加者数102名

表2. 過去のフェスティバルなどの参加者数と出展数

	タイトル	参加者数	出展数
1	大阪自然史フェスティバル2003	20,000	85
2	大阪自然史フェスティバル2004	15,000	81
3	大阪自然史フェスティバル2006	19,300	85
4	大阪バードフェスティバル2007	16,000	57
5	かんさい自然フェスタ2008	10,050	73
6	大阪自然史フェスティバル2009	13,000	89
7	大阪バードフェスティバル2010	18,300	47
8	大阪自然史フェスティバル・リミテッド2011	12,200	54
9	大阪自然史フェスティバル2012	17,300	98
10	大阪バードフェスティバル2013	16,700	65
11	大阪自然史フェスティバル2014	23,300	108
*	ホネホネサミット2009	8,300	37
*	ホネホネサミット2011	11,100	50
*	ホネホネサミット2014	3,000	47

VI. 大阪市立自然史博物館友の会

自然史博物館友の会は、博物館を積極的に利用して、自然に親しみ、学習しようとする人たちの会である。友の会の会計年度は1～12月で、博物館とは独立した組織として運営されている。2001年からは特定非営利活動法人 大阪自然史センターの事業として運営されており、その活動の輪を広げている。

友の会では、博物館主催行事とは別に行事を44回の行事を実施し、延べ2,694名の会員とその家族が参加した。友の会行事では、自然観察と同時に会員相互の

普及教育事業

交流・会員と評議員や学芸員の交流が行われている。

■庶務報告

- 2014年度の会員数は1,691名（一年会員1,426名、4月会員86名、半年会員87名、10月会員29名、賛助会員63名）であった。

※2013年賛助会員（五十音順、敬称略）

麻野 浩、安部みき子、天野雅雄、池上研二、石井久夫、石田美禰子、乾 公正、猪野 守、岩佐果林、浦野動物病院、大岩 誠、大久保幸子、大宮文彦、岡和田 齊、檜根 妙、加藤江理子、呉華璋、粉川正博、小郷一三、小菅康孝、小山 栄、佐々木万里子、佐竹敦司、佐藤興治、寫田由紀、清水直樹、釋知恵子、白川勝正、高橋明子、高橋弘志、瀧川久子、瀧端真理子、田代 貢、田村美美子、土屋慶丞、寺田雅章、豊島邦光、内貴章世、中井悦子、中尾はな、中村 肇、西尾秀雄、西川喜朗、西村静代、丹波三千代、野村典子、橋本由紀子、樋渡諦児、益田晴恵、松浦宜弘、松下宏幸、丸山健一郎、宮城達雄、三宅規子、宮武頼夫、森口 猛、山崎敏雄、山下良寛、山西良平、米澤里美、和田 岳、匿名2名

- 5回の定例評議員会を開催し、友の会の事業、庶務などについて審議した。
- 事業ワーキンググループで事業に関する議論を11回行い、評議員会に提案を諮った。事業ワーキンググループメンバーは評議員だけでなく、一般会員からも募っている。

■事業報告

- 印刷物の刊行：Nature Study誌60巻1号（通巻716号）～12号（通巻727号）を発行した。また2月号の付録として「友の会のしおり」を発行した。
- 自然史フェスティバル（11月15～16日）に出展し、評議員による観察会「植物園の小さな秋を見つけよう」、バッジ作り、友の会の紹介、入会の案内を行った。
- 行事を47回計画し、うち44回を実施した。延べ2,694名の参加があった。

- 友の会総会2013
1月26日（日） 274名
- 月例ハイキング（9回614名）
1月19日（日）高槻市川久保から本山寺 39名
2月16日（日）動物園で生物の進化を探る 120名
3月30日（日）春の磯で海藻を食べよう！ 雨天中止
5月18日（日）京都・深泥池の植物 46名

- | | |
|--|------|
| 6月15日（日）妙見山周辺の雑木林 | 69名 |
| 7月20日（日）木津川に沿って大河原から笠置へ | 50名 |
| 8月17日（日）市大植物園（私市） | 65名 |
| 9月13日（土）ウミホテル | 125名 |
| 11月30日（日）生駒山系高安地区で虫の死体をさがそう！ | 56名 |
| 12月21日（日）佐紀古墳群を訪ねて | 44名 |
| (3) 友の会まつり
友の会春祭り
4月20日（日）大池の生き物しらべ | 157名 |
| 友の会秋祭り
10月19日（日）海からの贈り物・人からの落とし物2014 | 244名 |
| (4) 4月19日（土）友の会春祭り準備 セルビンつくり | 50名 |
| (5) 友の会限定！収蔵庫見学ツアー
2月9日（日） 32名
2月11日（火・祝） 75名 | |
| (6) 友の会の夕べ
7月19日（土） | 98名 |
| (7) 友の会合宿
7月19日（土）～20日（日）滋賀県マキノ | 43名 |
| 8月1日（金）～3日（日）蒜山・大山 | 46名 |
| 5月3日（土）～5日（月祝）小豆島 | 60名 |
| (8) 韮公園のセミのぬけがら調べ
9月6日（土） | 104名 |
| (9) 博物館に泊まろう！自然史ナイトミュージアム
7月26日（土）～27日（日） | 96名 |
| (10) シカがいるかもナイトハイク
6月7日（土）～8日（日） | 27名 |
| (11) 八雲ヶ原ハイキング
6月22日（日） | 雨天中止 |
| (12) 海の向こうの見聞録発表会、友の会懇親会
12月27日（土） | 89名 |
| (13) 平日行事
5月12日（月）紫金山公園 12名
11月21日（金）街中の自然散歩 天下茶屋から生國魂神社 54名 | |
| (14) クモの網のパネルづくり
6月29日（日） | 41名 |
| (15) 裏庭ビオトープの日（10回373名）
1月18日（土） 16名
2月15日（土） 雨天中止
3月15日（土） 46名
4月19日（土） 70名
5月17日（土） 96名 | |

6月21日（土）	34名
7月19日（土）	21名
8月16日（土）	14名
9月20日（土）	39名
10月18日（土）	32名
12月20日（土）	5名
(16) 鳥類フィールドセミナー（9回205名）	
1月18日（土）	26名
2月15日（土）	21名
3月21日（土）	32名
4月19日（土）	28名
5月31日（土）	23名
8月2日（土）	3名
8月30日（土）	31名
9月27日（土）	21名
12月20日（土）	20名

■役員（2014年）

会 長：西川喜朗

副 会 長：谷田一三、山西良平

評 議 員：板本瑤子、稲本雄太、浦野信孝、河合正人、橘高加奈子、小林春平、高田みちよ、田代 貢、鍋島靖信、西澤真樹子、花岡皆子、弘岡拓人、藤江隼平、堀田 満、道盛正樹、三宅規子、宮崎智美、村井貴史、森 康貴、山崎俊哉、米澤里美

会計監査：加納康嗣、左木山祝一

広 報 事 業

多くの市民が博物館へ来館し、また、博物館が企画しているイベント（特別展、普及行事）に参加いただけるよう、様々な媒体・手段を通して広報活動を行っている。平成26年度の取り組みとしては、プレス発表の件数増加のため、特別展やフェス以外にも館の事業を積極的にリリースした。またリリース先の拡大として、大阪市情報公開室経由のリリース件数を増やした。

<体制>

定例では月1回、必要に応じて臨時に、学芸課（5名）と総務課（3名）の広報担当が集まり、広報計画の立案・検討と実施に取り組んでいる。特別展の広報に関しては、特別展担当者も出席している。学芸課のメンバーの1名は普及活動全体を把握している学芸課の普及担当が毎年交代で参加している。

<広報の種類（項目、媒体）>

定期的な博物館行事情報提供	マスコミ向け行事情報の作成、市民向け催し物案内の作成、大阪市関係広報紙・各種情報誌への情報提供、館内でのポスター掲示を行っている。
ホームページへの情報掲載	博物館および大阪市、様々なメディアのホームページに情報を掲載している。SNS（twitter、facebook、2014年度からはLINEも追加）、ブロガー内覧会などを用いた情報発信に力を入れており、今後も強化していく予定である。
プレス発表	大阪市の情報公開室を通して市政記者クラブと大阪科学・大学記者クラブへ、その他大阪教育記者クラブ、南大阪記者クラブ、関西レジャー記者クラブへも特別展や自然史フェスなど博物館の事業開催を発表している。
写真・テレビ撮影への対応	様々なメディアの取材窓口となり、取材に対応している。
交通広告	特別展では大阪市営地下鉄に吊り広告を掲出している。また大阪市営地下鉄の駅構内にポスターの掲出、チラシ類の配置を行っている。新聞社と共催の特別展の場合には、広報予算が多くなるので、大規模に交通広告を行っている。
掲示物	博物館内：今月のイベント案内を本館と花と緑と自然の情報センターの受付カウンターに掲示している。特別展開催時には、情報センターの階段に大型看板を掲出し、特別展・本館への誘導を行っている。

	公園内：博物館周辺にイベントの案内などを掲出している。掲示箇所：地下鉄長居駅出口、公園内の掲示板、花と緑と自然の情報センター出入り口の看板、長居公園地下駐車場。また、特別展の際にはのぼりを80本製作し、長居公園や周辺商店街に掲出し、長居公園を訪れる人への広報と地下鉄出口から博物館までの誘導案内になっている。
	情報センター西門・南門・入口：表示が無く、これらの入口から自然史博物館へ入館できることが市民にわかりにくいため、特別展の会期以外はスチール看板を利用して、自然史博物館の表示と申し込み不要のイベントを掲示することにした。
	最寄り駅：特別展の際には、地下鉄長居駅の他にJR長居駅、JR鶴ヶ丘駅の改札口付近に、B1ポスターを掲出している。
他施設の情報の提供	博物館には大阪市内をはじめ全国の博物館施設からポスター・チラシが送付されてくる。それらのうち、当館来館者の関心が高いと予想されるものについては、館内で掲示・配布している
大阪市経済戦略局文化情報部での広報	文化部の博物館施設担当へは、すべての情報を提供し、月ごとに他館との調整が行われ、文化部から市の広報媒体の紹介を受け、テレビ、ラジオ、出版物、ホームページなどへ情報提供を行っている。大阪市動画サイト、携帯サイト、いちょう並木、毎日新聞「満載イベント」編など
大阪市博物館協会内での共同広報	指定管理者である大阪市博物館協会と管理委託されている大阪歴史博物館・大阪城天守閣・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市文化財研究所・大阪市立自然史博物館の6施設で共同広報を行っている。

<広報先>

メディア関係	これまでコンタクトのあった各社のアドレスを蓄積し、イベントの内容に応じて広報している。
--------	---

学校・社会教育施設	チラシ類は、大阪市内・府下を中心に、社会教育施設、学校・幼稚園・保育園へ発送している。市立の学校には通送便を活用している。特別展等、広範囲に広報する場合は、日帰り圏内まで送付範囲を拡大する。
地元小学校への広報	イベントの種類および規模に合わせて、地元小学校の全生徒にチラシの配布を行っている。
大阪府内の高校への広報	大阪府高校生物教育研究会と大阪府高校生物地学教育研究会の協力により、大阪府内のすべての高校へ特別展やイベントの案内を送付している。
地元への広報	連合町会長会議を通じて、地元町内会へ特別展のチラシの掲出依頼、内覧会招待の案内を行っている。また、地元の商店街へは、ポスター等の掲示依頼などを行っている。

<2014年度の広報状況>

印刷物の発送先（学校以外）	件数：大阪市内176件、大阪府内193件、その他の府県379件。施設種類：博物館、大学、図書館、青少年施設、教育委員会、市役所、集会学習施設など
チラシ類の印刷・配布枚数	やさしいはくぶつかん春・秋（40,000枚）、ワークショップ4回（120,000枚）、地球科学講演会（35,000枚）、特別展「ネコと見つける都市の自然」（ポスターB2 1,500枚、B3 6,000枚、チラシ 60,000枚）、大阪自然史フェスティバル（ポスターB2 1,370枚、チラシ 65,000枚）、ホネホネサミット2014（チラシ 25,000枚）毎月の催し物案内（1,700枚）
情報提供しているメディア関係	約200社（特別展関係約100社、行事情報約100社）
特別展プレス発表の送信先	市政記者クラブ22社、大阪科学・大学記者クラブ17社、大阪教育記者クラブ14社、南大阪記者クラブ7社、関西レジャー記者クラブ14社、大阪市内区役所広報24区

テレビ放送（特別展以外）	7/8 ちちんぷいぷい「リアル気温くん」セミ 7/8 NHK「サイエンスZERO」夏休みスペシャル 恐竜の細胞が見える！？ 化石研究新時代 8/17 TBS「サンデーモーニング」クマゼミ 8/26 朝日放送ニュース ステゴサウルスに骨髄炎 9/3 読売テレビ「すまたん！ZIP！」カエントケ 9/27 テレビ朝日「スーパーJチャンネル」セアカゴケグモ 12/8 NHK「ニューステラス関西」淀川を脅かすヌートリアなど、19件
新聞報道（特別展以外）	6/27 朝日新聞朝刊「ヒラズゲンセイ」 7/26 産経新聞「大阪の都市化とセミについて」 9/13 大阪日日新聞「9/6 セミのぬけがら調べ」 9/11 朝日新聞朝刊「ステゴサウルスに骨髄炎」 10/16 神戸新聞朝刊「アサギマダラ」 10/13 朝日新聞「ホネホネサミット2014」 2/10 毎日新聞朝刊「デスモスチル」など、17件

<特別展の広報>

■大阪市立自然史博物館・長居植物園 40周年記念企画

特別展「恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス」

～知られざる大陸ララミディアでの攻防～
会 期：平成26年3月21日（金・祝）～5月25日（日）※3月24・31日（月）は臨時開館（詳細は前年度の館報に掲載）

■第45回特別展「ネコと見つける都市の自然 一家の中から公園さんぽー」

会 期：2014年7月19日（土）～10月13日（月・祝）

プレス発表：2014年5月9日（金）

内覧会：2014年7月18日（金）

プレス内覧会：3社4名（産経新聞、タイガー魔法瓶、JOBBS）

広 報 事 業

一 般 内 覧 会：119名（大阪市関係、地元町内会関係者、友の会会員、招待者など）

広 報 媒 体：57の広報媒体で扱われた。そのうち放送関係は、テレビ1、ラジオ3。

ブロガー内覧会：4件

■特別展「スペイン 奇跡の恐竜たち」

会 期：2015年3月21日（土・祝）～5月31日（日）※3月24・31日（月）は臨時開館

プ レ ス 発 表：2014年12月26日（金）、2015年2月6日（金）

内 覧 会：2015年3月20日（金）

プ レ ス 内 覧 会：12社16名（読売新聞、報知新聞、奈良新聞、ラジオ関西、読売ライフなど）

一 般 内 覧 会：約300名（地元町内会関係者、友の会会員、招待者）

ブロガー内覧会：12件



図5. 「スペイン 奇跡の恐竜たち」内覧会テープカット

*は館外研究者、[No.]は当館業績番号。

■研究報告 (Bulletin of the Osaka Museum of Natural History)

第69号、2015年3月31日発行、40ページ。

横川昌史：国東半島南東部における塩性湿地および砂浜・砂丘の植物群落の現状と各調査地における20年間の変化. 1-18. [No.446]

林 寿一*：フィリピン・ミンドロ島のトシコツメアシフタオシジミ，オスの異常型（鱗翅目：シジミチョウ科）. 19-23. [No.447]

鄭 焯樺*・潘 瑞輝*・鐘 安明*・福村拓己*・金沢 至：2013年に日本から香港へ移動したアサギマダラ（鱗翅目：タテハチョウ科）. 25-28. [No.448] (英文)

石田 惣・木邑聡美*・唐澤恒夫*・岡崎一成*・星野利浩*・長安菜穂子*：淀川のヌートリアによるイシガイ科貝類の捕食事例，および死殻から推定されるその特徴. 29-40. [No.448]

■自然史研究 (SHIZENSHI-KENKYU, Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History)

第3巻第15号、2014年12月28日発行、35ページ。

石田 惣・山田浩二*・山西良平・和田太一*・渡部哲也*：大阪府の汽水域・砂浜域の無脊椎動物および藻類相. 237-271. [No.445]

■収蔵資料目録

第47集「大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録（4）－ハネカクシ科1、コメツキムシ科2、テントウムシ科－」B5版、全145ページ、2015年3月27日発行。

■常設展解説書

ミニガイドNo.27「大阪の川原の石ころ」
一般市民向け、A5版、本文36ページ（総カラー）、2015年3月31日発行、500円。

■特別展解説書

塚腰 実・藤原慎一・林 昭次・読売新聞社 編集 特別展「恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス～知られざる大陸ララミディアでの攻防～」解説書. 読売新聞社. 一般市民向け、A4縦版、本文191ページ、2014年3月21日発行、1,300円。

第45回特別展「ネコと見つける都市の自然」解説書「都市の自然2014」
一般市民向け、B5縦版、本文113ページ、2014年7月19日発行、1,000円。

柴田正輝・林 昭次・塚腰 実 編集特別展「スペイン 奇跡の恐竜たち」解説書. 大阪市立自然史博物館・読売新聞社.
一般市民向け、A4縦版、本文157ページ、2015年3月21日発行、1,300円。

連携(ネットワーク)

自然史博物館の5項目にわたるミッションと中期目標の中には以下のような項目がある。

〔ミッション3〕

地域との連携を促進してより広範な市民との交流に努めます。

博物館活動のパートナーとなるNPOやアマチュアを大切にし、自然愛好家の層を厚くしていきます。

(中期的目標)

- ・学校・地域との連携事業など市民との交流をNPOと協働して進めます。
- ・アマチュア研究活動や、地域での自然体験活動を支援します。このために博物館も地域で実施する観察会を充実させます。
- ・地域の文化財行政・自然保護行政に積極的に貢献します。

〔ミッション4〕

他の機関との連携を進め、ノウハウの交流に努めます。

広域のネットワークや学術連携、協働でのプロモーションにより、より高度な博物館活動を目指します。

(中期的目標)

- ・西日本自然史系博物館ネットワークを中心とした他の博物館との連携・交流や共同事業を強めます。
- ・研究・教育において大学など高等教育機関との連携を進めます。
- ・大阪市の博物館群や長居植物園などとの連携を進めます。

いずれも、大阪市立自然史博物館が「地域の自然の情報拠点」として機能するために欠くことのできない項目であり、連携によって多様な相乗効果を生んでいけることを挙げるができる。

ミッション3に関連して、学校教育、地域、アマチュアとの連携の要になっているのが、大阪自然史センターとのパートナーシップである。自然史センターは関西自然保護機構と合流を果たし、自然科学的な面からの自然環境保全への取り組みを強めている。このため、関西各地で自然環境の保全や保護に取り組む団体などとの連携を強化した。学校教育面では今年度は大阪府高校生物教育研究会との自然史センター・博物館との連携を強化してきたところである。

西日本自然史系博物館ネットワークとの連携はGBIF 関連の自然誌情報発信事業を中心に、多様な展

開を見せている。

研究・教育においての大学など高等教育機関との連携については、既に各種団体との協力の事例については普及教育事業に、共同研究については調査研究事業に記されている。大阪市の博物館群・長居植物園との連携についてもミュージアムウィークスの開催をはじめとして、多様な展開を見せている。これらの各項目については以下に改めて記載する。

大阪府内の高校との連携

大阪府高校生物研究会および地学研究会と連携し、特別展の情報提供、ワークシートなど博物館を活用した教育用素材の提供、意見交換を行っている。2014年度の大阪府の高校の生物クラブ発表会を博物館で実施した。

西日本自然史系博物館ネットワーク

西日本自然史系博物館ネットワークは、学芸員同士の意見・知識・情報の交換、博物館運営の知識・情報の交換、研究者の育成・援助、広範囲での調査協力などを活動内容として、2004年に設立されたNPO法人である。会員も150名を越し、西日本の自然史系博物館の安定なネットワーク組織として活動している。

当館も中核となる加盟館として連携し以下のような共同事業をおこなった。自然系博物館における標本情報の発信に関する研究会、企業との共催による生物多様性協働フォーラムの開催、にじゅうまるプロジェクトパートナーズ会合、自然史標本救済に関するネットワーク運用、プラスチックネーション標本作成講座、のり付スチレンボードの活用講習会、100円ショップグッズ巡回展示、小さいとこサミット後援。2011年の東日本大震災に関しては、震災による被災文化財の救出、保存、再生を目指す活動について紹介する巡回展を行った。(2014.1.1～2014.12.31)

大阪生物多様性保全ネットワーク

大阪府・大阪市・堺市など行政と、大阪市立自然史博物館、大阪環境農林水産総合研究所など研究機関、大阪自然史センター、生物多様性かんさいなど市民ネットワークの協働事業として、NPO法人大阪自然史センターが事務局となり設立された。「新しい公共の場」として、教育機関・研究機関・NPO・行政・地域などの相互の連携をはかり、生物多様性の保全に向けた取り組みを行う組織である。2014年3月に「大阪府レッドリスト2014」を発行したことを受け、今年度は普及啓発イベントの企画・運営や情報発信などに重点を置いた。2015年3月には関西自然保護機構大

会においてシンポジウム「つくるレッドリストでなくつかうレッドリストへーレッドリストを生物多様性保全ツールとして活用するためにー」を開催（参加者121名）また生物多様性協働フォーラム、大阪自然史フェスティバルなどに協賛、出展するなどの活動を行った。

大阪市立大学博学連携講座

今年度は人文科学系のテーマとなったため、当館への要請はなかった。

大阪の博物館群など

■ミュージアムウィークス大阪2014ー大坂の陣400年

大阪市の博物館施設が協働で行っている広報キャンペーン。今年度は大阪城天守閣が展開する「大阪の陣400年」にちなみ、各博物館が関連する話題を展示した。当館では豊富時代の石垣の石材と上町台地に残るヤダケについての展示をエントランス部分に行った。

■教員のための博物館の日in大阪歴史博物館

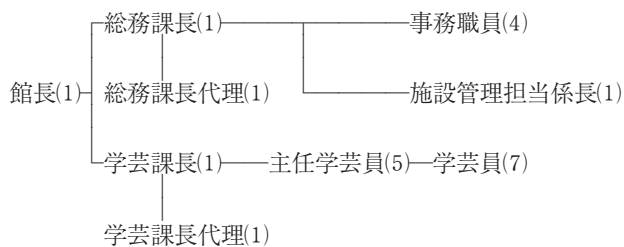
今年度は国際博物館の日シンポジウムを開催せず、教員のための博物館の日を当館以外ではじめて大阪歴史博物館にて連携事業の一環として開催した。大阪市立自然史博物館からは、脊椎動物の体の作りに関する大阪市立喜連東小学校 工藤健司教諭の実践の紹介と、「ボーリング標本」の教材利用など、各種教育用貸出キットや支援プログラムの紹介をブース展示として行った。

I. 沿革

- 昭和24年11月8日－自然科学博物館開設準備委員会設置
- 昭和25年4月1日－自然科学博物館費予算に計上
- 昭和25年11月10日－市立美術館2階廊下にて展示開設
- 昭和27年4月17日－博物館相当施設に指定
- 昭和27年6月2日－大阪市立自然科学博物館条例および規則制定
- 昭和27年7月10日－博物館法第10条により登録（第2号）
- 昭和27年10月1日－筒井嘉隆 館長に就任（39. 7. 4 退任）
- 昭和32年6月7日－市立美術館より西区靱2丁目（元靱小学校校舎改造）に移転
- 昭和33年1月13日－開館
- 昭和34年 ー新館建設について本市社会教育審議会の意見具申
- 昭和39年 ー日本育英会の第一種奨学金の返還を免除される職を置く研究所に指定（文部省）
- 昭和39年8月1日－筒井嘉隆 館長に就任（非常勤嘱託－40. 7. 31退任）
- 昭和40年8月1日－千地万造 館長に就任（58. 6. 1 退任）
- 昭和42年 ー大阪市総合計画局“30年後の大阪の将来計画”により長居公園内に新館敷地確定
- 昭和44年8月 ー新館建設のための基本構想審議委員会組織
- 昭和45年4月 ー自然史博物館建設委員会組織
- 昭和47年1月21日－自然史博物館建設工事着工
- 昭和48年3月31日－自然史博物館建設工事竣工
- 昭和48年4月1日－旧館閉館
- 昭和48年7月 ー新館へ移転開始並びにディスプレイ契約締結（竣工49年3月）
- 昭和49年4月1日－大阪市立自然史博物館条例公布
- 昭和49年4月26日－自然史博物館開館式挙行
- 昭和49年4月27日－開館
- 昭和51年8月19日－文部省科学研究費補助金取扱規定第2条第4号に規定する学術研究機関として指定
- 昭和58年7月1日－千地万造 館長に就任（非常勤嘱託－61. 3. 31退任）
- 昭和59年6月 ー常設展更新基本計画案策定
- 昭和60年3月 ー常設展更新計画書策定
- 昭和61年3月31日－常設展更新業務完成
- 昭和61年4月1日－新装開館
- 昭和61年4月1日－小川房人 館長に就任（兼務－2. 3. 31定年退職）
- 昭和61年4月1日－千地万造 顧問に就任（非常勤嘱託－2. 3. 31退任）
- 平成2年4月1日－小川房人 館長に就任（非常勤嘱託－3. 3. 31退任）
- 平成2年度 ー文化施設整備構想調査
- 平成3年4月1日－小川房人 顧問に就任（非常勤嘱託－5. 3. 31退任）
柴田保彦 館長兼学芸課長に就任（4. 3. 31定年退職）
- 平成3・4年度 ー自然史博物館整備構想調査事業
21世紀に向けての館のあり方・問題点の改善策の調査
- 平成4年4月1日－柴田保彦 館長に就任（非常勤嘱託－7. 3. 31定年退職）
- 平成7年4月1日－宮武頼夫 館長に就任（9. 3. 31 定年退職）
- 平成7年度 ー自然史博物館・長居植物園付帯施設整備構想委員会設置
- 平成8年度 ー展示更新基本計画及び(仮称)花と緑と自然の情報センター設計検討
- 平成9年4月1日－宮武頼夫 館長に就任（嘱託－10. 3. 31退任）
- 平成9年度 ー展示更新実施設計及び増築にかか
る基本・実施設計
- 平成10年4月1日－那須孝悌 館長に就任（13. 3. 31 定年退職）
- 平成10年12月 ー花と緑と自然の情報センター建築
工事着工
- 平成13年3月 ー花と緑と自然の情報センター竣工
- 平成13年4月1日－那須孝悌 館長に就任（非常勤嘱託）
- 平成13年4月27日－花と緑と自然の情報センター開館
式挙行
花と緑と自然の情報センター開館
- 平成17年4月1日－山西良平 館長に就任（27. 3. 31 退任）
- 平成18年3月1日－本館エントランス及びポーチリ
ニューアルオープン
- 平成18年4月1日－(財)大阪市文化財協会が指定管理
者となる
- 平成19年3月24日－第5展示室一部リニューアルオープン
- 平成20年4月26日－第5展示室全面リニューアルオープン
- 平成22年4月1日－財団統合により(財)大阪市博物館
協会が指定管理者となる
- 平成24年3月 ー本館・大阪の自然誌コーナー・ネ
イチャーホールの展示照明等LED化

Ⅱ. 組織

■職員数（平成26年4月1日現在） 計22名



■職員名簿（平成26年4月1日現在） 計22名

職名	氏名	職種	氏名
館長	山西 良平	学芸課長	川端 清司
総務課長	小川 悦生	学芸課長代理	金沢 至
総務課長代理	唐井 邦雄	主任学芸員	波戸岡 清峰
施設管理担当係長	宮井 静夫	〃	塚腰 実
事務職員	木野 美奈	〃	初宿 成彦
〃	松岡 由布	〃	佐久間 大輔
〃	長縄 朋子	〃	和田 岳
〃	大江 彩佳	学芸員(四紀)	石井 陽子
		学芸員(四紀)	中条 武司
		学芸員(昆虫)	松本 吏樹郎
		学芸員(動物)	石田 惣
		学芸員(植物)	長谷川 匡弘
		学芸員(植物)	横川 昌史
		学芸員(地史)	林 昭次

■人事異動

平成26年4月1日 大江 彩佳 事務職員新規採用
 6月30日 長縄 朋子 退職
 8月1日 高橋 郁子 事務職員に大阪市立美術館より転入
 平成27年3月31日 山西 良平 退職
 小川 悦生 退職
 唐井 邦雄 退職
 宮井 静夫 退職

Ⅲ. 庶務日誌

■平成26年度 博物館関係者来訪

26. 6. 7 モンゴル古生物センター
 特別展 展示標本撤収のため
 26. 6. 10 チューリヒ大学附属博物館
 展示視察
 26. 6. 13 鹿児島県立博物館
 常設展・友の会の活動ヒアリング
 26. 7. 24 都市創造性学会（AUC）海外参加者

博物館活動のヒアリングと見学
 26. 8. 8 国立科学博物館
 教員のための博物館の日視察
 26. 8. 27 岡崎市議会
 博物館活動等の視察
 26. 10. 13 東京都立美術館
 ホネホネサミット視察・資料見学
 26. 11. 12 鳥取県立博物館
 博物館活動、収蔵庫等の調査・見学
 26. 12. 7 関西大学博物館
 運営及び展示資料の見学等
 27. 1. 20 武漢市
 博物館活動視察
 27. 3. 4 宮崎県総合博物館
 展示視察及びヒアリング
 27. 3. 10 山口県立山口博物館
 展示・調査研究・教育普及・資料整理など調査
 27. 3. 15～3. 22 マドリード自治大学
 特別展 展示標本設営のため
 27. 3. 15～3. 22 福井県立恐竜博物館
 特別展 展示標本設営のため
 27. 3. 15～3. 22 スペイン国立通信教育大学
 特別展 展示標本設営のため
 27. 3. 15～3. 22 カステイリャ＝ラ・マンチャ
 州立科学博物館
 特別展 展示標本設営のため

■館長受嘱委員

国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所 淀川環境委員会 委員
 平成20年4月1日～平成27年3月31日
 地球環境関西フォーラム 地球環境100人委員会 委員
 平成26年6月15日～平成28年度理事会開催日
 地球環境関西フォーラム 企画委員会 委員
 平成26年6月15日～平成28年度理事会開催日
 西宮市貝類館 顧問
 平成26年10月1日～平成27年3月31日（年度毎更新）
 大阪大学総合学術博物館 外部評価委員会 委員
 平成26年8月1日～平成28年3月31日
 公益財団法人日本博物館協会 博物館登録制度の在り方に関する調査研究委員会 主査
 平成26年8月20日～平成27年3月
 滋賀県立琵琶湖博物館 滋賀県立琵琶湖博物館協議会 委員
 平成26年9月1日～平成28年8月31日
 財団法人 大阪科学技術センター 評議員
 平成21年4月1日～平成28年6月

Ⅳ 決 算

■平成24年度～平成26年度

(単位 千円)

区分	事 項		平成24年度	平成25年度	平成26年度	
収 入	入 館 料 ほ か		32,245	28,757	26,163	
		常 設 展 観 覧 料	15,849	14,597	13,767	
		特 別 展 観 覧 料	16,041	13,653	11,852	
		施 設 使 用 料	355	507	544	
	雑 収		3,829	3,326	2,667	
		図 録 販 売 収 入 等	1,730	1,411	1,096	
		そ の 他	2,099	1,915	1,571	
	合 計		36,074	32,083	28,830	
	支 出	展 覧 事 業		21,599	22,289	22,302
			常 設 展 覧 事 業	2,395	2,360	2,912
特 別 展 覧 事 業			19,204	19,929	19,390	
調 査 研 究 事 業		8,236	6,716	6,198		
資 料 収 集 保 管 事 業		2,504	2,876	1,890		
普 及 教 育 事 業		4,848	4,649	4,475		
充 実 活 性 化 事 業		2,140	1,144	930		
施 設 管 理 費		109,511	114,204	118,997		
一 般 維 持 管 理 費 等		190,543	184,484	195,402		
合 計		339,381	336,362	350,194		

V. 入館者数 (平成26年度)

■本館常設展入館者数

区分 月	有 料					無 料								計	開館 日数
	個 人		団 体		有料計	団 体					個 人		無料計		
	大人	高校生 大学生	大人	高校生 大学生		幼・保 育園等	小学生	中学生	特別支援 学校等	団体 引率者	中学生 以 下	優待・招 待・その他			
(26) 4	14,570	600	270	148	15,588	356	4,965	15	0	354	7,126	4,688	17,504	33,092	28
5	19,258	712	161	78	20,209	1,464	9,320	763	73	930	8,051	7,148	27,749	47,958	27
6	4,335	163	201	2	4,701	394	805	116	202	258	2,076	1,226	5,077	9,778	25
7	3,108	317	149	3	3,577	566	196	42	0	83	2,838	1,568	5,293	8,870	27
8	5,557	1,130	113	58	6,858	81	7	75	13	26	5,308	2,100	7,610	14,468	26
9	4,837	238	130	11	5,216	185	844	127	11	93	2,572	1,530	5,362	10,578	25
10	2,674	222	141	80	3,117	1,440	9,444	360	202	990	1,695	1,506	15,637	18,754	26
11	2,615	132	80	108	2,935	1,059	1,390	1,004	28	265	1,964	20,782	26,492	29,427	26
12	2,386	127	36	31	2,580	444	43	148	25	83	1,097	685	2,525	5,105	23
(27) 1	1,892	161	74	34	2,161	167	80	233	20	100	1,345	931	2,876	5,037	23
2	1,300	69	82	2	1,453	265	141	426	8	75	952	532	2,399	3,852	12
3	10,477	506	1,069	0	12,052	636	80	266	6	129	5,214	2,224	8,555	20,607	28
計	73,009	4,377	2,506	555	80,447	7,057	27,315	3,575	588	3,386	40,238	44,920	127,079	207,526	296

■無料団体観覧内訳 (平成26年度)

区 分	市 内		市 外		計	
	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数
幼稚園・保育所	92	4,148	66	2,909	158	7,057
小 学 校	138	11,225	191	16,090	329	27,315
中 学 校	38	1,798	50	1,777	88	3,575
特別支援学校・他	8	168	13	288	21	456
福祉施設	9	74	7	58	16	132
団体引率者		1,562		1,824		3,386
計	285	18,975	327	22,946	612	41,921

庶務

■特別展入館者数（平成17年度～平成26年度）

区分 年度	個人				団体			合計	開催期間	日数	タイトル
	大人	高校生 大学生	優待・ 他無料	中学生 以下無料	大人	高校生 大学生	中学生以下 他無料				
17	959	87	3,361	9,038	0	0	0	13,445	7.16～9.4	44	ナチュラリスト展
	103,419	5,203	81,640	28,497	280	51	24,834	243,924	10.8～11.27	45	恐竜博
18	2,544	336	2,597	3,971	15	0	227	9,690	7.29～9.18	45	大和川展
19	8,591	506	4,040	10,532	55	0	392	24,116	7.7～9.2	51	世界一のセミ展
	31,244	1,518	18,131	31,815	679	81	18,409	101,877	9.15～11.25	62	世界最大の翼竜展
	8,483	267	4,661	11,659	0	0	269	25,339	3.15～3.31	14	ようこそ恐竜ラボへ！
20	28,882	1,000	18,491	39,120	153	0	18,387	106,033	4.1～6.29	79	ようこそ恐竜ラボへ！
	30,389	6,218	18,560	18,708	2	59	564	74,500	7.19～9.21	56	ダーウィン展
	1,887	357	4,103	1,414	19	152	2,226	10,158	10.25～12.7	38	地震展
21	4,069	221	4,532	3,360	217	0	9,298	21,697	4.18～5.31	38	世界のチョウと甲虫展
	1,584	120	17,567	14,801	12	99	292	34,475	7.4～8.30	50	ホネホネたんけん隊
	4,920	529	3,938	2,153	143	0	4,921	16,604	9.19～11.3	39	きのこのヒミツ展
	12,413	697	4,907	14,608	7	0	32	32,664	3.20～3.31	10	大恐竜展
22	48,600	2,904	20,381	49,034	205	124	20,836	142,084	4.1～5.30	52	大恐竜展
	1,405	1,262	3,535	2,724	92	0	1,264	10,282	7.24～10.8	58	みんなでつくる淀川大図鑑展
23	11,864	2,237	5,140	10,625	56	42	195	30,159	7.2～8.28	50	来て！見て！感激！大化石展
	22,864	1,700	15,048	25,108	14	102	16,035	80,871	9.10～11.27	67	OCEAN！海はモンスターでいっぱい
	14,179	527	7,745	17,057	1	31	719	40,259	3.10～3.31	19	新説・恐竜の成長
24	39,844	1,215	13,101	38,459	110	102	19,093	111,924	4.1～6.3	56	新説・恐竜の成長
	7,353	1,489	6,005	6,885	23	32	5,300	27,087	7.28～10.14	68	のぞいてみよう ハチの世界
	25,519	1,330	8,524	22,317	48	114	3,256	61,108	11.23～3.31	104	モンゴル恐竜化石展
25	24,439	1,197	9,401	21,561	217	69	13,705	70,589	4.1～6.2	55	モンゴル恐竜化石展
	5,075	1,366	5,616	5,216	26	46	3,315	20,660	7.20～10.14	75	いきものいっぱい 大阪湾
	8,054	261	2,583	9,391	4	12	276	20,581	3.21～3.31	11	恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス
26	28,452	863	12,521	31,113	7	78	16,846	89,880	4.1～5.25	50	恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス
	3,330	509	3,919	3,528	27	48	1,914	13,275	7.19～10.13	73	ネコと見つける都市の自然
	6,783	255	2,199	7,457	4	19	248	16,965	3.21～3.31	11	スペイン 奇跡の恐竜たち

VI. 貸室の利用状況

■講堂 平成26年度 15件

年月日	団体名	使用目的	人数
H26. 6. 18	NPO法人シニア自然大学校	自然不思議発見 授業	55
H26. 8. 22	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマにした講演と会議	110
H26. 9. 19	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマにした講演と会議	110
H26. 9. 21	一般財団法人大阪スポーツみどり財団	万葉のみち 記念講演会	300
H26. 9. 23	いであ株式会社	第7回大阪湾生き物一斉調査結果発表会	100
H26. 9. 30	NPO法人シニア自然大学校	シニア自然大学緑組 「果実の見方」講座	50
H26. 10. 25	一般社団法人フラワーズサイエティー	秋の園芸in関西 The10th 園芸に関する講演会	200
H26. 11. 24	クリエタルエレン	池間哲郎氏講演会	260
H26. 11. 29	特定非営利活動法人バードリサーチ	バードリサーチ研究会（野鳥についての研究発表会）	100
H26. 12. 3	NPO法人シニア自然大学校	自然不思議発見 授業	55
H26. 12. 19	NPO法人高齢者大学校	自然と文化をテーマにした講演と会議	110
H27. 1. 16	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマにした講演と会議	110
H27. 1. 24	一般社団法人フラワーズサイエティー	ブルーミング・フォーラム2015	200
H27. 3. 1	一般社団法人環境事業協会	関西自然保護機構2015年度大会	150
H27. 3. 20	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマにした講演と会議	110

■特別展示室（ネイチャーホール） 平成26年度 2件

年月日	団体名	使用目的	人数
H26. 11. 28～30	(社)日本書道技術師認定協会	第2回日本書道展	800
H27. 1. 23	万葉押し花倶楽部	押し花作品展示会	-

Ⅶ. 施 設

自然史博物館本館

■所在地 大阪市東住吉区长居公園1番23号

■敷地面積 6,743.68㎡

■建築面積 4,392.67㎡

■延床面積 7,066.01㎡

■構造 鉄筋コンクリート造、一部屋根鉄骨造
地下1階、地上3階

■主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計	2,427.48㎡	(天井の高さ)
ナウマンホール	550.35㎡	11.00m	
第1展示室	360.55㎡	3.30m	
第2展示室	486.64㎡	7.20m	
第3展示室	403.10㎡	4.70m	
第5展示室	360.55㎡	4.20m	
2階ギャラリー	266.29㎡	6.80m	
(研究用施設)	計	1,802.82㎡	
館長研究室・暗室	各18.27㎡	2.70m	
動物・昆虫・植物・地史研究室	各47.56㎡	2.40m	
第四紀・外来研究室	各36.54㎡	2.40m	
生物実験室	49.20㎡	2.40m	
化学分析室・サーバー室	各18.27㎡	2.40m	
電子顕微鏡室	37.43㎡	2.70m	
動物標本制作室	37.71㎡	2.40m	
昆虫・植物標本制作室	各36.54㎡	2.40m	
化石処理室	47.56㎡	2.40m	
石工室	22.21㎡	2.70m	
展示品製作室	28.05㎡	2.70m	
旧第1収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
旧第2収蔵庫	310.08㎡	3.00m	
旧第3収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
旧第4収蔵庫	310.08㎡	3.00m	
書庫	100.30㎡	7.40m	
編集記録室	36.54㎡	2.40m	
(普及教育用施設)	計	604.27㎡	
講堂(映写室・控室含む)	319.09㎡	2.60m (平均)	
ミュージアムサービスセンター	93.30㎡	2.70m	
集会室	95.12㎡	2.70m	
旧実習室	96.76㎡	2.70m	
(管理用施設)	計	907.49㎡	
館長室	36.54㎡	2.70m	
1階部屋	18.27㎡	2.70m	
事務室	83.34㎡	2.70m	
応接室	29.54㎡	2.70m	

休憩室	16.85㎡	2.55m
警備員室	17.64㎡	2.70m
会議室	47.56㎡	2.70m
機械室	472.35㎡	5.85m
電気室	89.92㎡	5.85m
旧自家発電気室	49.16㎡	5.85m
旧中央監視盤室	28.05㎡	2.40m
(共通部分)	計	1,323.95㎡
1階廊下	118.27㎡	2.70m
2階廊下	102.29㎡	2.40m
ロッカールーム	60.59㎡	2.85m
エレベーターホール(荷物用)	123.16㎡	
ファンルーム(南・北側)	各16.80㎡	
荷捌室	161.69㎡	2.70m
玄関ホール	125.10㎡	3.25m
ナウマンホールエレベータ	7.00㎡	
倉庫	106.56㎡	
1階ホール便所	76.26㎡	
2階ホール便所	37.56㎡	
管理棟便所	43.47㎡	
ダクトスペース	102.70㎡	
階段	179.30㎡	
その他	46.40㎡	
総計	7,066.01㎡	

■階数別面積

地階……………	855.07㎡	3階……………	550.95㎡
1階……………	3,178.35㎡	屋階……………	76.93㎡
2階……………	2,404.71㎡		

■各室定員

講堂……………	266人	集会室……………	48人
会議室……………	22人	旧実習室……………	31人
展示室(1階)	415人	展示室(2階)	400人
地階……………	3人		

■工 期 昭和47年1月21日～昭和48年3月31日

■総事業費	10億1,000万円
(建設工事費)	7億9,500万円
・本体工事(株竹中工務店)	4億9,200万円
・付帯工事	3億 300万円
(設計監督委託料)	2,700万円
(その他)	3,800万円
事務費、移転費、公園樹木移設工事費 ネットフェンス設置工事費等	
(内部設備費)	1億5,000万円
・第1展示室ディスプレイ(株日展)	2,200万円
・第2展示室ディスプレイ(株乃村工芸社)	2,500万円

庶 務

・第3展示室ディスプレイ (株丹青社)	2,100万円
・オリエンテーションホールディスプレイ (株電電広告)	600万円
・展示品購入費	3,200万円
・庁用器具、調査、研究用機器、 資料保管用物品等	4,400万円
■国庫補助金・起債	
・国庫補助金	3,000万円 (47. 10. 13付交付決定)
・起債	3億8,762万円 (47. 8. 25付交付決定)

花と緑と自然の情報センター

■所在地 大阪市東住吉区长居公園1番23号

■敷地面積 1,203.81㎡

■建築面積 1,203.81㎡

■延床面積 5,000.00㎡

■構造 鉄骨鉄筋コンクリート造
地下1階、地上2階塔屋付建物

■主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計	1,403.76㎡	(天井の 高さ)
大阪の自然誌		638.82㎡	4.20m
ネイチャーホール		764.95㎡	7.00m
(研究用施設)	計	1,971.50㎡	
準備室兼置場(1)		47.99㎡	4.00m
準備室兼置場(2)		68.34㎡	4.00m
冷蔵庫室		21.99㎡	5.00m
資料前処理室		20.14㎡	4.00m
一般収蔵庫		748.34㎡	5.00m
特別収蔵庫		688.22㎡	5.00m
液浸収蔵庫		323.48㎡	5.00m
前室(1)		36.80㎡	4.00m
前室(2)		16.20㎡	4.00m
(普及教育用施設)	計	256.08㎡	
自然の情報センター		111.11㎡	5.00m
ミュージアムサービス		39.22㎡	5.00m
実習室		105.75㎡	3.00m
(管理用施設)	計	937.36㎡	
総合監視センター		32.78㎡	5.60m
空調機械室		116.93㎡	6.50m
機械室		722.99㎡	5.60m
E V機械室		49.08㎡	5.60m
技術スタッフ室		15.58㎡	3.00m
(共通部分)	計	431.30㎡	
地下1階廊下		28.74㎡	3.00m

1階廊下	48.30㎡	3.00m
1階渡り廊下	15.21㎡	3.00m
2階渡り廊下	15.21㎡	3.00m
プロムナード	28.00㎡	5.00m
2階便所	57.02㎡	2.50m
E V室	47.52㎡	2.90m
トラックヤード	88.13㎡	
階 段	103.18㎡	
総計	5,000.00㎡	

■階数別面積

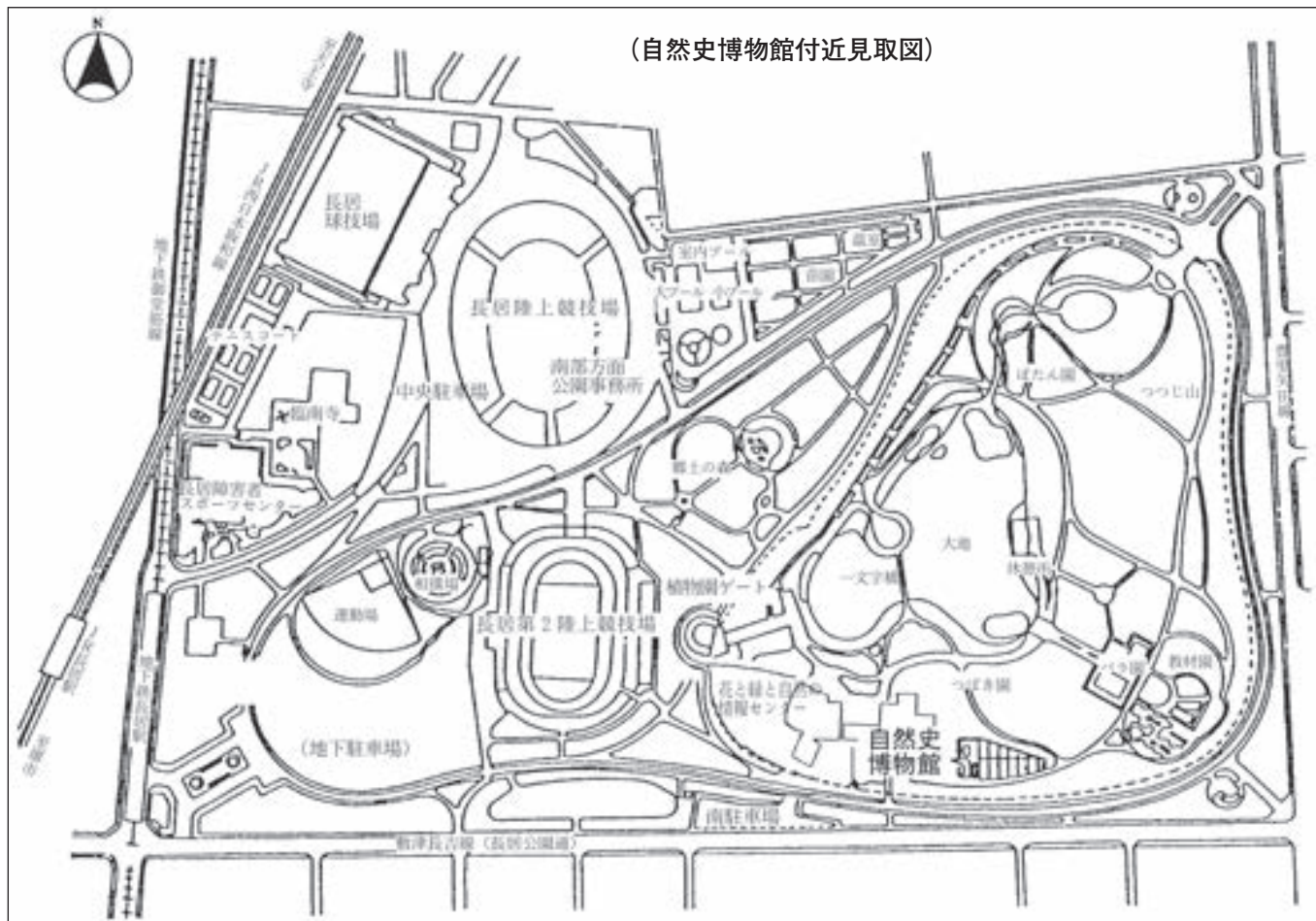
地階……	2,754.07㎡
1階……	1,203.81㎡
2階……	993.04㎡
3階……	49.08㎡

■工期 平成10年12月～平成13年3月

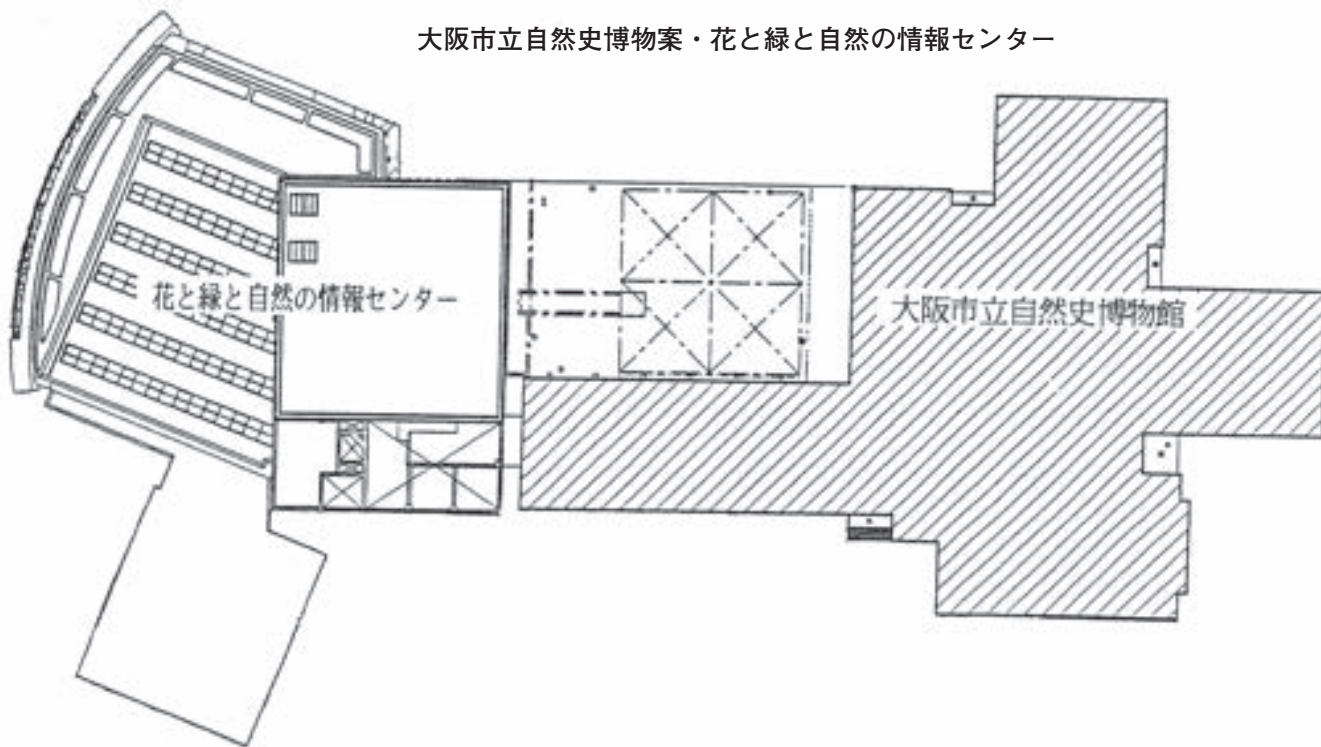
■総事業費	41億6,665万円
(建設工事費)	24億4,558万円
(設備工事費)	11億9,650万円
(設計監督委託料)	5,751万円
(外溝工事費他)	4億6,706万円

■起債等

・起債	34億7,477万3千円
・雑収(宝くじ協会)	3億6,001万7千円



大阪市立自然史博物案・花と緑と自然の情報センター



1階

(自然史博物館本館)



2階



3階



地下

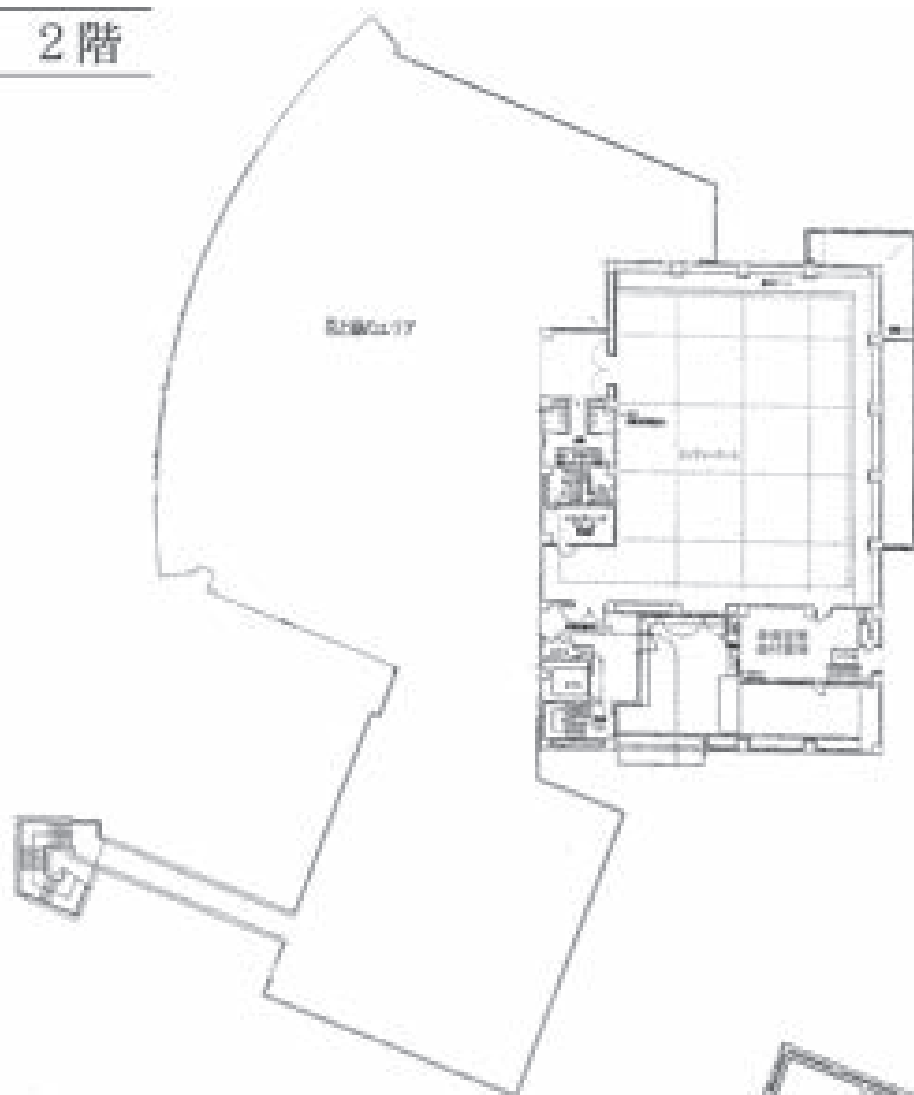


1階

(花と緑と自然の
情報センター)



2階



地下



○大阪市立自然史博物館条例

制 定 昭49. 4. 1
最近改正 平21. 11. 26

大阪市立自然科学博物館条例（昭和32年大阪市条例第38号）を次のように改正する。

（設置）

第1条 大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）を大阪市東住吉区長居公園に設置する。

（目的）

第2条 博物館は、自然史に関する資料の収集、保管及び展示並びにその調査研究及び普及活動を行うとともに、市民の生涯にわたる学習活動を支援することにより、市民の文化と教養の向上及び学術の発展に寄与することを目的とする。

（事業）

第3条 博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 自然史に関する実物、標本、模型、文献、図書、図表、写真、フィルム等（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示し、及び閲覧させること
- (2) 自然史に関する調査研究及び博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究を行うこと
- (3) 自然史に関する展覧会、講習会、実習会、研究集会等を開催すること
- (4) 博物館資料に関する同定及び指導を行うこと
- (5) 市民の生涯学習の機会を提供すること
- (6) 博物館資料を貸し出し、及び交換すること
- (7) 他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関と連携し、及び協力すること
- (8) その他教育委員会が必要と認める事業

（博物館資料の寄贈又は寄託）

第4条 博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。

（休館日）

第5条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後最初に到来する休日以外の日）
- (2) 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、第15条の規定により博物館の管理を行うもの（以下「指定管理者」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、あらかじめ教

育委員会の承認を得て、同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。

3 教育委員会は、前項の承認を行ったときは、速やかに当該承認を行った内容を公告しなければならない。

（供用時間）

第6条 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、11月1日から翌年2月末日までの期間については、午前9時30分から午後4時30分までとする。

2 前条第2項及び第3項の規定は、博物館の供用時間について準用する。この場合において、同条第2項中「前項」とあるのは「第6条第1項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第3項中「前項」とあるのは「第6条第2項の規定により読み替えられた第5条第2項」と読み替えるものとする。

（使用の許可）

第7条 別表第1に掲げる博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

（使用許可の制限）

第8条 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用を許可してはならない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
- (2) 建物、設備又は展示品等を損傷するおそれがあるとき
- (3) 管理上支障があるとき
- (4) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団の利益になるとき
- (5) その他不相当と認めるとき

（使用許可の取消し等）

第9条 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により第7条の許可（以下「使用許可」という。）を受けたとき
- (2) 前条各号に定める事由が発生したとき
- (3) この条例に違反し、又はこの条例に基づく指示に従わないとき

（意見の聴取）

第10条 指定管理者は、必要があると認めるときは、第8条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くよう教育委員会に求めるものとする。

2 教育委員会は、前項の規定による求めがあったと

きは、第8条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くことができる。

(特別研究の許可)

第11条 博物館資料について、特別の研究をしようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(貸出しの許可)

第12条 博物館資料の貸出しを受けようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(入館の制限)

第13条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
- (2) 建物、設備又は展示品を損傷するおそれがある者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
- (4) 管理上必要な指示に従わない者
- (5) その他管理上支障があると認める者

(利用料金)

第14条 教育委員会は、指定管理者に利用料金（博物館の観覧に係る料金（以下「観覧料」という。）、博物館資料の貸出しに係る料金（以下「貸出料」という。）並びに施設及びその附属設備の使用に係る料金（以下「施設使用料」という。）をいう。以下同じ。）を当該指定管理者の収入として収受させるものとする。

2 博物館を観覧し、博物館資料の貸出し（他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関との連携及び協力に係るものを除く。）を受け、又は施設及びその附属設備を使用しようとする者は、指定管理者に利用料金を支払わなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第17条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒に係る観覧料については、この限りでない。

3 利用料金の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。利用料金の額を変更しようとするときも、同様とする。

- (1) 観覧料（特別の展示に係るものを除く。）1人1回につき別表第2に掲げる金額
- (2) 特別の展示に係る観覧料 特別の展示ごとに教育委員会が定める額
- (3) 貸出料 その都度教育委員会が定める額

(4) 施設使用料 別表第1に掲げる金額（施設の附属設備については、教育委員会規則で定める種別に応じて教育委員会規則で定める額）

4 教育委員会は、前項の承認（貸出料の額に係るものを除く。）を行ったときは、速やかに当該承認を行った利用料金の額を公告するものとする。

5 指定管理者は、教育委員会規則で定める基準に従い、利用料金を減額し、又は免除することができる。

6 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、既納の利用料金の全部又は一部を還付することができる。

- (1) 災害その他施設の使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）の責めに帰すことのできない特別の事由により施設を使用することができなくなったとき
- (2) 使用者が施設の使用を開始する前に使用許可の取消しを申し出た場合において、指定管理者がその理由を相当と認めて当該使用許可を取り消したとき
- (3) その他教育委員会が特別の事由があると認めるとき

(管理の代行)

第15条 博物館の管理については、地方自治法（昭和22年法律第67号。以下「法」という。）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体（以下「法人等」という。）であって教育委員会が指定するものに行わせる。

(指定の申請)

第16条 教育委員会は、指定管理者を指定しようとするときは、博物館の管理を行おうとする法人等を指名し、当該法人等に対し、その旨を通知しなければならない。

2 前項の規定による通知を受けた法人等は、教育委員会規則で定めるところにより、博物館の管理に関する事業計画書その他教育委員会規則で定める書類を添付した指定管理者指定申請書を教育委員会に提出しなければならない。

(欠格条項)

第17条 次の各号のいずれかに該当する法人等は、指定管理者の指定を受けることができない。

- (1) 破産者で復権を得ないもの
- (2) 法第244条の2第11項の規定により本市又は他の地方公共団体から指定を取り消され、その取消の日から2年を経過しないもの
- (3) その役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）のうち、次のいずれかに該当する者があるもの

- ア 第1号に該当する者
- イ 禁錮^ニ以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から2年を経過しない者
- ウ 公務員で懲戒免職の処分を受け、その処分の日から2年を経過しない者

(指定管理予定者の選定)

第18条 教育委員会は、第16条第2項の規定による申請の内容が次に掲げる基準に適合すると認めるときでなければ、当該申請をした法人等を指定管理者の指定を受けるべきもの(以下「指定管理予定者」という。)として選定してはならない。

- (1) 住民の平等な利用が確保されること
- (2) 第2条の目的に照らし博物館の効用を十分に発揮するとともに、博物館の管理経費の縮減が図られるものであること
- (3) 博物館の管理の業務を安定的に行うために必要な経理的基礎及び技術的能力を有すること
- (4) 前3号に掲げるもののほか、博物館の適正な管理に支障を及ぼすおそれがないこと

(指定管理者の指定等の公告)

第19条 教育委員会は、指定管理予定者を指定管理者に指定したときは、その旨を公告しなければならない。法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は博物館の管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときも、同様とする。(業務の範囲)

第20条 指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 第3条の各号に掲げる博物館の事業の実施に関すること
- (2) 建物及び設備の維持保全に関すること
- (3) その他博物館の管理に関すること

(施行の細目)

第21条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則 (昭和49年4月2日施行、告示第120号)

この条例の施行期日は、市長が定める。

附 則 (昭和51年4月1日条例第61号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和55年11月27日条例第48号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和56年4月1日条例第53号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和61年4月1日条例第50号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成4年4月1日条例第58号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成7年3月16日条例第40号)

この条例は、平成7年5月1日から施行する。

附 則 (平成13年4月1日条例第62号、平成13年4月27日施行、告示第491号)

この条例の施行期日は、市長が定める。

附 則 (平成17年9月22日条例第109号、附則ただし書に規定する改正規定を除くその他の改正規定、平成18年4月1日施行、告示第343号)

この条例の施行期日は、市長が定める。ただし、第15条の次に6条を加える改正規定(第17条から第19条まで及び第20条前段に係る部分に限る。)は、公布の日から施行する。

附 則 (平成19年12月28日条例第106号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成21年11月26日条例第130号)

1 この条例は、平成22年4月1日から施行する。ただし、第7条中第3号の次に1号を加える改正規定及び第9条の次に3条を加える改正規定(第10条に係る部分に限る。)は、平成22年1月1日から施行する。

2 この条例による改正後の大阪市立自然史博物館条例(以下「改正後の条例」という。)第14条第3項の規定による利用料金の額の決定及びこれに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、同項及び改正後の条例第14条第4項の規定の例により行うことができる。

別表第1 (第7条、第14条関係)

区 分	施設使用料
特別展示室	1室1日につき 32,000円
講 堂	1室1日につき 17,000円

別表第2 (第14条関係)

区 分	観 覧 料
高等学校、高等専門学校、大学及びこれらに準ずる教育施設に在学する者	200円
その他の者	300円

○大阪市立自然史博物館条例施行規則

制 定 平成18年3月31日

最近改正 平成22年3月26日

大阪市立自然史博物館規則（昭和49年大阪市教育委員会規則第12号）を次のように改正する。

（趣旨）

第1条 この規則は、大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市条例第39号。以下「条例」という。）の施行について必要な事項を定めるものとする。

（博物館資料の寄贈等の申出）

第2条 条例第4条の規定により大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）に条例第3条第1号の博物館資料（以下「博物館資料」という。）を寄贈し、若しくは寄託し、又は寄託した博物館資料（以下「寄託資料」という。）の返還を受けようとする者は、教育委員会の定めるところに従い、教育委員会に申し出なければならない。

（寄託資料の取扱い）

第3条 寄託資料の管理は、特別の契約がある場合を除き、本市所有の博物館資料と同じ取扱いとする。

2 寄託資料が災害その他の不可抗力によって滅失又は損傷したときは、本市は損害賠償の責めを負わないものとする。

（利用料金の納付時期）

第4条 条例第14条第1項に規定する利用料金（以下「利用料金」という。）は、あらかじめ条例第5条第2項に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）が定める日までに支払わなければならない。

（附属設備の利用料金）

第5条 条例第14条第3項の教育委員会規則で定める附属設備の種別及び金額は、別表のとおりとする。

（利用料金の減額又は免除）

第6条 条例第14条第5項の規定による利用料金の減免又は免除は、教育長が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、指定管理者がこれを行うことができる。

2 利用料金の減額及び免除は、次のとおりとする。

(1) 30人以上の団体で入場するときは、観覧料について次に掲げる額を減額する。

- ア 30人以上50人未満の団体 観覧料の1割
- イ 50人以上100人未満の団体 観覧料の2割
- ウ 100人以上の団体 観覧料の3割

(2) 博物館の常設展示場に入場する者が大阪市立長居植物園の入場券を提示したときは、常設展示場の観覧料について大阪市立長居植物園の入場料相当額を減額する。

(3) 前2号に定めるもののほか、教育長が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、指定管理者は利用料金を減額又は免除することができる。

（指定申請の方法）

第7条 条例第16条第1項の規定による通知を受けた法人等（法人その他の団体をいう。以下同じ。）は、所定の指定管理者指定申請書に法人等の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先を記載して、教育委員会が指定する期間内にこれを教育委員会に提出しなければならない。

2 前項の申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。

- (1) 定款又は寄附行為及び登記事項証明書（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）
- (2) 役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）の名簿及び履歴書
- (3) 条例第16条第2項の規定による申請（以下「指定申請」という。）の日の属する事業年度の前3事業年度における財産目録及び貸借対照表（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）。ただし、指定申請の日の属する事業年度に設立された法人等にあつては、その設立時における財産目録（法人以外の団体にあつては、これに相当する書類）とする。
- (4) 指定申請の日の属する事業年度における事業計画書及び収支予算書（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）
- (5) 組織及び運営に関する事項を記載した書類
- (6) 指定申請に関する意思の決定を証する書類
- (7) 条例第17条各号のいずれにも該当しないことを信じさせるに足る書類
- (8) 指定管理者の指定を行おうとする期間に属する各年度ごとの博物館の管理に関する事業計画書及び収支予算書
- (9) 博物館の管理の業務を安定的に行うことができることを示す書類

（資料の提出の要求等）

第8条 教育委員会は、条例第18条に規定する指定管理予定者を選定するため必要があると認めるときは、指定申請をした法人等に対し、必要な資料の提出及び説明を求めることができる。

（事業報告書の記載事項等）

第9条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第7項の事業報告書（以下「事業報告書」という。）には、次に掲げる事項を記載し、指定管理者

の代表者がこれに記名押印しなければならない。

- (1) 指定管理者の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先
- (2) 年度の区分。ただし、指定管理者の指定を受けた期間が当該年度の一部の期間であるときは、当該期間を併せて記載すること
- (3) 条例第20条各号に掲げる業務の実施状況
- (4) 博物館の利用者数その他の利用状況
- (5) 博物館の管理に要した経費等の収支の状況
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

2 指定管理者は、毎年度終了後（地方自治法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定の取消しを受けた場合にあっては、当該取消しの日後）2月以内に教育委員会に事業報告書を提出しなければならない。ただし、やむを得ない理由により当該2月以内に事業報告書の提出をすることができない場合には、あらかじめ教育委員会の承認を得て当該提出を延期することができる。

（損害賠償等）

第10条 博物館の施設の使用の許可を受けた者、入館者又は博物館資料について特別の研究若しくは貸出しの許可を受けた者が建物、設備又は博物館資料を損傷し、又は亡失したときは、教育委員会の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

（補助執行）

第11条 市長の事務部局の職員をして博物館の運営に係る事務を補助施行させることとした場合においては、第6条及び第12条の規定中「教育長」とあるのは、「主管局長（大阪市事務分掌条例第1条に掲げる局及び室の長をいう。）」と読み替えるものとする。（施行の細目）

第12条 この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 大阪市立自然史博物館の指定管理者の指定手続に関する規則（平成17年大阪市教育委員会規則第27号）は、廃止する。

附 則（平成22年3月26日（教）規則第12号）

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

別表（第5条関係）

区 分		使 用 料		
		午 前	午 後	全 日
特別 展示 室	冷 房 設 備			16,000円
	暖 房 設 備			16,000円
講 堂	冷 房 設 備	3,500円	5,000円	8,500円
	暖 房 設 備	3,500円	5,000円	8,500円
	拡 声 装 置	1式 午前、午後 各1回につき		1,800円
	マ イ ク	1本 午前、午後 各1回につき		500円
	ワ イ ヤ レ ス マ イ ス ク	1本 午前、午後 各1回につき		1,100円
	テ ー プ レ コ ー ダ ー	1台 午前、午後 各1回につき		900円
	ス ラ イ ド 映 写 機 （スクリーン付）	1台 午前、午後 各1回につき		1,300円
	16 ミリ 映 写 機 （スクリーン付）	1台 午前、午後 各1回につき		4,200円
	ビ デ オ 装 置	1式 午前、午後 各1回につき		2,200円
液 晶 プロジェクター （スクリーン付）	1台 午前、午後 各1回につき		1,900円	

備考

この表中「午前」とは午前9時30分から正午までをいい、「午後」とは午後1時から午後5時（ただし、11月1日から翌年2月末日までの期間については、午後4時30分）までをいい、「全日」とは午前9時30分から午後5時（ただし、11月1日から翌年2月末日までの期間については、午後4時30分）までをいう。

○大阪市立自然史博物館観覧料等減免要綱

制 定 昭和49年4月1日

最近改正 平成25年4月1日

(目的)

第1条 この要綱は大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市教育委員会条例第39号。以下「条例」という。）第14条の規定による大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）の観覧料、特別の展示に係る観覧料、貸出料及び使用料の減免に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(学校園等の教職員等の観覧料及び特別の展示に係る観覧料)

第2条 保育所、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校（以下「学校園等」という。）の保育士又は教職員が、学校園等行事で園児、児童又は生徒を引率して博物館に入場しようとするときまた、その事前視察のときは、当該保育士又は教職員の観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

2 前項の観覧料及び特別の展示に係る観覧料の免除を受けようとするときは、学校園等の長は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに大阪市教育委員会（以下「教育委員会」という。）にあらかじめ提出しなければならない。

- (1) 入場の日時
- (2) 学校園等の名称、住所及び代表者氏名
- (3) 入場者の予定人員
- (4) 引率責任者の氏名
- (5) その他教育委員会が必要と認める事項

(社会福祉施設の教職員等の観覧料及び特別の展示に係る観覧料)

第3条 次の各号に掲げる法律に基づき設置された社会福祉施設の入所者及び入所者を引率した職員が博物館に入場しようとするときは、当該入所者及び入所者1名につき1名の職員の観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

- (1) 生活保護法（昭和25年法律第144号）
- (2) 児童福祉法（昭和22年法律第164号）
- (3) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）
- (4) 知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）
- (5) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）
- (6) 老人福祉法（昭和38年法律第133号）
- (7) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成17年法律第123号）

2 前項の観覧料及び特別の展示に係る観覧料の免除を受けようとするときは、社会福祉施設の長は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに教育委員会にあらかじめ提出しなければならない。

ない。

- (1) 入場の日時
- (2) 社会福祉施設の名称、所在地及び代表者氏名
- (3) 施設の設置根拠となる法律の名称
- (4) 入場者の予定人員
- (5) 引率責任者の氏名
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

3 次の各号に掲げる法令の規定による手帳等の所持者及びその介護者が博物館に入場しようとするときは、当該所持者及び所持者1名につき1名の介護者の観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

- (1) 第1項第3号に掲げる法律の規定による身体障害者手帳
- (2) 第1項第5号に掲げる法律の規定による精神障害者保健福祉手帳
- (3) 知的障害者福祉法施行令（昭和35年政令103号）の規定による判定書
- (4) 原子爆弾被害者に対する援護に関する法律（平成6年法律第117号）の規定による被爆者健康手帳
- (5) 戦傷病者特別援護法（昭和38年法律第168号）の規定による戦傷病者手帳

(大阪市内在住者の観覧料の特例及び特別の展示に係る観覧料)

第4条 大阪市内在住の65歳以上の市民で本市発行の健康手帳又は敬老優待乗車証等を所持している者は、観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

2 前項の規定にかかわらず、特別の展示にかかる観覧料については、その展示毎にあらかじめ教育委員会の承認を得て定める。

(大阪市施策による観覧料及び特別の展示に係る観覧料の特例)

第5条 大阪市の発行する以下のものを所持している者は、観覧料を免除する。

- (1) 児童委員証
- (2) 青少年指導員証、青少年福祉委員証
- (3) 地域振興会・赤十字奉仕団特別入場券
- (4) 生涯学習推進員証
- (5) 大阪市立ミュージアム御招待証（ふるさと納税寄付者）
- (6) 成人の日記念事業施設招待券
- (7) 博物館・美術館・特別入場施設案内&パスの入場券（(財)大阪国際交流センター発行）

2 大阪市の発行する以下のものを所持している者は、特別の展示に係る観覧料を免除する。

- (1) 児童委員証
- (2) 青少年指導員証、青少年福祉委員証

- (3) 地域振興会・赤十字奉仕団特別入場券
- (4) 生涯学習推進員証
- (5) 博物館・美術館・特別入場施設案内&パスの入場券（(財)大阪国際交流センター発行）

ただし、特別の展示に係る観覧料のうち博物館と他者との共催で特別な展示を行う場合は除く。

第6条 次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除することがある。

- (1) 市政に関する相互交流等のため、博物館を視察するとき
- (2) 団体観覧の事前調査のため、博物館を視察するとき
- (3) その他特別な事由により、教育委員会が必要であると認めるとき

2 前項の観覧料及び特別の展示に係る観覧料の免除を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに教育委員会にあらかじめ提出しなければならない。

- (1) 入場の日時
- (2) 団体等の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地
- (3) 視察の目的
- (4) 入場者の予定人員
- (5) 視察する者の代表者の氏名
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

(貸出料)

第7条 次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、館藏品等の貸出料を免除することがある。

- (1) 博物館法に基づく登録博物館、博物館相当施設及び博物館類似施設に貸し出すとき
- (2) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に係ることを目的とするとき
- (3) 学校の教育又は研究所の研究に使用することを目的とするとき
- (4) 報告書又は学会誌等において学術調査又は研究の成果を公表することを目的として使用するとき
- (5) その他特別な事由により、教育委員会が必要であると認めるとき

2 前項の貸出料の免除を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、使用の7日前までに教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 博物館資料の名称
- (2) 申請者の氏名及び住所（団体にあつては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- (3) 使用の目的

- (4) 貸出期間
- (5) その他教育委員会が必要と認める事項（使用料）

第8条 次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、規則別表第1及び規則別表2に規定する使用料を減額又は免除することがある。

- (1) 指定管理者が実施する博物館の事業と関連を有する講演会、講習会その他で、教育委員会が学術振興又は普及教育等に資すると認める行事に使用するとき
- (2) 美術館事業を行う指定管理者がNPO又は市民グループと連携を図る事業で、教育委員会が必要であると認める行事に使用するとき
- (3) 博物館法施行規則（昭和30年文部省令第24号）第1条の規定に基づく博物館実習に使用するとき
- (4) その他特別な事情により、教育委員会が必要であると認めるとき

2 前項の使用料の減額又は免除を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、使用する日の7日前までに教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 使用の日時
- (2) 申請者の氏名及び住所（団体にあつては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- (3) 使用の目的
- (4) 使用する施設及び附属設備
- (5) 入館者の予定人員
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

附則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附則

この要綱は、平成18年10月1日から施行する。

附則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

附則

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

決 裁 欄	課 長	担当係長	係 員
	課 長	課長代理	係 員

自然史博物館観覧料減免申請書

平成 年 月 日

大阪市教育委員会
教 育 長 様

申請者 所在地
名 称
代表者
引率責任者
電 話

下記により観覧いたしますので、観覧料を免除して下さるよう申請します。

記

観覧日時	平成 年 月 日 () 時 分～	
学年	年生 または 歳児	
観 覧 人 員	児童・生徒 その他	
	引率者 介護者	
	合 計	
申請理由	大阪市立自然史博物館条例第14条及び同規則第4条による。	
備考（施設の設置根拠となる法律の名称等）		

○博物館実習生の受入れに関する運用方針

大阪市立自然史博物館
制定 平成7年2月1日
改訂 平成13年4月1日
改訂 平成23年1月1日

(目的)

1. この運用方針は、博物館法施行規則第1条の規定に基づく、大学からの博物館実習生受入れについて、一定の規制基準をもうけ、当館の業務に支障のない範囲において受入れることを目的とする。

(受入れの規制)

2. 受入れの時期は夏期（7月～9月）・秋期（10月～11月）・冬期（12月～1月）の期間中とし、一人当りの実習日数は5日以内で、当館が指定する。
3. 受入れ人数の総数は、年間30名程度とする。ただし、一大学について5名以内とする。
4. 受講資格は、理科系・文科系を問わないが、大学において生物学または地学関係の教科を履修し（一般教養でも可）、その単位を取得している者に限る。

(実習の内容)

5. 実習の内容は、①一般実習コース、②普及教育専攻コースにわけて実施する。
 - ①一般実習コースは、当館の概要説明、展示・施設見学、標本・資料の整理、並びに普及行事の補助など、博物館の事業全般についての内容とする。
 - ②普及教育専攻コースは、当館の特色である多様な普及行事の実施にあたって、企画・運営・まとめなどに参画する内容とする。

(受入れの願書)

6. 博物館実習生受入れの依頼をする大学は、教務係または博物館学の担当教官が、当館での実習を希望する学生を集約した上で、希望する時期・コースおよび希望者名を記した内諾何文書を、当該年度の4月1日から当該年度の募集要項で指定する4月の期日までの間に、当館の博物館実習担当者宛に提出すること。
なお、学生個人からの依頼は受付けない。

(受入れの諾否)

7. 当館では上記の依頼について審査し、日程等を決定の上、5月中に諾否を回答する。

(その他)

8. 大学において自然史に関係する分野を専攻し、当館においてその関連実技の習得を内容とした実習を受けようとする学生については、当館の当該分野の研究室または学芸員の応諾があれば、上記とは別に受入れることがある。

○建物並びに館内展示室の写真撮影等に関する運用方針について

大阪市立自然史博物館
 制 定 昭 51. 12.
 改 正 昭 54. 7.
 最近改正 昭 62. 12.

(目的)

- 1 この運用方針は、建物並びに館内展示室の写真・テレビ撮影等（以下「撮影等」という。）について一定の規制基準をもうけ、観覧者の利便と展示資料の損傷防止をはかることを目的とする。

(撮影等の規制)

- 2 個人使用を目的とした撮影等は、入園入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料の損傷にならない限り規制しない。
- 3 純然たる商業目的で撮影等をする場合は禁止する。ただし、当館の社会教育施設としての普及、宣伝に十分効果があると認められる場合はこの限りでない。

(撮影等の許可願)

- 4 前項ただし書き、ならびに大型機材等（照明装置、テレビカメラ等）を使用する場合は、別紙様式により届出、許可を受けなければならない。

(許可条件)

- 5 前項により許可を受けた者は、次の条件を遵守しなければならない。
 - (1) 入園、入館者のさまたげにならず、かつ、建物、展示資料を損傷させないこと。
 - (2) 撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限ること。
 - (3) 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。
 - (4) 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。
 - (5) その他詳細については、当館と打ち合わせすること。

(その他)

- 6 当館が提供する資料等の使用についても、この方針を適用する。

テレビ・ラジオ等取材願

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館館長 様

法人・団体名
 所在地
 電話番号
 担当者 (印)

日時	平成 年 月 日 () 時 分 ~ 時 分
場所	
目的	
参加人数	
番組名	
放送日時	平成 年 月 日 () 時 分 ~
タイトル	

・取材をご希望される方は、上記該当箇所をご記入の上、日程は担当学芸員又は総務課の広報担当と打ち合わせをしてください。

・番組内容につきましては、基本情報確認のため、台本の段階で、総務課広報宛にFAX・メールでお送りください。放送いただいた場合は、お手数ですが、テープ・CD等を一部お送りください。

写真撮影願

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館館長 様

法人・団体名
 所在地
 電話番号
 担当者 (印)

日時	平成 年 月 日 () 時 分 ~ 時 分
撮影場所	
目的	
備考	

・写真撮影をご希望される方は、上記該当箇所をご記入の上、日程は担当学芸員又は総務課広報担当と打ち合わせをしてください。写真の使用は、記載いただいた目的のみとさせていただきます。他の使用はできませんので、ご了承ください。

○外部研究者の受入れに関する要綱

大阪市立自然史博物館
制 定 平成12年4月1日
最近改正 平成25年4月1日

(目的)

第1条

自然史科学及び博物館学の発展に寄与するため、大阪市立自然史博物館（以下「当館」という）の設備及び収蔵資料の外部研究者による利用を促進する要綱を定める。

ただし、「博物館実習」単位取得のための利用、及び就業体験（インターンシップ）のための利用については別に定める。

(定義)

第2条

当館の外部研究者とは、以下に掲げる者とする。いずれも自然史科学、博物館学及びその周辺分野の研究を目的とする者でなければならない。

(1) 一時利用者

研究上の目的で、館内の設備及び収蔵資料を一時的に利用する者。

(2) 長期利用者

継続的に当館を利用する研究者で、次の各号に掲げる者。

・ 外来研究員

大学、研究機関、教育機関、博物館などで当該分野に関する研究歴を持つ者、または学会で当該分野における研究実績が認められる者。

・ 研究生

大学卒業論文作成年次の学生、大学院生、一般社会人などで、当館の設備及び収蔵資料などを利用した研究を、当館学芸員の指導の下に行なおうとする者。

(期間)

第3条

長期利用者の利用期間はそれぞれ次の通りとする。

(1) 外来研究員

原則として毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間。

(2) 研究生

研究計画に必要と認められる期間。

(手続き)

第4条

手続きについては次のとおりとする。

(1) 一時利用者

一時利用を希望する者は、予め担当学芸員

(利用しようとする資料または設備を管理する学芸員) から内諾を得た上、利用当日、受付において申し出て、所定の利用票(様式1)に記入する。

(2) 長期利用者

研究生を希望する者は、所属機関の長または指導教官を通じて、所定の書式により、利用申請書(様式2、大学生・大学院生は推薦書1通を添付)を館長あてに提出する。

外来研究員を希望する者、及び機関に所属しない者については、直接の申請ができることとする(様式3)。

申込み期限は利用開始の前々月15日とする(外来研究員については前年度2月15日)。

(許諾)

第5条

前条の申し込みについての諾否は、研究履歴、研究実績、研究計画に基づき、館内の学芸員による選考委員会の審議を経て、館長が決定する。

(経費)

第6条

当館は、外部研究者の施設使用に対して、経費を徴収することはしない。ただし、高額を要する一部機器の運用経費、消耗品費等については受入担当者で協議の上、館長が決定する。

(報告)

第7条

長期利用者は、研究期間終了後、速やかにその研究状況及び成果を記載した研究成果報告書を館長に提出しなければならない(様式4)。報告書については電子ファイルの提出が望ましい。

(成果)

第8条

外部研究者が研究成果を発表する場合は、当館の設備や収蔵資料を利用した旨を明記しなければならない。また、印刷発表後は、すみやかに当該印刷物またはその複写物を館長に提出しなければならない。

(変更・中止)

第9条

長期利用者が研究計画の変更を生じ、利用を中止する場合は、すみやかに館長に届け出なければならない。

(損害賠償)

第10条

外部研究者が当館に損害をかけた場合は、損害の一部または全部を賠償させることがある。

(資格の取消し)

第11条

外部研究者がこの要綱に定められた事項を遵守しない場合、あるいは外部研究者としてふさわしくない事態が生じた場合には、館長はその資格を取り消すことができる。

付 則

この要綱は、平成12年4月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成25年2月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

様式1

No. _____

大阪市立自然史博物館 研究設備・機器、収蔵資料
一時利用票

本票は当館の「外部研究者受入れに関する要綱」に基づき、当館の研究設備・機器あるいは収蔵資料の一時的な利用について、予め担当学芸員の内諾を得た者が、当日受付において配布を受けるものです。記入の上、担当学芸員に提出してください。

利 用 日	平成 年 月 日					
目 的						
利用する設備・機器、 収蔵資料						
利 用 者	氏 名	所 属 また は 住 所				電話連絡先
担当学芸員名						

決 裁	館 長	副 館 長	管理課長	学芸課長	庶務係長	係 員	学 芸 員

様式2

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館長 様

(所属機関の長または指導教官)
 所 属 機 関 _____
 所 在 地 _____
 電 話 _____
 職 名 _____
 氏 名 _____ 印
 E-mail _____

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 (○で囲む)
研究 者	所属部局(教室)、職名(学年)、電話連絡先、E-mail
	氏 名
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する 設備・機器、 収蔵資料	
研究歴・ 所属学会	

様式3

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館長 様

(本人)
 住 所 _____
 電 話 _____
 氏 名 _____ 印
 E-mail _____

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 (○で囲む)
研究課題	
利用期間	
実施計画	
使用する 設備・機 器、収蔵 資料	
研究歴・ 所属学会	

様式4

大阪市立自然史博物館 長期利用研究成果報告書

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館長 様

(本人)
 住 所 _____
 電 話 _____
 氏 名 _____

貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」に基づき、研究成果を下記の通り報告いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 (○で囲む)
研究課題	
利用期間	
実施結果	
公表された 報文等 (書式は 館報のリ ストになら ず)	

○大阪市立自然史博物館科学研究費補助金等
事務取扱要綱

制 定 平成25年4月1日
最近改正 平成27年3月25日

(趣旨)

第1条 大阪市立自然史博物館（以下「当館」という。）における文部科学省および独立行政法人日本学術振興会の科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金）（以下「科研費」という。）の取扱いについては、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律179号）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号）、科学研究費補助金取扱規程（昭和40年文部省告示第110号）、独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業（科学研究費補助金）取扱要領（平成15年10月7日規程第17号）、独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）取扱要領（平成23年4月28日規程第19号）に定めるもののほか、この要綱の定めるところによる。

また、科研費と同じく外部委任経理金となる研究資金については、当該研究資金に係る法令・規定等に定めるもののほか、この要綱に定めるところによる。

(定義)

第2条 この要項において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 最高管理責任者 館長
- (2) 統括管理責任者 学芸課長
- (3) 事務責任者 総務課長
- (4) コンプライアンス推進責任者 学芸課長代理
(または相応の職の者)
- (5) 研究者 当館において研究に携わる者（職員、及び外来研究員等）をいう。
- (6) 直接経費 科研費の事業の遂行に必要な経費及び研究成果のとりまとめに必要な経費をいう。
- (7) 間接経費 科研費の補助事業の実施に伴う研究機関における管理事務・研究環境の整備等に必要な経費をいう。

(責任と権限)

第3条 当館における科研費等を適正に運営及び管理するため、最高管理責任者、統括管理責任者、事務責任者、及びコンプライアンス推進責任者は以下の責任と権限を有する。

- (1) 最高管理責任者は、当館全体を統括し、科研費等の運営及び管理について最終責任を負う。
- (2) 統括管理責任者は、最高管理責任者を補佐し科

研費等の管理及び運営について、全体を統括する実質的な責任と権限をもつ。

- (3) 事務責任者は、実質的に科研費等を管理する。
- (4) コンプライアンス推進責任者は、研究活動上の様々な不正行為を防止するため、コンプライアンスの推進及び研究倫理教育に関する実質的な責任と権限を持つ。

(事務)

第4条 科研費の事務については総務課の所管とする。

- (1) 経理事務、金銭出納に関すること。
- (2) 直接経費により購入する備品、図書等の調達、委託契約等に関すること。
- (3) 応募書類、交付申請書、実績報告書及び成果報告書の取りまとめ及び提出に関すること。
- (4) 説明会等の開催、その他補助金に関する相談・通報等に関すること。

(科研費の管理)

第5条 交付された科研費は、当館指定口座に預金し、統括管理責任者および事務責任者の審議・指導・助言の下、適切に管理しなければならない。

(交付前の使用)

第6条 科研費の交付内定通知のあったもの又は前年度に継続が内約されているものについては、科研費の交付前に研究計画の遂行に係る使用ができるものとする。

(直接経費の経理)

第7条 直接経費の統括管理は、統括管理責任者がこれを行う。

2 総務課は、直接経費の受払について、収支簿を備え、常に経理の内容を明確にしておかなければならない。

3 直接経費の貯金により生じた利息は、間接経費として使用する。

(間接経費の取扱い)

第8条 研究者は、交付された間接経費を当館に譲渡しなければならない。

2 総務課は、間接経費の受払について、収支簿を備え、常に経理の内容を明確にしておかなければならない。

3 間接経費を譲渡した当該研究者が他の研究機関に転出等となる場合には、直接経費の残額の30%に相当する間接経費を当該研究者に返還するものとする。

4 前項の規定に関わらず、当該研究者が新たに所属することとなる研究機関が間接経費を受け入れないこととしている場合は間接経費の返還は行わない。

(不正防止)

第9条 科研費の適正な執行を確保するとともに、研究活動上の様々な不正行為を防止するため、不正防止委員会（以下委員会という）を設置する。

2 委員会は最高管理責任者、統括管理責任者、事務責任者及びコンプライアンス推進責任者で構成する。

3 委員会は科研費の適正な執行、及び研究活動上の様々な不正行為の防止をはかるため、必要な研修を実施する。

4 最高管理責任者を議長として不正防止推進会議を設置し、科研費の執行状況などについて報告を行う。

5 不正行為又は不正行為の疑いが生じた場合は、統括管理責任者が中心となり調査を実施し、調査結果を最高管理責任者へ報告する。最高管理責任者は、必要な措置を実施する。調査手続き及び必要な措置については、別に定める規程等に従う。

不正行為を行った者の懲戒については、大阪市若しくは公益財団法人大阪市博物館協会の職員、又は当館外来研究員等に適用される関連規程等に従う。

(監査)

第10条 最高管理責任者の下に監査室を設置する。

2 監査室には公益財団法人大阪市博物館協会総務部事業企画課長及び大阪市経済戦略局博物館施設担当課長をあてる。

3 適時監査を実施し、その結果を不正防止推進会議に報告する。

(その他)

第11条 この要綱に定めるもののほか、科研費等の取扱いに関し必要な事項は、別に定める。

附則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

附則

この要綱は、平成26年11月1日から施行する。

附則

この要綱は、平成27年3月25日から施行する。

○大阪市立自然史博物館における研究活動上の不正行為又は科学研究費補助金等の不正使用に係る調査等に関する取扱規程

制 定 平成27年3月25日

(趣旨)

第1条 この規程は、大阪市立自然史博物館（以下「当館」という。）における研究活動上の不正行為若しくは科学研究費補助金等の公的研究費の不正使用、又はそれらの疑いが生じた場合の調査等に関し必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規程において「公的研究費」とは、科学研究費補助金、若しくはその他の補助金、又は委託費等を財源として当館で扱うすべての研究経費をいう。

2 この規程において「研究者等」とは、当館において研究に携わる者（職員、並びに外来研究員等）、及び当館の公的研究費の運営及び管理に関わるすべての者をいう。

3 この規程において「最高管理責任者」、「統括管理責任者」、及び「事務責任者」とは、大阪市立自然史博物館科学研究費補助金等事務取扱要綱にそれぞれ定める者をいう。ただし、これらの者がやむを得ない事情によりこの規程に定める職務を遂行できない場合は、相応の責任を有する者がそれらを代行できるものとする。

4 この規程において「不正行為」とは、次に掲げるものとする。ただし、故意によるものではないことが根拠をもって明らかにされたものについては、不正行為にはあたらない。

(1) 研究費の不正使用 架空請求に係る業者への預け金、実体を伴わない旅費、給与又は謝金の請求等をはじめとして、研究費を配分した機関が定める規則や当館の関連規程等、又は法令等に違反した公的研究費の使用をいう。

(2) 研究活動上の不正行為 次に掲げるものをいう。

ア 捏造 データや結果を偽造すること。

イ 改ざん データや結果を真正でないものに変造すること。

ウ 盗用 他の研究者のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語等を当該研究者の了解若しくは適切な表示なく流用すること。

(不正行為に関する通報)

第3条 不正行為の通報窓口（以下「通報窓口」という。）は、総務課に設置する。

2 不正行為（不正行為の疑いを含む。以下この条から第6条までにおいて同じ。）があると思料する者は、前項に規定する通報窓口に通報及び情報提供（以下「通報」という。）するものとする。

3 当館の職員が自らの職務において不正行為を知り得たときは、前項と同様に取り扱うものとする。

4 通報窓口は、原則として通報した者（以下「通報者」という。）の氏名、所属、住所等並びに研究者等の不正行為の態様及び内容、また研究活動上の不正行為にあってはこれらに加えて科学的合理性に基づく理由が明示されたものを受け付けるものとする。ただし、通報者はその後の調査において氏名の秘匿を希望することができるものとする。この場合において、当該通報者に対しての本規程に規定する通知及び報告は通報窓口を通じて行うものとする。

5 通報窓口は、匿名による通報があったときは、研究者等の不正行為の態様及び内容、また研究活動上の不正行為にあってはこれらに加えて科学的合理性に基づく理由が明示され、かつ、証拠書類等の添付により相当の信憑性があると思われる場合に限り、受け付けるものとする。この場合において、当該通報者に対しての本規程に規定する通知及び報告は行わないものとする。

(報告等)

第4条 通報窓口不正行為に関する通報があったときは、窓口担当者は統括管理責任者に、統括管理責任者は最高管理責任者に速やかにその旨を報告しなければならない。

2 最高管理責任者は、前項の報告に係る事案について予備調査が必要であると認めるときは、統括管理責任者、事務責任者又はそれらに代わる者（以下「責任者等」という。）に予備調査を行わせることができるものとする。

3 関連する責任者等は、最高管理責任者から予備調査を行うよう指示があったときは、当該通報の信憑性等について調査するものとし、指示を受けた日から14日以内にその結果を最高管理責任者に報告するものとする。

4 最高管理責任者は、第1項及び前項の報告に基づき、通報の受付から30日以内に通報の内容の合理性を確認の上、調査の要否を判断するとともに、当該調査の要否を関係機関に報告するものとする。

5 最高管理責任者は、前項の規定に基づき、調査を実施することを決定したときは、調査の開始を通報者に通知するものとし、調査を実施しないときは、調査しない旨をその理由と併せて通報者に通知するものとする。調査を実施しない決定に対して、通報

者が予備調査に係る資料等の開示を求めた場合は、最高管理責任者はこれに応じるものとする。

- 6 不正行為が行われようとしている、又は不正行為を要求されているという通報の場合は、最高管理責任者はその内容を確認及び精査した上で、通報対象となった研究者等に警告を行うものとする。

(調査委員会)

第5条 最高管理責任者は、前条第5項において調査の実施を決定したときは、調査対象の研究者等（以下「対象研究者等」という。）にその旨を通知するとともに、不正行為に係る調査委員会（以下「委員会」という。）を設置し、委員会の委員構成が確定した段階で速やかに事実関係を調査させなければならない。

- 2 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 統括管理責任者
- (2) 最高管理責任者が指名する職員 若干名
- (3) 最高管理責任者が指名する外部の専門家 若干名

- 3 前項第3号の委員は、当館、通報者、又は対象研究者等と直接の利害関係を有しないものでなければならない。

- 4 研究活動上の不正行為を調査する場合は、第2項第3号の委員は全委員の半数以上となるようにしなければならない。

- 5 委員会に委員長を置き、第2項第1号の委員をもって充てる。

- 6 研究活動上の不正行為を調査する場合は、最高管理責任者は調査の開始前に、委員会の委員の氏名や所属を通報者及び対象研究者等に示すものとする。この提示から14日以内に、通報者及び対象研究者等は委員会の委員構成について異議申立てをすることができる。

- 7 最高管理責任者は、前項の異議申立てがあったときは、最高管理責任者の判断により委員を交代させることができるものとする。

- 8 最高管理責任者は、前2項の異議申立てから原則として14日以内に当該申立てに対する決定を行い、通報者及び対象研究者等に通知する。ただし、委員の選任に時間がかかる等やむを得ない場合は、通報者及び対象研究者等に通知のうえ決定までの期限を延長することができる。

- 9 異議申立てをした者は、前項の決定に対して、再度異議申立てをすることはできない。

(守秘義務)

第6条 委員会の構成員その他本規程に基づき不正行

為の調査に関与した者は、その職務に関し知り得た情報を他に漏らしてはならない。

(調査の実施)

第7条 委員会は、不正行為の有無、不正行為の内容、関与した者及びその関与の程度、研究費の不正使用の相当額等について調査するものとする。

- 2 委員会は、調査の実施に際し、調査方針、調査対象、調査方法等について関係機関に報告し、又は協議しなければならない。

- 3 委員会は、対象研究者等に対し関係資料の提出、事実の証明、事情聴取その他調査に必要な事項を求めることができる。

- 4 委員会は、関連する責任者等に対し、調査協力や証拠資料の保全等適切な対応を指示することができる。

- 5 委員会は、必要に応じて、対象研究者等に対し調査対象制度の公的研究費の使用停止を命ずることができる。

- 6 通報者は、悪意（対象研究者等を陥れるため、又は対象研究者等が行う研究を妨害するためなど、専ら対象研究者等に何らかの損害を与えることや当館に不利益を与えることを目的とする意思をいう。以下同じ。）に基づく通報であることが判明しない限り、単に通報したことを理由として、人事、給与、又は研究上のいかなる不利益な取扱いも受けない。

- 7 対象研究者等は、相当な理由なしに、単に通報がなされたことのみをもって、人事、給与、又は研究上のいかなる不利益な取扱いも受けない。

- 8 通報によりその対応に当たるすべての者は、通報者、対象研究者等その他当該調査に協力した者の名誉及びプライバシーが侵害されることのないよう十分配慮しなければならない。

(調査への協力等)

第8条 対象研究者等は、委員会による事実の究明に協力するものとし、虚偽の申告をしてはならない。退職後においても同様とする。

(意見聴取)

第9条 委員会は、裁定を行うに当たっては、あらかじめ対象研究者等に対し、調査した内容を通知し、意見を求めるものとする。

- 2 対象研究者等は、前項の調査内容の通知日から30日以内に委員会に意見を提出することができるものとする。この場合において、対象研究者等から意見の提出があったとき又は意見がない旨の申し出があったときは、委員会は、30日を経過する前であっても次条に規定する裁定を行うことができる。

(裁定)

第10条 委員会は、調査に基づき、不正行為の有無について裁定を行い、第7条第1項に定める各項目の調査結果（裁定を含む。以下同じ。）を、調査の実施決定から120日以内に最高管理責任者に報告しなければならない。

2 最高管理責任者は、前項の報告に基づき、対象研究者等に対し、調査結果を速やかに通知するものとする。

（異議申立て）

第11条 対象研究者等は、前条第2項の調査結果の通知日から14日以内に最高管理責任者に異議申立てを行うことができるものとする。

2 最高管理責任者は、前項の異議申立てがあったときは、最高管理責任者の判断により委員会に対し、再調査の実施を指示することができるものとする。この場合において、異議申立ての趣旨が委員会の構成等その公正性に関するものであるときは、最高管理責任者の判断により委員会の委員を変更することができるものとする。

3 前項の再調査の指示があったときは、委員会は速やかに再調査を開始し、再調査の指示から30日以内にその結果を最高管理責任者に報告するものとする。

4 最高管理責任者は、前項の報告に基づき、異議申立てに対する決定を行い、その結果について異議申立てをした者及び委員会に通知するものとする。

5 最高管理責任者は、再調査を実施しないことを決定したときは、再調査をしない旨をその理由と併せて異議申立てをした者及び委員会に通知するものとする。

6 異議申立てをした者は、前2項の決定に対して、再度異議申立てをすることはできない。

（調査結果の報告）

第12条 委員会の委員長は、第10条による調査結果の通知後、対象研究者等から異議申立てがなく、その内容が確定したとき、又は前条第2項による異議申立てに対し、同条第4項若しくは第5項の決定が行われたときは、最終報告書を作成し、関連資料を添えて速やかに最高管理責任者に提出しなければならない。

（措置）

第13条 最高管理責任者は、前条による報告に基づき、その調査結果を通報者、対象研究者等、関連する責任者等に通知するとともに、関係機関に対しては、原則として通報の受付から210日以内に、不正行為の発生要因、不正行為に関与した者が関わる調査対象制度以外の公的研究費の管理監査体制の状

況、再発防止策等必要事項を加えて報告しなければならない。

2 最高管理責任者は、調査の過程であっても、不正行為の事実が一部でも確認された場合には速やかに認定し、関係機関へ報告しなければならない。

3 前2項のほか、関係機関の求めに応じ、調査の終了前であっても、調査の進捗状況を報告し、又は中間報告を提出しなければならない。

4 最高管理責任者は、前3項による報告の結果、当該関係機関から研究費の不正使用に係る公的研究費の返還命令を受けたときは、対象研究者等に当該額を返還させるものとする。

5 不正行為の内容に応じて、最高管理責任者は大阪市、公益財団法人大阪市博物館協会、又は関係行政機関等に対して、報告又は告発することも検討しなければならない。

6 対象研究者等の処分については、前項の手続きを経て当該対象研究者等に適用される関連法令、又は規程等に委ねるものとする。

7 最高管理責任者は、前条による報告に基づき、不正行為が認められなかったときは、必要に応じて通報者及び対象研究者等への不利益発生を防止するための措置を講ずるものとする。

8 最高管理責任者は、調査に支障がある等、正当な事由がある場合を除き、関係機関から求めがあった場合には、当該事案に係る資料の提出、閲覧、又は現地調査に応じるものとする。

9 最高管理責任者は、研究活動上の不正行為があったと裁定され、かつ必要と認められる場合は、その不正行為に係る論文等について取り下げの勧告を行うものとする。

（悪意に基づく通報）

第14条 調査の結果、通報者が悪意に基づく通報を行ったことが判明した場合は、本規程に定める対象研究者等の不正行為の調査に係る意見聴取及び異議申立ての機会付与と同じ手続きを経て、その裁定、通知及び措置を通報者に対して行うものとする。

2 最高管理責任者は、前項の手続きを経て通報者が悪意に基づく通報を行ったと認めた場合は、通報者が所属する機関又は関連行政機関等に対しての報告又は告発を行うことができるものとする。

（調査結果の公表）

第15条 最高管理責任者は、前2条の規定による措置のほか、不正行為又は悪意に基づく通報があったと認められたときは、合理的な理由のため不開示とする必要があると認めた場合を除き、速やかに調査結果を公表するものとする。この場合において、公

表する内容は、氏名を公表することを基本とするとともに、その他の情報についても特に不開示とする必要があると認められる場合を除き、公表するものとする。

- 2 最高管理責任者は、調査事案が館外に漏洩していた場合及び社会的影響の大きい重大な事案の場合については、必要に応じて当該調査の途中であっても中間報告として公表することができるものとする。

(委員会の事務)

第16条 委員会に関する事務は、総務課で行う。

(雑則)

第17条 この規程に定めるもののほか、調査等の手続きに関し必要な事項は、別に定める。

- 2 不正行為に係る調査を他の研究機関等と合同又は連携して行う必要がある場合は、当該研究機関及び関係機関と協議のうえ、事案の内容等に応じて本規程とは別の定めをすることができる。

附則

この規程は、平成27年3月25日から施行する。